

Wings

塚本学院校友会誌ウイングス
Number 46
January.2025



塚本学院校友会
設立55周年記念式典

2024年11月23日
シェラトン都ホテル大阪

Wings Index

塚本学院校友会誌Wings

役員会報告 1

会長挨拶 2

塚本学院校友会設立55周年 記念式典 3
2024年11月23日 シェラトン都ホテル大阪



あそこ、あの場所で、
アルバムに残された青春 **Part 5** 8

卒業生が働く会社訪問
心地よい暮らしと癒やしの空間を香りで提供 12
晴香堂株式会社

工房訪問 Vol.3 16
OriOri 洲崎 英美さん

シガラキ・シェア・スタジオ 18
杉山 道夫



スカイキャンパス 20
第1回 大阪芸術大学卒業生 作品展

ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン展覧会 24
大阪中之島美術館



まだ道の途中! 応援します卒業生。Vol.2 26
語りべ和ロック楽団「奏手候(かなでてそろろう)」



「天体と音楽」 28



神戸女子大学・神戸女子短期大学 理事長
多畑 寿城(たばた としき)インタビュー 30

映画「今日が世界のすべて」 32
世界7カ国22映画祭で公式セレクション、7つの賞を受賞。

共創デザインの可能性 34
清水 征行



関西学生
対校女子駅伝結果報告 37

奨学生の声 40

凸凹母校 活躍するOB・OG特集 42

ハガキ短信 50

書籍・CD・DVD出版 54

支部活動 開催報告 56

同窓会便り
ニューフォーククラブ 66

大阪芸術大学 建築学科
A91メンバー同窓会開催!! 68

学校便り 70

訃報 坪田政彦さんを偲ぶ 76

カーテンコール! 浜畑賢吉 学科長 77

建築家 故 狩野忠正先生の教えから 78

卒業制作のご案内 82

学びのフィールド 84

執筆等、お世話になった方々 85



塚本学院校友会
会長 福永 亮碩

ひ き こもごも
悲喜交々

年の瀬も押し迫りあわただしい日々をお過ごしのことと存じます。
2024年元旦に発生いたしました能登半島地震にて甚大な被害をもたらしました光景は今でも鮮明に覚えています。
校友会は、読売光と愛の事業団に義援金として100万円を委託し被災地の皆様に届けていただきました。同時に、校友会員の方で能登半島の被災地に居住される方を中心にお見舞いのお手紙を差し上げ現在の様子などをお伺いすることができました。少しでも今後のために役立てていただきたいと思い些少ですがお見舞金をお送りさせていただきました。また、能登半島地震に伴う災害被害に遭われた皆様で、災害救助法適用地域で被災された世帯の校友会会員の皆様には校友会のホームページにて安否確認の通知もさせていただきました。
現在も被災地の復旧・復興に向けて取り組んでおられることと存じますが、1日も早く日常生活を取り戻していただけるよう切望しています。その後も各地で地震発生のニュースが報道されるたびに心が痛み事前の備えの必要性を痛感しています。

校友会では、今年も2支部が発足し活動を始めています。大阪芸術大学放送学科同窓会支部と和歌山県支部です。支部に参加して校友の輪を広げようと思っている人はぜひ参加してください。また、会員の中でも新たに同窓会・支部の発足を考えておられる方は校友会事務局へお問い合わせください。

11月には塚本学院校友会55周年記念事業が行われ307名の会員の皆様がお集まり下さり、久しぶりに会う旧友達と有意義な時間を過ごされたことと思います。第一部の記念講演では、法隆寺の古谷管長に「聖徳太子のころ」と題してご講演をいただき、第二部では、式典・表彰式等が行われ、祝宴では卒業生による「太神楽」「河内音頭」が行われました。
次回60周年を目指して塚本学院校友会は発展してまいりますので、今後とも校友会にご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



嬉しい再会、新しい出会い
塚本学院校友会
設立55周年記念式典
2024年11月23日
シェラトン都ホテル大阪

塚本学院校友会の設立55周年を記念した行事が2024年11月23日にシェラトン都ホテル大阪にて盛大に開催されました。第一部では法隆寺の管長・古谷 正覚 師による記念講演会が行われ、第二部では式典に続き、祝宴が催されました。
久しぶりの懐かしい顔に喜び、新しい出会いも生まれた楽しい時間を過ごしていただけました。
次は60周年で、また互いに元気にお会いしましょう。

塚本学院校友会設立 55 周年
記念事業検討委員会

担当副会長	松井 公一
委員長	東陰地 正喜
副委員長	龍田 修
委 員	木下 淳史 小西 聡 下村 宗生 菅原 広司 竹垣 恵子 福留 愛生 森 博英 和田 貢
動画撮影	菅原 広司
オブザーバー	田村 昭彦
写真撮影	平松 佑介 古市 真崇

●第一部 記念公演



受付の様子



記念公演「聖徳太子のころ」



法隆寺管長 古谷 正覚 師

記紀などに残された聖徳太子にまつわるテキストを読み解きながら、その生い立ちや人となり丁寧に解説。仏教の教え、人としてのあり方など、正しく生きる姿勢を説かれました。

●第二部 式典・表彰



学校法人塚本学院専務理事
電谷 眞一 先生



卒業生代表挨拶 前田 昭博 さん



学校法人塚本学院副理事長・大阪芸術大学副学長・
大阪芸術大学短期大学部学長 塚本 英邦 先生



松井 公一 塚本学院校友会
副会長



司会・進行は放送学科 OG
吉川 奈央さん



環境デザイン学科 OB の
宝来家 玉之助さんによる太神楽



塚本学院校友会設立55周年
記念事業検討委員会
委員長 東陰地 正喜

古谷管長の講演はとてもわかりやすく、共感のできるものでした。とりわけ印象深かったのは「〈信〉の字は〈まこと〉の謂いであり、まことがあるから信じられる」という件り。はからずも、50周年記念の委員長でいらしゃった齋藤先生のお名前が出て、その偶然に縁を感じ、感慨を深くしました。

校友会献顕彰制度と 社会貢献等支援事業報告

社会貢献顕彰制度委員会 委員長 小山 保広

(1) 顕彰制度につきましては、3名の方が推薦され、11月23日(土・祝)の塚本学院校友会設立55周年記念式典において表彰式がおこなわれ各賞及び副賞が贈呈されました。

大阪芸術大学美術学科卒業の山下 浩平 様

EXPO2025 大阪・関西万博 公式キャラクターデザイン最優秀作品に選ばれました事受賞です。
当日は残念ながら欠席されました。



校友会長賞 田中 秀介さん



奨励賞 唐木 孝治さん

大阪芸術大学美術学科卒業の田中 秀介 様

令和5年度咲くやこの花賞(美術部門「現代美術」)を受賞されました。その他、平成21年にart camp2009サントリー賞、平成28年にトーキョーワンダーウォール賞、平成30年には清須市第9回トリエンナーレ準大賞を受賞するなど大活躍されています。

大阪芸術大学写真学科卒業の唐木 孝治 様

財団法人民族衣装文化普及協会伝統文化賞を受賞されました。現在は地元の長野県伊那郡に戻り、地元の俳諧師 井上井月顕彰会下伊那支部を発足させ地域の歴史・文化の保存や観光地としての発展に貢献し、活躍されています。

(2) 社会貢献等支援事業につきましては、7件の新規申請があり、審査の結果古典写真技法CP®の普及と伝承を繋ぐ「大阪芸術大学卒業生とカ・フォスカリ大学交流合同作品展」への支援1件が決定しました。

その他 昨年からの継続支援が1件あります。

●祝 宴





Next time on the 60th anniversary.

連載企画

あそこ、あの場所で、 アルバムに残された青春

Part 5

■取材・文責／企画広報委員 和田 貢
 ■資料提供／企画広報委員 竹垣 恵子
 ■写真提供／フォトスタジオトキワ



芸大で過ごした思い出の場所を、当時の写真から探訪し、あの場所は今?を探る『あそこ、あの場所で、』は5回目の連載です。1985年～1988年までの卒業アルバムからセレクトした写真をもとに『あそこ、あの場所で』に思いを馳せます。そして今回は、当時の写真から特定の場所や関連する学科をお答えいただく『あの場所探し』のクイズがあります。正解者には抽選にて、塚本学院校友会事務局から校友会オリジナルグッズをプレゼントいたします。
 ※詳しくは、この掲載誌面にて。

卒業アルバムは、在学生による『アルバム委員会』が企画、立案し、各学科ごとの授業風景や学校内でのひとコマに始まり、学科ごとに氏名と、フリーに撮影された個人写真、各クラブ活動やゼミの様子、教授の紹介写真などで構成されていました。個人情報保護法 肖像権などが厳しくなった今では、作れない希少なアルバムになっています。奈良県大和郡山市にあるフォトスタジオトキワ様の協力で製作していました。
 ※尚、印刷物からのスキャンですので、モアレや不明確な部分がありますが、ご容赦ください。



まずはアルバムが作られた1980年代の大阪をアルバムから振り返ってみましょう。

PARCO



■1877年に開店したパルコは、女性向きのファッション専門店の入った8階建てのビルで、心斎橋のソニータワービルの筋向いにありました。その後、大阪から撤退して2005年にそごう心斎橋本店とした建物に入っています。そのソニータワービルも今はありません。

Glico



■大阪のランドマーク心斎橋のグリコのサイン看板は1935年に初代としてトレードマークのランナーとグリコの文字を6色に変化させ、同時に毎分19回点滅する花模様を彩ったものでした。当時としては型破りのネオンで一躍大阪ミナミの名物となりました。1980年代は5代目でした。その後リニューアルされて、現在は6代目として照明にLED照明が採用されています。



アメ村でしょうか? 1981年に発売された初代ホンダ・シティが写っています。英国のバンドである『マッドネス』が演奏する。曲中に「ホンダ・ホンダ・ホンダ」の合いの手が入るテレビCMが話題になりました。

大阪の交通事故		
	昨日	累計
件数	134	38525
死者	2	357
傷者	156	47223

■ネットで調べたところ、1980年代の交通事故年間累計数は見つかりませんでしたが、この写真にある357人の数は、令和5年度大阪の交通白書の年間累計148人と比べて非常に多い数です。シートベルト着用義務が1985年から始まり、自動車自体も安全基準が大幅に見直されたため現在は少なくなったのでしょう。





●今はアートサイエンス学科の新校舎が建っている場所は駐車場になっていました。リッチな学生が多かったのか車通学の生徒も沢山いました。100台規模の場所でしたが、いつも満車状態で、駐車のために朝イチから来て場所確保をしている学生もいました。当初は誰でも自由に駐車できたのですが、70年後半より駐車場使用の許可証が必要になり、坂の登り切った所に守衛BOXがありました。奥に今は無くなった0号館が見えます。その後、バスが校内まで来るようになってからは、学生用の駐車場はなくなりました。



●自転車置場も満車状態です。近隣に寮や1か月1万円～2万円クラス(当時)の風呂無しトイレ共同、1部屋ミニキッチン付きのような、学生向けの賃貸アパートが沢山有りましたので、自転車やバイク通学も多く、近隣の古市や富田林などからの通学も多く、土師ノ里や藤井寺から自転車を通う猛者もいました。古市や道明寺は学生村と呼ばれていました。

1980年代の国内では

- 500円硬貨発行・テレホンカード発売(1982年)
- 東京ディズニーランド開園(1983年)・任天堂から家庭用ゲーム機「ファミリーコンピュータ」発売(1983年)
- 「1万円札福澤諭吉」「5千円札新渡戸稲造」「千円札夏目漱石」に(1984年)
- 日本プロ野球の阪神タイガースが球団設立51年目に日本一に輝く(1985年)



●今も昔も変わらないモノ！変わってしまったモノ！消滅せずにカタチを変えて残っています。



塚本学院校友会(2024年度)読者プレゼント企画

『あのときの、この場所はどこ??』

1980年代のアルバムで撮られたこの場所はどこ?

正解者には抽選で校友会オリジナル商品が当たります。



①



②

① wings オリジナルタオル

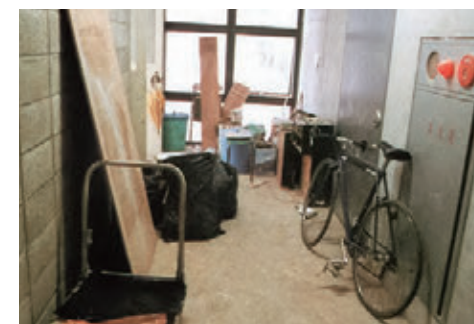
② 塚本学院校友会オリジナル小物入れとストラップ 抽選で各10名様

問題

①から⑥までの写真が撮影された場所、または関係している学科、クラブなどを答えて下さい。答は1問につき複数あると思いますが、ひとつ当てはまれば正解です。当選は6問中2問正解の方より抽選で、商品の発送をもってかえさせていただきます。答は2025年4月以降の校友会Webと次号で発表いたします。応募方法は下記へ↓



③



④



①



⑤



⑥



②

■応募方法

※『あのときの、この場所はどこ??』の回答はwingsに同封の通信ハガキ(通信欄)にまたは市販のはがきに答と住所・氏名・年齢・塚本学院の卒業学校名・卒業学科を添えてお送りください。また、皆さまからの『あの頃の写真』も募集しています。写真にエピソードなど添えて、校友会事務局まで、お送りください。(メール可) 随時取材させていただきます。

塚本学院校友会事務局 『あこのころ、あの場所で』係宛
〒546-0023 大阪市東住吉区矢田2-14-19
E-mail : tgkouyukai-3@giga.ocn.ne.jp

心地よい暮らしと癒しの空間を香りで提供

■取材・文責／企画広報委員 和田 貢 ■撮影／企画広報委員 菅原 広司



左から豊田 暁さん、才村 永さん、中村 寧音さん、三上 晶さん

今回卒業生が働く会社訪問で、ご紹介する晴香堂株式会社は1970年創業の自動車用芳香剤・消臭剤、ケミカル用品、室内用芳香剤・消臭剤などの企画開発、製造・販売を業種とした「香り」を基点に事業展開している企業です。特筆すべきは製品の企画や開発を行う部門（企画部製品開発課）の所属従業員30名中（2024年9月4日現在）半数以上の23名が大阪芸術大学（大学院含む）の卒業生です。30年前の初採用から現在までに、57名の大阪芸大の卒業生を採用しています。そこで多数の芸大生を採用している経緯や、卒業生が関わる仕事などのお話を、代表取締役の岡本 光晴さんと常務取締役の岡本佳世子さん、卒業生で企画部次長の豊田 暁さん、企画部製品開発課所属の3名、才村 永さん、中村 寧音さん、三上 晶さんに伺ってきました。

—— 本日はお忙しいところお時間をいただきまして、ありがとうございます。まず、卒業生たちが働く晴香堂株式会社の概要と現状をお話し願えますか？

岡本社長：弊社は私の父、岡本慶治が1957年に創業した「岡本農園」が始まりでした。農業主体での限界を感じ、樹脂製ボタン、化粧品容器および電気器具の組立てなどを手掛けながら称号を変更し、1984年に新社屋と第一工場が完成した事をきっかけに「オカモト産業株式会社」に社名を変更、自動車芳香剤の製造販売を始めました。2017年には「晴香堂株式会社」に社名を変更、現在に至っております。当初、商品のデザイン等は外部の制作会社に依頼していましたが、時代とともに、移動手段での車のニーズがカーライフをエンジョイする時代になりつつあり、エクステリアやインテリアに、こだわりを持ち、車内の装飾や香りに個性を求めるユーザーが増えた結果、他社製品との比較や香りの差別化など独自

晴香堂株式会社 企画部 製品開発課の皆さん 左から
企画部次長
豊田 暁さん
大阪芸術大学 デザイン学科 インダストリアルデザインコース
(1996年度卒業)
才村 永さん
大阪芸術大学 デザイン学科 インダストリアルデザインコース
(2003年度卒業)
中村 寧音さん
大阪芸術大学 アートサイエンス学科
(2022年度卒業)
三上 晶さん
大阪芸術大学 デザイン学科 プロダクトデザインコース
(2019年度卒業)

性が求められるようになり、製品コンセプトの大切さを実感、社内で人材を育成し、製品開発を進めようと決心しました。



代表取締役 岡本 光晴さん

商品としては自動車用芳香剤・消臭剤と洗車用品の「CARALL（カーオール）」、家庭用芳香剤・消臭剤を扱う「Jupia（ジュピア）」、雑貨としてインテリア性を高めた芳香剤「HARUKADO（ハルカドウ）」、ドイツ社製カーケア商品の「SONAX（ソナックス）」の4つの主力ブランドを展開しています。

—— 企画部で沢山の芸大生を採用されていますが、どのような経緯で大学とお付き合いが始まったのでしょうか？

岡本常務：企画として最初の採用者は職業安定所からでした。その後、近畿圏の工芸、美術、デザインなど芸術系の学校から募集ができないかと思い、手探り状態でしたが、まずは思い切って飛び込みで、大阪芸術大学へ行ってみました。当時の就職担当の方とのご縁で、紹介していた



だいたのが始まりです。それ以来お付き合いは30年になります。

左：企画部次長 豊田 暁さん
右：常務取締役 岡本 佳世子さん

おかげさまで毎年コンスタントに卒業生を紹介していただけてます。製品の香りからパッケージや瓶のデザインまで、担当者が中心になって企画・開発を進めていますが、チームとしては設計や3Dプリンターによるモデリングなど多種多様な知識とスキルも必要となります。

豊田：晴香堂のモノづくりという部分では、良い商品を生み出すことが出来ていますが、一方でより売上を上げたり、事業を大きくするために、お客さまに、もっと晴香堂を知っていただく活動が重要になってきています。そのためにSNSやECサイトを立ち上げて運営していますが、やはり商品づくりに邁進してきた分、当社は後手でスタートしているため、そのあたりの分野が得意な人材も必要になってきています。デザイン学科の卒業生だけではなく、アートサイエンス・建築・テキスタイル（染色）・映像・放送学科からも人材を募集しています。

—— 芸術系大学からの卒業生に期待することは？

岡本社長：採用が内定した方から『入社までに何か勉強しておくことがありますか？』と、よく問われますが、『思い切り学生生活を楽しんでください』と答えています。勉強だけではなく、社会における見識を拓けてほしいと思っています。物事の本質を見抜き、判断し、考えを導き出す能力を少しでも養っていただければ、入社後、企画の仕事にとっても役立つと思います。

豊田：香りの製品に求められるお客様のニーズは多様化しており、トレンドにも流れがあります。それらのニーズやトレンドを的確に捉え、新製品の提案や開発に活かしてより良い商品を創造できるよう期待しています。晴香堂のモノづくりは、売り場の世界観をつくるプロモーションや東京で開催される展示会のブースも自分たちで考えます。幅広い能力を晴香堂で学び成長し、その力を発揮していただきたいです。

—— そのあたりも自社でまかなえるのは強みですね。それでは卒業生の皆さんにお聞きします。まず、業務の内容や今後の目標、などを教えてください。



才村：私は、もともと3D CADを使って設計を担当していましたが、今は洗車ケミカル用品のグラフィック

『ヒット商品開発賞』の製品

デザインをメインに担当しています。在学中はデザイン学科のインダストリアルデザインを専攻していました。椅子を作ったり、携帯電話のデザインをしたりと、課題を取り組む中で、モノづくりに興味を持ち始め、この会社を志望しました。



豊田：彼のプロデュースした製品が大ヒットとなり、会社から表彰されたんですよ！

—— 表彰されたのはどのような製品ですか？

才村：以前は自動車用の消臭剤の開発を担当していました。新製品を企画するにあたり、多くのお客様が快適になれるのはどんな香りなのか？と模索していた時に「せっけんの香りはどうだろう」と仮説を立ててみまし



た。せっけんの香りは誰もが抵抗感なく、心地よさや清潔感を与えてくれます。また、せっけんのイメージである「白色」はシンプルで受け入れられやすいカラーなので『これだ!』と確信しました。製品化が決定して発売すると、清潔感のあるせっけんの香りと、それをイメージさせる白のコンセプトカラーと、シンプルなデザインなど、全ての商品特長がお客様に伝わって大ヒット商品になり『ヒット商品開発賞』を受賞することができました。自分が商品をプロデュースできること、それが売り場で売られること、お客様に商品が届けられること、それを実現できる会社に入社できて良かったと感じています。

—— 次に、中村さんはどうでしょう？



中村：在学中から、世の中の人に、自分の作ったものを手に取ってもらいたい。そして役に立ちたい。そんな思いがありました。就職活動中はコロナ禍で、ほとんどの会社はオンライン説明会でしたが、晴香堂は面談にて直接やっていた時、自身が働いている姿

を想像しやすかった事もあり、思いは実現できるかもと、入社しました。私は入社3年目ですが、2年目にいきなり、ブランド立ち上げを任されました。ラベンダーの香りをメインに、オレンジ、ムスク、サボンの3つのフレグランスを加えた製品を提案しました。まだまだ新人でしたが、与えられたチャンスを活かそうと、無我夢中で取り組みました。完成までは大変でしたが、ひとつひとつ問題をクリアしながら、完成に向けてひたすら頑張りました。完成時、自社工場に立ち合いに行きました。自分がプロデュースした商品が量産されているのを見た時、また商品として値札が付いて店頭

—— まさに『On the Job Training』での成功体験ですね。三上さんがプロデュースした製品もあるのですか？

三上：はい、私もみなさんと同じです。在学中はプロダクトデザインを専攻していました。インテリア、家具を製作したり、設計や3Dプリンター実習など幅広く学びました。就職先でもモノづくりがしたい。それを念頭において就職活動をしていました。私の開発商品はトキノハナという、キンモクセイやジンチョウゲ、クチナシの花の香りのルームフレグランスで、雑貨店様向けのブランドです。ロフトさんやハンズさんでご購入できる商品で、少し高級志向のもので

す。ご自宅で使用されたり香りのギフトとしても人気があります。トキノハナの香りはお部屋以外にも楽しめる車のエアコンタイプもあります。私にとって新商品の開発に携わる上で、自社の工場が近くにあるということは、大きなメリットでした。新しいデ



ザインや素材の採用ができる、できないの判断や生産行程の打合わせが現場でできること、問いかけに対して答えがすぐに返ってくることです。そして最近では商品開発の他に商品の魅力を伝えるために、SNS活動を推進していますが、スタジオを借りて商品撮影をしたり、商品のプロモーションも自分でできるのが魅力です。私のマーケティング活動がダイレクトにお客様と繋がり、晴香堂ファンが増えてくれると嬉しいです。今はリードディフューザーがルームフレグランスの主な開発アイテムなのですが、今後は既存の主力アイテム以外の新しい商品の開発にも挑戦してみたいと思っています。

中村：私もSNSでのプロモーションを担当していますが、私たちが作った商品を手に取っていただけるきっかけづくりを発信しています。ネット上のレビューや口コミほどリアルなものはないので、SNSを通じて商品やブランドの知名度を高め、私たち晴香堂の価値を、業界を越えて知ってもらいたいと思っています。

—— 思いを受け止めて、可能性を拡げてくれる会社。これから楽しみですね！

豊田：晴香堂では、年間を通じて社内イベントがとて多く、それが社内コミュニケーションの強化につながっています。社内イベントは各部署が集まって結成する実行委員会が計画して実施しています。

—— そのあたりのエピソードなどをお聞かせください

豊田：毎年、春には「お花見」を開催します。場所や開花予想日、天気予報などを考慮して開催日を計画していますが、当日の天候や開花日のズレなどにより屋外で出来ない事がありました。その時は急遽屋内にてバーチャル社内お花見を開催しました。

—— 社内お花見？

豊田：はい。社内に桜はありません。とりあえず食堂を解放して、お花見会場の設営を行いました。しかし雰囲気が出ません。桜が欲しいなと思った時には、行動してました(笑) 企画部のスタッフでアイデアを出し合ってクオリ



部を挙げての力作！室内に見事に再現された桜。背景に溶け込んで見えない。気分が盛り上がります。

ティーの高い桜を製作できました。「必要なものはつくる」という企画部の開発力が活かされています。作業は通常の開発業務に差し支えないよう、数人のスタッフがスピーディーに協力して製作しました。さらに満開な桜を表現するために、大判プリンターで背景を製作しています。

岡本常務：社員旅行でも企画部のスキルが活かされています。

—— 話の流れから察しがつきそうです・・・

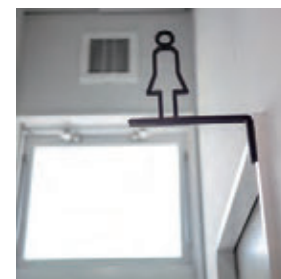
岡本常務：毎年恒例の社員旅行も先ほどの実行委員会が努めます。行先、行程、観光バスの座席割、旅館の部屋割りや旅先でのイベント、見どころなど全て、その年に担当する実行委員が企画します。なかでも社員旅行用の企画部制作のパンフレットは圧巻です。行程表はもちろん、部屋割りや見どころ、おすすめスポットなどが見やすく網羅されて、旅行代理店のものより出来が良く、社内でも好評な手作りアイテムです。

豊田：また近年、晴香堂では工場や倉庫の新設や増設を積極的に行い、生産設備機器の導入をしています。これによって生産能力や効率を向上させることができ、事業を少しずつ拡大しています。そして、新しい工場内には施設や共有スペースがあり、こういった所にも企画スタッフの感性やセンスが活かされています。

岡本常務：食堂やブレイクルームの家具や装飾品のコーディネートも企画部のスタッフで行っています。他にはロッカールームの演出です。着替えるだけの空間ですが、お洒落なプリントシートを貼って癒しの空間を演出する設えにしています。ちょっとした室内のコーディネー



味気ないロッカールームの空間へ、みんなが楽しめるような演出をしてみました。



3Dプリンターの社内有効活用 メイドイン企画部のお洒落なサインが出来上がりました。至る所に企画部スタッフのセンスの痕跡が・・・



ホールに、蝶をちりばめてハートをあしらった大型レリーフを製作



トで雰囲気は随分変わります。これらも企画部のスタッフが手作りしています。

—— 見学中、随所にお洒落な装飾を見かけましたが、殆どが企画部の手作りなんですね？

豊田：トイレのサインは企画部の3Dプリンターで作った試作品でしたが、案外マッチングしたので、そのまま設置しています。既製品よりずっと安価で超軽量です(笑)

—— 今回の卒業生が働く会社は、社員と会社が一体となって、モノづくりに取り組む企業でした。そして貴重なお話を伺えました。皆さんありがとうございました。

(企画広報委員会：和田)



晴香堂の主力商品
カーフレグランスのELDRAN(左)と
ルームフレグランスの木と果(右)



晴香堂株式会社

広く専門的な知性を深めるひと。
美しく多彩な感性を磨きつづけるひと。
お客様のことを想い、ものづくりへの情熱を持ったひととのご縁が、晴香堂の原動力になっています。
(晴香堂ホームページより)

所在地 奈良県磯城郡三宅町伴堂 413-2
事業内容 自動車用芳香剤・消臭剤、ケミカル用品、小物用品、室内用芳香剤・消臭剤の企画開発及び製造・販売
創業 昭和45年4月(1970年)
代表取締役 岡本光晴
従業員 225名

東京支店: 東京都杉並区高円寺南4丁目7-5 高円寺岡本ビル2階
仙台営業所: 宮城県仙台市宮城野区榴岡1丁目6-37 TM仙台ビル701
福岡営業所: 福岡県福岡市博多区山王1丁目10-11
フェイスイン山王公園前101号



工房兼ショップ外観

OriOri



店内と奥の工房は、ゆるやかに繋がっています



工房でカード織りの紐を織っているところを、友人が撮ってくれました。
Photo by Yangjah

手織り

手織りに出会った頃、自らの手で糸から布を作り出せる不思議に、夢中になって手を動かしました。

そのうち自らの手で糸を染めたくなり草木染めを始め、糸を作りたくなり手紡ぎを始め、夢中になれることが、どんどん膨らんで時は流れ、いつしか「手織り」は特別なものではなく、自分の生活に当たり前にあるものになりました。

近年はアンデスの織り紐や、カード織り、原始機など、ほとんど道具を使わない、よりプリミティブな手織り技法にもハマっています。

OriOri

2003年の春、大阪市中央区谷町六丁目に、工房兼ギャラリーショップをオープンしました。

自分の作品も含めて、さまざまなジャンルの工芸作家30名ほどによる手仕事の作品を常設販売しています。

店名は「OriOri」これは、ずっと自分の手織りブランドとして使って来た名前でもあって、「織り」であり、「折々」でもある言葉の響きが気に入っています。

たまに「どうやって作家を探しているのですか？」と訊かれて返答に困ることがあります。

元々知っていた人や、偶然の出会いなど、きっかけは様々ですが、積極的に探したことがないからです。

その時々のご縁が無理なく育った結果が、この店です。

店は、作品を介して、作り手と使い手(お客様)を繋ぐ場です。

作り手でもある私が、そのご縁を結ぶお手伝いをするのに心がけているのは、作家の思いを汲み取って、お客様



アンデスの織り紐いろいろ



オーバーショット織りのマフラー

にお伝えすること、必要があれば、お客様の声を作り手にフィードバックすることです。

日常の続きのように気楽で、穏やかな空気が流れる空間でありたいとも思っています。

販売することと作ることは、ベクトルが逆ですし、ひとりの人間が、同じ空間でそれらを両立するのは大変な面もありますが、あまり無理の効かない身体なので、もとよりマイペースは身についています。

周り比べて焦ることもなく、ぼつぼつと歩んで、気づけば20年が過ぎ、手織りと共に店も、私にとっての日常となりました。

ご縁あった作り手のみなさま、お客さまには、心よりの感謝を。

これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

そして、新たな出会いも楽しみに、穏やかに日々を重ねて行きたいと思います。



カード織り紐いろいろ
オリジナルデザインのものも
あります



アンデスの織り紐ポシェット
フェルト作家 辻俊子さんの
コラボレーション

思い出の画廊が Bar へ

21年目を迎えた今年の春に、かつて「画廊みやざき」さんがあった場所にほど近い曽根崎に、オーナーの息子さんが Bar をオープンするという、最高に嬉しいニュースが飛び込んできました。

Bar の名は「Bar みやざき書店」
(大阪市北区曽根崎 2丁目 14-7 グランデ曽根崎ビル 2F)

当時、画廊みやざきさんは、同じビルで書店も経営されており、画廊と同じ頃に閉店されたのですが、その店名を Bar として受け継ぐという、何とも粋なアイデアです。

レコードと本に囲まれた、暖かでフレンドリーな空間は、昔からよく知るマスターのお人柄そのもののよう。新しい場ですが、私にとっては懐かしい場。ご縁は形を変え、これからも続いて行きます。



Bar みやざき書店オープンのお知らせ

文責：企画広報委員会 副委員長 竹垣 恵子



洲崎 英美
Hidemi Suzuki

(学籍番号 D84-067)

〈略歴〉

和歌山県生まれ／大阪在住
大阪芸術大学 デザイン学科
グラフィックデザイン 専攻 卒業

1991年より手織を始める。

1993年～ 個展での発表を中心に制作活動

1997年～ 天然染料での染色を始める

2003.3月 大阪市内に工房／ギャラリーショップ
OriOri を OPEN

2005年～ 羊毛の手紡ぎホームスパンを始める

スピナッツ出版 SPINNUTS 誌上にて記事 連載

2018.11月より、各所にてアンデスの紐織りワーク
ショップを開始



アンデスの織り紐技法で制作したネックレス

大学入学までの道のり

大阪芸術大学デザイン学科、グラフィックデザイン専攻に入学したのは1984年、本来より3年遅れた入学でした。というのも、中学の頃の大病で2年の休学を余儀なくされ、入院しながら養護学校中学部を卒業、高校もまだ普通科に通う体力がなく、四年制の通信高校に行ったからです。

通常より遠回りしましたが、その高校時代に出会った美術の先生が、授業以外でも熱心にデッサンや絵の描き方を教えてくださり、芸大に入学する道筋をつけてもらったのですから、何が幸いするかわかりませんね。これに限らず、振り返れば、人生はうまくできてるなあと思うことが多いです。

画廊みやざき

大学を卒業した後は、デザイン事務所勤務を経て、梅田の第三ビルにあった、版画や現代美術のギャラリー、画廊みやざきさんで、1989年から1997年の閉廊までの10年ほど、スタッフとしてお世話になりました。

そこは数多くの作家やお客様が行き交う、文化的で活気に溢れた場でした。

塚本学院ゆかりの方々とも関わりの深いギャラリーでしたので、学生時代の専攻以外の先生方との繋がりも広がりました。

また、版画や現代美術以外に、陶や染織など工芸作家の展示もされていたので、多くの工芸作家さんたちとの出会いもあり、作家ものの器や服、布小物など、自分の日常に好きな作家の作品を取り入れて使う豊かさもありました。

ライフワークを探していた私が「手織り」に出会ったのも、その頃でした。

画廊で働かせてもらいながら学んだことや、人との出会いは数知れず、その多くが今に繋がっています。



大阪芸術大学工芸学科陶芸専攻
1984年卒業

一般社団法人 シガラキ・シェア・スタジオ

代表理事 杉山 道夫 Michio Sugiyama
<https://sss-shigaraki.com/>

まず、僕が信楽に来たいきさつから。
きっかけとなったのは、大学在学中に、
姉妹校であったアメリカのカリフォルニア
美術工芸大学に留学してみないかと声を
かけてくれた恩師のおかげ。その後、同
大学の修士課程を修了して、モンタナ州
にあるアーチャー・ブレイ・ファウンデー
ションで制作していた僕に当時建設中であ
った滋賀県立陶芸の森のプロジェクトを別
の恩師に紹介していただいたのが直接の
きっかけ。元をたどせば、大阪芸術大学
で学んだことにあります。

陶芸の森では、立ち上げの時から30
年余り。主にアーティスト・イン・レジ
デンスという事業を手につけ、世界50数
か国から延べ人数で1300人余りの陶芸
家、現代美術家に信楽の地で作品を制
作する場を提供させて頂きました。

時間がたつのは、早いもので定年を迎
える年が近づき、「さて定年になったら何
をしようか」と考え始めた時、2015年ご
ろだが信楽の中心地にある空き物件に気
が付き幸い手に入れることができたので、

そこを陶芸のスタジオ、ギャラリー、キッ
チンにリフォーム。運営母体をきちんとし
たかったので2018年に法人化しました。現
在、他の工房も借り、商品開発なども含め
ると常時10数名のアーティストが、シガラ
キ・シェア・スタジオで制作しています。

陶芸の森で長い間アーティスト・イン・
レジデンス事業に携わってきたので、そ
れをそのままやるのは面白くないと思い、
差別化する意味でも長期滞在や信楽で
暮らしていくためのきっかけとなるよう
な陶芸のコワーキングスペースをシガラキ・
シェア・スタジオでは目指しています。

陶芸の森のレジデンス事業を、世界
に向けた「信楽（焼）の窓口」とするなら
ば、外から信楽に来たアーティストたち
のベースづくりをシェア・スタジオでやろ
うと思ったのです。

アイデアは、20年くらい前から僕の頭
の中にあった。それを「セラミック・ワ
ンダーランド」と名付けました。「セラミ
ック・ワンダーランド」には以下の環境が必要
なのです。



SSS で制作した大作 西條 茜 作「レベッカ」

セラミック・ワンダーランドに必要な環境

- ・原材料があり、ほしい材料がすぐに手にはいること。
- ・いろいろな種類の機材、道具が周りにあり貸し借りができること。
- ・若手からベテランまで様々な方向性を持った同業の土が周りにいること。
- ・客観的評価ができる者が周りにいること
- ・近くに販売網の拠点があること。

要は、陶芸、やきもの産業、美術館、バ
イヤーなどなど様々な立場からやきもの
にかかわる人が寄れる「場所」というこ
なのですが、今風に言うと「若い人た
ちの移住、定住支援策」であり、「産地振
興策」と言えるのではないかと思います。
移住、定住支援策としては3年前から、
大学や訓練校で陶芸を勉強している人
たちを対象に「信楽産地ツアー」と称し
てメーカーの現場を見学する機会を提供
しています。また、「産地振興策」として
は、アーティストとメーカー、商社のコ
ラ

ボレーションによる商品開発などもおこ
なっています。ギャラリーやキッチンもあ
りますし、インバウンドのお客様向けの企
画をしたり結構、領域が広がっています。
こんな「セラミック・ワンダーランド」を
実現させようと「シガラキ・シェア・ス
タジオ」で悪戦苦闘の毎日です。



SSS コーディネートでの新商品開発



信楽産地ツアー見学風景

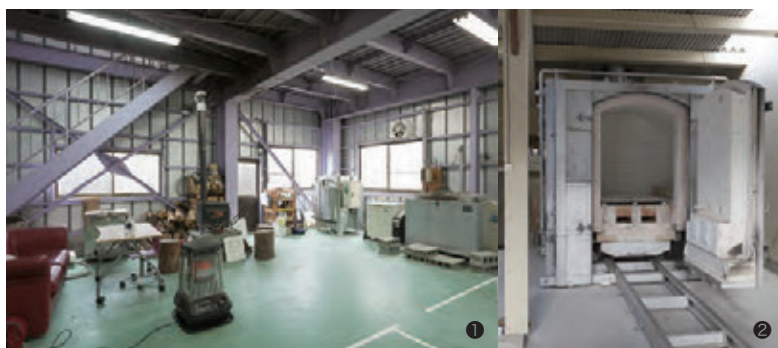


杉山道夫 Michio Sugiyama
PROFILE

1960年アメリカ生まれ。1979年京都市立日吉ヶ
丘高等学校美術工芸科陶芸専攻卒業。
1980年大阪芸術大学工芸学科入学、在学中に
カリフォルニア美術工芸大学（アメリカ、カリフォル
ニア州）に留学。その後、同大学修士課程に進む。
1986年同修士課程修了後、アーチャー・ブレイ・陶芸
研究所（アメリカ、モンタナ州）で1989年まで滞
在し制作をする。1989年日本に帰国後、滋賀県
商工労働部に勤務。滋賀県立陶芸の森の設立準
備にあたり、以後アーティスト・イン・レジデンス
事業の現場の企画運営管理に当たる。

2015年9月に「国際陶芸シンポジウム」を企画し、
海外のレジデンス機関とのネットワーク構築、交流
の活性化等に取り組む。また、2016年には、関西
広域連合、滋賀県主催のシンポジウム「関西アー
ティスト・イン・レジデンス」を企画運営する。
2017年から「アーティスト・イン・レジデンス研
究会」を主宰し国内の陶芸のレジデンス施設の交
流の活性化につとめる。

2016年に信楽町内に店舗及び倉庫を購入しシガラ
キ・シェア・スタジオとして運営する。2018年
に法人化。2021年に滋賀県陶芸の森を定年で退
職（事務局次長（技術）兼創作研修課長）。
現在、一般社団法人シガラキ・シェア・スタジオ
代表理事。IAC 国際陶芸アカデミー会員。日本陶
磁協会会員。秀明文化財団 秀明文化基金賞選
考委員、信楽伝統陶芸家育成事業選考委員。日
本陶磁協会賞推薦委員。甲賀市総合計画審議会
委員。



①スタジオ内部（電気釜）
②ガス釜
③スタジオ外観



信楽の風景



2024.7 キッチンでのジャズライブ



2023.10 キッチンでのハロウィンイベント



ギャラリー展示風景



ギャラリー展示風景

スカイキャンパス

第1回

大阪芸術大学 卒業生 作品展



多様性が集う展覧会

2024年7月12日(金)～7月28日(日) 大阪芸術大学スカイキャンパスで開催された
「第1回 大阪芸術大学 卒業生作品展」取材
スカイキャンパス事務室の西村課長補佐にお話を伺いました。

(取材・撮影:東真一郎、松本晴名)

東: 出品アーティストが64名と非常に多い印象ですが、まずは展覧会のテーマと開催に至るまでのお話を伺えますでしょうか。

西村: 大学の企画・テーマとして若手アーティストを応援したいという気持ちがありました。ご卒業後もアーティストになる夢を叶えるため、働きながら創作活動を続けていらっしゃる方も多いのですが、おひとりで個展をするなどして認知度をあげていくのは大変です。合同作品展にすることで他の作家さんや新しいお客様(ファン)との出会いの場になることを期待いたしました。出品者につきましては、卒業後すぐの方から10年以上の方を学科推薦で選出させていただきました。また、すでに作家としてご活躍、生計を立てていらっしゃる方にも直接ご出品の交渉・依頼をし、最終的には美術・デザイン・工芸の分野で若手からゲストの方と合わせて64名になりました。



スカイキャンパス事務室 西村課長補佐

東: 展覧会を拝見して、とても完成度の高い作品が多い印象を受けました。若手とはいえ見応えの点でもゲスト作家さんと肩を並べられるぐらいだと感じました。

西村: 大阪芸術大学は、学生の中にある、まだ形になる前の「表現したい思い」を引き出し、伸ばす「教育力・指導力の高さ」と、「創作に没頭できる環境」が魅力だと考

えます。そして、「コラボレーション」の魅力。例えば、陶芸作品に金属工芸の要素を感じるなど異なるコースからの刺激を取り入れている作品を観ると、本学が単一コースではなく、互いに刺激しあえる様々なコースと体験があるからこそその表現だと感じます。64名ひとりひとりまったく異なる個性(多様な作風)が集った今回の作品展。ご鑑賞後のお客様より感想を頂戴することが多く、来場者の満足度も高い作品展になりました。**東:** キャプションに値段が書かれていることに気づきました。作家さん自身が売る、売らないということを選択されているんですね。値段の表示があることで見る人も「買っていいんだ」ということがわかりますし、若手作家さんとしては自分の作品に赤ボチ(売れた時につける赤いシール)がつくと自信にもなりますね。

西村: 昨今の経済状況からアートに投資しようという方や投資額が減少傾向にあるように感じます。そんな中でも夢を諦めず、活動を続けていく方を大学として支えていけたらと願います。自分の思いを込めた作品が売れる喜びはあると思いますが、もし売却に至らなかったとしても多くの方に観ていただけたことを励みにしていただきたいですね。

松本: 私も美術学科卒で定期的にグループ展で作品を発表していますが、仕事をしながらだと自分が展覧会を見に行く機会はなかなか持てないでいます。今回この展覧会を見て、どういう作品が売れているかなど作家として参考になる部分がたくさんありました。実際に買いたいと思う作品もいくつかありましたし、とても刺激を受けました。

西村: ご卒業後、大学のホームページを見る方は少ないと思います。来年、学校法人塚本学院は80周年を迎えます。全卒業生にDMを送ることは難しく、卒業生の皆様にはまめに大学や校友会のホームページを覗いていただき、「今度こんな展覧会があるんだ」と知ってい



ただきたいと思います。舞台も演奏会も観る方、聴く方がいないと成立しないのは造形系も同じです。垣根を超えて観ることで、ご自身の分野に取り込んで力にできるものがあると思います。学んだ領域が違ってても、松本様がおっしゃったような「何か」を得てもらえるものがあると信じています。ぜひ実際に足をお運びいただき、ご鑑賞いただけましたら幸いに存じます。

東: 大学を出てからもそれぞれの分野で活動をしていく卒業生に対して具体的にどのような関わり方でサポートしていくことを目指されているのでしょうか。

西村: 若手アーティストの方は自分自身で全てを担わないといけない状況があります。この作品展で大学ができることとして、個人の活動では自費となる発表の場、在廊の負担軽減、新しい出会いの提供です。出品者の方と事前に打合せを行い、お客様からのご質問にお答えできるよう準備いたしました。

東: 第2回に向けた展望はあるのでしょうか。

西村: 今回の実績を踏まえて、第2回ができるよう思いを繋げていきたいですね。

1回目は、あべのハルカス24階にあるスカイキャンパスが会場となりましたが、今後さらに参加学科や領域をひろげ、その規模にあわせた作品展が実施できればいいなと思います。学生のみならず、この『Wings』をご覧



になられた卒業生の方々に今大学でこんなイベントをしているんだということを知っていただき、お越しいただくことが「若手の育成、後輩の応援」になります。こういった会誌に載ることで次回は行ってみようと思ってくれる卒業生の数も増えれば嬉しいです。

東: すごく楽しみです！ありがとうございました。

第1回 大阪芸術大学 卒業生作品展

【会期・会場】

2024年7月12日(金)～7月28日(日)
大阪芸術大学スカイキャンパス(あべのハルカス24階)
入場無料

【出品者】

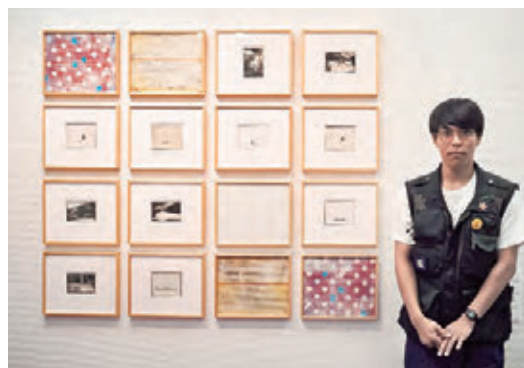
稲葉海斗／上田小晴／江崎栄花／塩治清美／おうにし／近江志織／岡本博紀／小熊香奈子／開藤菜々子／硝子屋ゆう／河合紅美／河合芙幸／川野昌通／喜愛来／国本真絵／小谷 光／小山大地／今野志穂／齊藤秀樹／さかはらまゆ／佐田涼香／sanaenvy／THE ROCKET GOLD STAR／澤田光希／塩路麻尋／正元嶺至／新 拓馬／スミコフスキー百合子／たかいよしかず／高松 威／立本倫子／田仲哲也／たま／都志真優奈／ナイマ・ワジティ／中田裕理／なかだ まり／中村 幹／中村和可／西井 輝／ノダタヒロ／畑山綾太郎／H@L/ HARUTO／開 聡良／平山 海／堀口彩花／マサヨアニー／益田啓嗣／松田梨奈／松森洋駆／三島寛也／みすぎひろのり／mindy nunu／森永航世／矢野 茜／山崎達也／山田真也／吉田ショウヘイ／Ryoji Nakano／りんたろう Jr.／若林いぶき／渡邊紫音／ヲノダエマ

夢に向かう芸大出身のアーティストたち (出品作家から一部をご紹介します)

ピックアップした作家の選定は『Wings』編集部による

01 山崎達也 (美術学科 版画コース卒)

4の5のカメラでスタジオ撮影した写真と汚れのあるタイルを並べて作品化できないかと思って、ちょうどそのタイミングで今回お声がけいただきました。展示することで自分なりの答えが出せるので、良かったです。今回、他の方の作品を見ていて、みんな大芸大の空気を持ってるなって確認できました。私も日下部イズムの継承者としてがんばります(笑)



Yamazaki tatsuya

02 若林いぶき (美術学科 油画コース卒)

天王寺、ハルカスっていう立地で展示する機会をもらえて、とても良かったです。公募展など積極的に大作を出して、観てくださった方が私の作品を気に入って、個展に来てくださるような好循環を作っていきたいです。



Wakabayashi Ibuki

05 りんたろう Jr. (デザイン学科 グラフィックデザインコース卒)

去年デザイン学科の副手で学内グループ展をやったのですが、卒業生全体というもっと大きなつながりのなかに入れてすごく良かったです。来年は京都で個展もやる予定で、もっと売りたいです(笑)



Rintarou Junior

06 今野志穂 (工芸学科 陶芸コース卒)

私は主に遊びや作業をテーマに作品を制作しています。この作品、playroomでは、幼い頃に会った大切な場所での思い出を作品化しました。積み上げる、重ねる、繋げていく、など今の私の作品制作の原点となる場所でした。幼い頃に体験した記憶や、その時に感じた純粋な面白さや快感を大切にしていきたいです。



Konno Shiko

03 喜愛来 (デザイン学科 イラストレーションコース卒)

コロナ禍に入学したこともあり縦の繋がりがあまりなかったもので、先輩方と展示させていただけて、制作意欲を更に向上させてもらえた機会でした。作家としてイラストレーターとして活躍できるようにがんばります。



Kiara

04 HARUTO (デザイン学科 イラストレーションコース卒)

これだけ個性豊かな作家-作品が集まっていて、やっぱりすごく刺激を受けてます。HARUTOと言ったらこれだな、って認識してもらえるようなスタイルを確立していきたいです。



HARUTO

07 田仲哲也 (工芸学科 ガラス工芸コース卒)

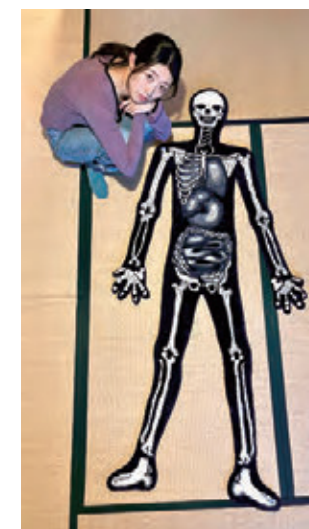
つくるという行為は時間を進めることだ、と不意に感じたことがあります。いま自分の手の中で触っているものはただ単に形が変わっていているのではなく、時間が進んでいっているのだ、と。ガラスという素材に対しては、熱を加えることも時間を進める手段の一つであると考えています。原料が熔解しガラスとなり、作品に成るまでの過程を楽しみながら制作しています。



Tanaka Tetsuya

08 mindy nunu (工芸学科 テキスタイル・染織コース卒 大学院修了)

学部時代は、自分の体や好きなネズミをモチーフに、「生きる形」をテーマとした作品を制作していました。大学院修了後は、「自分にとって気持ちの良い線」を描くことに焦点を当てて制作を続けてきました。今後は、この二つの要素をうまく融合させ、見ただけで「mindy nunuのデザインだ」と分かるような独自性のある作品を表現していきたいと考えています。



mindy nunu

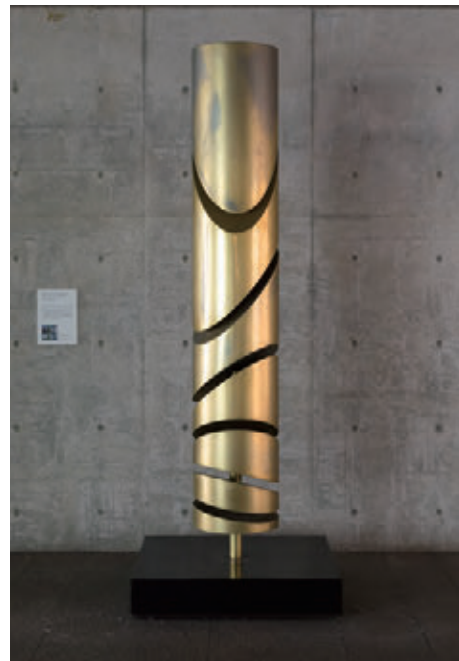
デザイン×アート

ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマンと 吉川静子の展覧会について

大阪中之島美術館 主任学芸員
平井 直子

「芸術情報センター 塚本英世記念館」の一階に設置された金色の彫刻作品は、ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン作の大変貴重なものです。**(写真01)**印刷の領域で活躍したミュラー＝ブロックマンが手掛けた世界的にも希少な彫刻作品が、ここ大阪に存在しているのです。ミュラー＝ブロックマンはスイスを代表するグラフィックデザイナーでありタイポグラファーとして知られています。日本にも1950年代に《第4回特別コンサート ベートーベン》(1955年)**(02)**が紹介され、1970年代にはタイポグラフィと色彩のみで構成された音楽コンサートのポスターをシリーズで創造しました。**(03)**20世紀の構成的デザインの理論をまとめた『グリッドシステム』(1981年)刊行を始め、ミュラー＝ブロックマンのヴィジュアルデザイン分野における功績は枚挙にいとまがありません。

この度、縁あって大阪中之島美術館でそのミュラー＝ブロックマンの展覧会を開催することとなりました。ミュラー＝ブロックマンのパートナー、日本出身の知られざる芸術家・吉川静子との没後初の回顧展であり二人展です。吉川静子の絵画作品130点にミュラー＝ブロックマン作品70点を合わせて、約200点の作品を紹介する展覧会「Space In-Between 吉川静子とヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン」が、大阪中之島美術館で12月21日に開幕します。**(04)(05)**



01.
ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン《黄金分割による7つの部分をもつ柱》1974/1981年 大阪芸術大学蔵



02



03

02.
ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン《第4回特別コンサート ベートーベン》1955年、個人蔵(スイス)
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

03.
ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン《チューリッヒ管弦楽団 ムジカ・ヴィヴァ・コンサート 1972》1972年、大阪中之島美術館蔵
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland



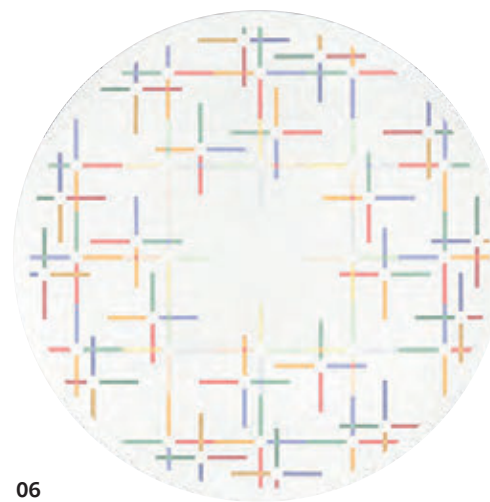
04.
吉川静子とヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン チューリッヒにて 1965年頃
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation



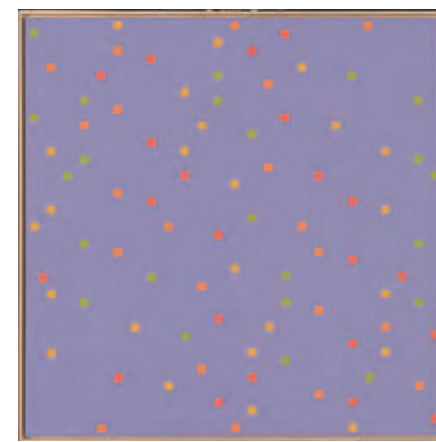
05.
吉川静子とヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン チューリッヒにて 1975年頃
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

チューリッヒで半世紀にわたって過ごした吉川は、日本ではほとんど知られていません。彼女が亡くなったのは、2019年のコロナ前のことでした。吉川はミュラー＝ブロックマンと共に、何度も大阪の地を訪れています。もともと福岡県柳川市にルーツを持つ吉川は、ウルム造形大学でヴィジュアルコミュニケーションを学ぶためにドイツに留学後、チューリッヒのミュラー＝ブロックマン事務所でデザイナーとして働きます。1970年代に画家に転身、生涯にわたり独創的な幾何学的抽象絵画を創造しました。色彩理論に基づいた「色影」シリーズ**(06)**や、呼吸するような形と色の表現が瑞々しい「生命の脈動」シリーズ**(07)**を始め、展覧会では吉川の活動初期から晩年までの作品を一堂に紹介します。

ミュラー＝ブロックマンと吉川は、大阪芸術大学の前身、浪速短期大学に1961年(昭和36)初代学長・塚本英世の招きを受け来校したのを皮切りに、1975年(昭和50)塚本学院創立30周年記念展として大阪音楽センター・モーツァルトサロンにて「ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン ヨシカワ・シズコ作品展(アート+グラフィック)」



06



07

06.
吉川静子
《m433 宇宙の織りもの一光りつづ3》
1991-1993年 Copyright and
courtesy of the Shizuko Yoshikawa
and Josef Müller-Brockmann
Foundation

07.
吉川静子《m779 生命の脈動 15》
2011年 Copyright and courtesy of
the Shizuko Yoshikawa and Josef
Müller-Brockmann Foundation

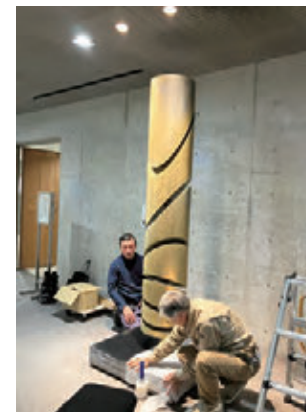
08.
ラッパースヴィールの町
2024年筆者撮影

09.
ミュラー＝ブロックマンの故郷 ラッパースヴィールのバラ園
2024年筆者撮影

10.
《黄金分割による7つの部分をもつ柱》
移動作業の様子 川島慶樹先生とボン
コ・アーツ&クラフツの磨田孝一朗氏
2024年11月筆者撮影

11.
クレーンで吊られた《黄金分割による7
つの部分をもつ柱》と川島先生
2024年11月筆者撮影

12.
クレーンで吊られた《黄金分割による7
つの部分をもつ柱》の台座
2024年11月筆者撮影



10



11



12



08



09

を開催しています。1981年(昭和56)芸術情報センター竣工記念セレモニーのため再来校し、センターで「芸術情報センター竣工記念 現代ヨーロッパ構成主義版画展」を開催。その際、スイスからやってきたのが、冒頭に述べた《黄金分割による7つの部分をもつ柱》(1974/1981年)という訳でした。中世から続く町ラッパースヴィール**(08)**の工科大学に1974年制作の彫刻作品と同じ形ですが、縮尺の異なる作家自身による二つとない彫刻作品です。ラッパースヴィールはミュラー＝ブロックマンの生まれ故郷で作家が生涯に渡って愛した町でした。チューリッヒ湖に面したバラの町としても知られ、美しいバラ園が広がって現在も観光客を楽しませています。**(09)**

展覧会に出品するために11月に彫刻の搬出作業を行わせていただきました。構造体がどうなっているのかを検証することから始め、試行錯誤の後、おかげさまで運び出すことができました。大いにご尽力くださいました、大阪芸術短期大学の川島慶樹先生はじめ、磨田様、貴学学生の皆様、大学博物館の小口様ほか皆様に心より感謝申し上げます。**(10)(11)(12)**

『温故知新』 カラフルな風情とモノトーンのパッション 語りべ和ロック楽団『奏手候 (かなでてそうろう)』

■取材・文責 / 企画広報委員 和田 貢 ■撮影 / 古市真崇(写真学科2010 年卒)

夢に向かい頑張っている卒業生を応援する企画も 2 回目を向かえました。

今回は和楽器を一切使わずに音律や衣装など、あらゆる要素で和を表現する語りべ和ロック楽団『奏手候 (かなでてそうろう)』の 2 人のメンバーです。芸術計画学科 (T95) 1999 年卒業でバンドリーダー、作曲とシンセベース担当の狐貳 (コニ) さんと音楽学科音楽制作コース (M05) 2009 年卒業の作詞・ヴォーカル担当のお優美 (おゆみ) さんを紹介します。

※バンド活動の関係上、本名は非公開ですが、大阪芸術大学の卒業生です。

鑑賞を超えた体験の先に…

2024 年 8 月 31 日 大阪市西区南堀江の南堀江 knave (ネイブ) にて公演された、『奏手候(かなでてそうろう)』のライブに伺い鑑賞後、対談取材をしました。

まずライブ会場に入って驚いたのは、老若男女、幅広い客層でした。当日は台風の影響で開催も危ぶまれましたが、奈良や京都の県外からもファンが来ていました。主催者側の心配をよそにハコは小さいといえど、満員でした。ライブが始まって、感じたことは、異次元的な演出の中に何か懐かしさを覚え、胸躍るロックなサウンドでも、全編に散りばめられた和の風情が、時を遡って異界情緒を彷彿させてくれました。また長年、追っかけをしている昔からのファンが多く、トークでもフレンドリーな掛け合いのマッティングが絶妙で、客席からのレスポンスも良く、気が付けば初見の私もまったりと奏手候の世界へ入っていました。百聞は一見に如かず！ 皆さんも一度はこの異界ライブを体験してみてください！



南蛮楽器に身を任せ 我等、今宵も奏手候！ 巧みな話術と演奏で観客を異界に誘うパフォーマンス！！この日は狐貳が客席へ舞い降り盆踊りの人間やぐらと化す。



＝ライブお疲れさまでした。

本日はよろしくお願ひします。

とても特徴が際立ったライブでしたね。

それでは、まず学生時代のお話を聞かせてください。



左から潤(太鼓) お優美(歌) 狐貳(低音) 古都旺(左弦)
中央の2人が卒業生です

狐 貳：まず芸大に入学していなかったら、今の自分は無かったと思います。芸術計画学科の授業で、映画を見る授業があり、映画に興味を持ち始め、情報センターに通いつめて映画やアニメを見ていました。無料で見放題でしたから (笑) 当時は喜志駅の周辺には何も無かったので授業とクラブの合間に時間があれば、情報センターに行くのが日課でした。数えきれないほどの本数を観ましたね。それが今の奏手候の語りベロックに役立っています。時代劇も古今東西の作品を沢山観てますが、演目のストーリーを考える時、自然に映像として出てくるのです。それと弓道部に入っていたので、奏手候の演奏で取り入れている古典的な文言や背景には、弓道の日本古来の神道、礼式の規範としての儒教、などの教えが書かれた弓道教本があり、参考にしました。

＝では、お優美さんにうかがいます。

マイクがいらないうくらい声量が凄いですね

お優美：私は音楽学科で音楽制作を専攻していました。本当は演奏の方に進みたかったのですが、クラシックピアノとかを本格的にやっていたわけではなく、エレクトーン育ちだったので実技が不安でした。悩んだ末に音楽制作に進みました。雅楽、三味線、ガムランなど沢山経験したのが、今の私たちの演奏に活かされています。私は狐貳さんとは違いピアノ室にこもって作曲などをしてましたね。

【語りべ和ロック楽団「奏手候 (かなでてそうろう)」とは】
“和楽器を使わない和ロックバンド”。
メンバー全員が着物・袴を着用し、伝統的な和の旋律を用いた楽曲を、唄と演奏で表現するというスタイルをとる。明治後期～大正時代の、架空の地域「静越 (しずこし)」。民話や伝説、偉人伝承等を、語りや歌詞で表現する。音楽制作は民謡やロックをはじめ様々なジャンルの音楽より影響を受けており、80 年代洋楽の影響は特に色濃く見られる。

孤 貳：何よりも出会いが大きかったですね。私はバンドを、お優美さんはソロで別々にやっていたまして、たまたまお優美さんの演奏で、弾き語りの声と、ピアノを琴のように弾いているの見聞きした時、奏手候のボーカルが抜けた時期とも重なって、組みたいなと思いました。声をかけるまで、お互いが芸大の卒業生だとは思わなかった。

お優美：ピアノを琴のように弾く手法はピアノ室にこもっていたところからです。

私も、ソロでやってましたが、広がりがほしいと悩んでいた頃だったので、お声がけ頂いたタイミングが良かったですね。



＝奏手候の活動についてお話をください。

孤 貳：奏手候の音楽活動は、ライブハウスは勿論、街フェス、神社、お祭りなどが活動の場になっています。高齢者、お子様の前で演奏することも多く、演奏のスタイルが着物・袴を着用し、伝統的な和の旋律を用いた楽曲で、民話や伝説を古風な背景をもとに語りと歌で伝えるエンターテインメント楽団ですので、自ずとそのあたりになってきます。日本語の通じない海外での公演では和の旋律での演奏パートはかなり盛り上がるのですが、日本語での語り部パートになった途端、熱気がスーッと引いてゆくのは驚きました。海外の反応はとてもシビアです。わび・さび・情緒・風情・粋などのニュアンスは英語で表現できませんから (笑) 海外でのチャレンジはこれからも続けてゆきたいですね。みなさん応援をお願い致します。

＝本日は楽しいひと時、ありがとうございました。

お二人：これからも頑張ります。ありがとうございました。



ワシントン D.C. の桜祭りに参加。
フェスのパンフレットでも表紙に！
まさかの大使公邸に来賓としてお招きいただきました！



台湾音楽フェス



D.C. の大使公邸にて



神楽殿での公演

ライブ撮影 / 取材協力
古市真崇さん

2010 年写真学科卒業
写真映像・ドローン
撮影などをメインとする
合同会社
World's Edge 代表



「奏手候」の活動実績

●アメリカ

- ・ワシントン D.C. 【サクラマツリ】2015 ～ 18, 2023 年の計 5 回。
- ・フィラデルフィア 【スバルチェリーブロッサムフェスティバル】2016, 17 年。
- ・2018 年にはワシントン D.C. サクラマツリで、大使公邸に外交官の杉山晋氏より来賓として招かれた。
- ・2023 年にはサクラマツリでお優美が歌う姿がパンフレットの表紙を飾った。

●台湾

- ・嘉義【覚醒音楽祭】2016 年。
- ・埔里【無限自由音楽藝術節】2017, 18, 2024 年の計 3 回。
- ・溪頭【妖怪村】2017, 18, 19 年の計 3 回。
- ・屏東【農人祭】2019 年。
- ・台中【城市登出音楽祭 (映像出演)】2022 年。

●国内

- ・兵庫県 神戸【新開地音楽祭】【宇治川音楽祭】、姫路【姫音楽】
- ・愛知県 名古屋【覚王山夏祭】、刈谷【市原稻荷神社鎮守の杜のコンサート】、瀬戸【せともの祭】、東栄町【星空おんがく祭】
- ・石川県 金沢【石川爆上げチャリティフェスティバル】
- ・鳥取県 大山【大山夏山開き祭】
- ・広島県 広島【豊稔ひろしま和太鼓フェスティバル】他

●地域活動

活動拠点である京都で地元のイベントや文化に奏手候としての貢献活動をしている。

★京都国際マンガミュージアム (運営チーム「荒魂」として参加) 「節分おぼけ 仮装百鬼夜行」妖怪仮装行列
「妖宮交通祭」子供交通教室として警察、消防と共に指導 など
また他団体とのコラボレーションとしてバンド以外の和を主体とした団体と積極的に交流を持ち楽曲やイベントでコラボレーションを展開中



左から ● 公式サイト ● 紹介動画 ● 楽曲 ● SNS リンク

「天体と音楽」

をテーマとした科学・音楽コミュニケーション

～地球を知ろう第5弾～

2024年10月25日

ドーンセンター（大阪天満橋）

私は文芸学科の出身ですが、2019年以降、「天体と音楽」実行委員会の代表をつとめ、天体や、人工衛星が宇宙から観測している地球環境のデータによる画像（地表や海面温度の上昇、地球の街灯り比較など）を、京都大学大学院・理学研究科・地球惑星科学専攻の齊藤昭則准教授らが開発したデジタル地球儀 ダジックアース (<https://www.dagik.net/>) に投影して、天体や地球温暖化の解説と、関連曲を演奏するイベントを行っています。本年10月25日は、大阪天満橋ドーンセンターにて、日本天文学史に焦点を当てて構成し、120名のお客様にご覧頂きました。塚本学院校友会からも御後援頂きありがとうございます。今回、大阪芸術大学の関係者の方々にも多数ご出演頂きました。ご報告させていただきます。

冒頭は、音楽学科を首席&グランプリで卒業された伝説の卒業生 桜井真樹子さんに、日本古来の音楽「越天楽」を雅楽の龍笛で吹いて頂き雰囲気を作って頂きました（写真1）。次に、キトラ古墳の天文図を投影しました。「昴」を例にしましたが、驚異的なことに、太古の昔と現在とそう観測結果が変わりません。古代服での柿本人麻呂の万葉集朗詠ののち（写真2）、桜井さんに白拍子の「水猿曲（みずのえんきょく）」も演舞して頂きました（写真3）。そして、国家にとって重要な暦を扱う陰陽寮の話や、浄瑠璃、歌舞伎、落語にもなっている陰陽師 安倍晴明（921～1005）の出自にまつわる伝説に触れ、それを扱った日本歌曲を演奏。そしてヒーリングミュージックの第一人者で、羽生結弦氏採用の「天と地のレクイエム」の作者 松尾泰伸非常勤講師に、自作「～安倍晴明に捧げる～ SEIMEI」をご演奏頂きました（写真4）。

第2部では、江戸時代に改暦という大事業を成し遂げた渋川春海（安井算哲 1639～1715）の制作した天球儀、地球儀を投影しました（写真5）。その後、江戸時代に隆盛を極めた尺八について、志村哲音楽学科教授に、虚無僧の姿で解説して頂き、「鹿の遠音」や「鶴の巢籠」など、生き物の様子を尺八で模倣した部分を演奏して頂きました（写真6）。そして江戸時代と同時代に活躍した西洋の音楽家の作品群の演奏の際、40年前に元音楽教育学科副手だった内田博世さんに、ドビュッシーの「月の光」や声楽演奏の伴奏をして頂きました。

最後は、谷村新司氏の「昴」を会場の皆さんと歌って終わりました（写真7）。魅力的な皆様とご縁を結び、このようにご協力頂けて、唯一無二の内容になりました。同窓会の皆様これからも助けて頂けましたら嬉しいです。母校の発展を祈念し「夢をかなえるところ」の出身ということ誇りに邁進してまいります。【荒川恵子】



写真1 オープニングで「越天楽」を龍笛で演奏する桜井真樹子氏
(Photo : Yoshiki Kawanishi)



写真3 白拍子「水猿曲（みずのえんきょく）」を歌い舞う桜井氏
(Photo : Yuto HIRAKAKIUCHI)



写真4 自作「～安倍晴明に捧げる～ SEIMEI」を演奏する松尾泰伸氏。
右は安倍晴明の用いた五芒星。
(Photo : Yuto HIRAKAKIUCHI)

◀写真2 古代服で万葉集を朗詠するバリトンの田中純
京都女子大学名誉教授
(Photo : Yuto HIRAKAKIUCHI)



写真7 最後に「昴」を全員で歌唱。左から、桜井氏、ピアノの音田真陽氏（母はL85 音田（田淵）真理氏）、内田氏、田中氏、中央が荒川、ソプラノの豊田典子大阪人間科学大学特任准教授、志村氏、松尾氏
(Photo : Yoshiki Kawanishi)

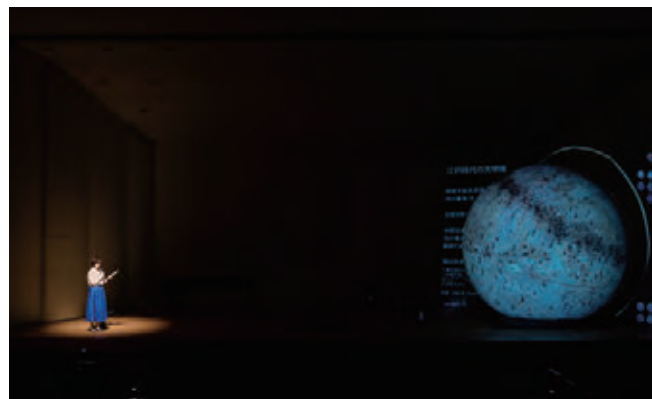


写真5 渋川春海制作天球儀を紹介する司会の吉村真希氏
(Photo : Yoshiki Kawanishi)



写真6 尺八のレクチャーコンサートをする志村哲氏。
右は渋川春海制作の日本最古の地球儀。
(Photo : Yuto HIRAKAKIUCHI)

【参考情報】

- ・ダジックアースは、教育目的の場合、郵送料のみで借りることができます。<https://www.dagik.net/>の「問い合わせ」をクリックしてください。
- ・写真1と2のダジックアース画像は、ちらしです。出井豊二京都女子大学名誉教授のデザインです。

【大阪芸術大学関係者のプロフィール】

●荒川恵子

文芸学科卒（L81）。大学2回生から、大阪音楽大学名誉教授 林誠氏に師事しオペラ歌手を目指す。卒業後4年間、副手（文芸学科及び一般教養課程）として勤務の後、音楽学研究へと転向。大阪大学大学院文学研究科後期博士課程卒。博士（文学）。京都女子大学発達教育学部教授。2000年以降、ファミリーコンサート企画、幼稚園訪問演奏会を手掛け、「幼小連携を視野に入れた音楽と科学のコラボレーションによるアウトリーチ開発」（科学研究費基盤研究（C）26350249 2014～2018）を経て、2019年に、「天体と音楽」実行委員会を結成し、代表。

●志村哲

音楽学科音楽工学専攻卒（M4）。大阪芸術大学音楽学科教授、博士（学術）

●松尾泰伸

音楽学科作曲専攻卒（M7）。大阪芸術大学非常勤講師。多くの作曲を手掛ける。

●桜井真樹子

音楽学科ピアノ専攻卒（M81）。東京音楽大学専攻科作曲修了。白拍子・声明。

●内田博世

神戸女学院大学卒。大阪芸術大学音楽教育学科元副手。滋賀短期大学非常勤講師。

始まりは 音楽教育学科 ライフワークともいえる教職課程のサポート

音楽教育学科卒業生の多畑寿城さんが、昨年学校法人行吉学園 神戸女子大学・神戸女子短期大学の理事長に就任されました。神戸女子大学ポートアイランドキャンパスの理事長室に多畑氏をお訪ねしました。

取材担当の豊田は音楽教育学科卒業、卒業後音楽教育学科副手・助手として勤務。5 学年後輩の K81 生は 133 名が在籍、この学年は音楽教育学科としては男性が 8 名と多く大変にぎやかな学年で、多畑氏をはじめ現在もつながりのある卒業生が多くいます。学生時代の思い出に残る授業や行事のことをお話し頂きました。

また、多畑氏は大学での教職課程のエキスパートとして講演や執筆活動も多く、数年前の教職課程の再課程認定の際には、大阪芸大の教職担当者も大変お世話になったと聞いています。大阪芸大の教職研究室（現教職相談室）で一時副手勤務をされていたこともあり、取材に同行頂いた校友会芝野事務局長（学生課で長年勤務）とも当時からのつながりがあり、大阪芸大での学生時代・副手時代の懐かしい話が尽きませんでした。

※大阪芸術大学音楽教育学科は 2008 年に学科としては廃止。引き続き演奏学科音楽教育コースとして移行、現在は音楽学科音楽教育コースとして継承されています。

神戸女子大学



ポートアイランドキャンパス	
大学設置	1966 年
創立	1940 年
学校種別	私立
設置者	学校法人行吉学園
学園本部所在地	兵庫県神戸市中央区港島中町 4-7-2
キャンパス	須磨キャンパス (文学部・家政学部、大学院) ポートアイランドキャンパス (健康福祉学部、看護学部、心理学部、 神戸女子短期大学) 三宮キャンパス

豊田 千晶（企画広報委員）、芝野 晴夫（校友会事務局）

学校法人行吉学園 神戸女子大学・神戸女子短期大学 理事長
多畑 寿城（たばた としき）
大阪芸術大学 音楽教育学科 1985 年 3 月卒業 K81 生



学生時代の思い出

入学試験のコールユーブンゲンで勢い込んでフライングして歌いだし、試験官の瀬野先生が歌いなおしを認めてくださったこと、面接の際に演奏学科長櫻井先生・音楽教育学科長橋本先生・教職担当の安城先生がおられて緊張したこともよく覚えています。

入学式はフェスティバルホール、卒業式は出来たばかりの情報センターで行われ、卒業式の際には芸大ラベルの缶ビールが配られて皆で芸大スコールをしたことも印象に残っています。

PL の花火大会の際は近所のお店で買い出しをして、皆で賑やかに花火見物もしました。

…現在は学内での飲酒は禁止されており、芸大スコールも行われていません。…

学内では日常的に忍者が走っていたり、着ぐるみで授業を受けている学生がいたり、学バスを坂の下で降りて芸坂を駆け上がりグラウンドでの体育の授業に走りこんだことも懐かしい思い出です。



9 号館が出来た頃で 9 号館の向こうにはグラウンドしかありませんでした。時折現在の大阪芸大の写真を見て様変わりした建物の数々に驚いています。



当時の授業風景「合唱」 8-11 教室
卒業アルバムから

音楽の授業としては、個人ではピアノは宮前先生 声楽は浅野先生 オーケストラの楽器はトロンボーンで池田先生にレッスンを受けていました。皆で行う授業では何と

いっても「**音楽企画運営実習**」が一番の思い出です。文字通り、音楽に関する何かを企画して、運営・実習する授業でした。自分たちは、グループで幼稚園向きのオペレッタを創作して付属の幼稚園を回りました。全部の面倒を見て下さった富岡先生にはお世話になりました。

最後の「**卒業制作展**」は音楽教育学科ならではの行事で、それぞれがミュージカル・リコーダーや邦楽のアンサンブル・オーケストラ・ソロ演奏・卒論発表・合唱など多くの演目に取り組み、練習スケジュール管理やアナウンス、舞台転換、差し入れに至るまでチームを組んで運営しました。卒論発表をさせていただいたことも良い思い出になっています。

先生方や研究室の副手さんも一丸となって取り組んで下さいました。

櫻井武雄先生の熱い合唱指導を受けた「**特別演奏会**」、オペラ公演「**魔笛**」に出演したことも貴重な経験です。また、「**卒業アルバム**」のアルバム委員をしたことも大きな思い出として残っています。その頃の音楽教育学科では学科独自のアルバムを作っていて、各自が 1 枚ずつ自由にレイアウトして自由な写真を載せる形でした。今から見れば、白黒写真で画質も良くないものですが、音楽教育学科の個性的な仲間たちの大切な思い出の作品です。

音楽を通してグループで活動し、同じ目的を持ち同じ時間を共有して勉強した音楽教育学科は自分にとって楽しく有意義な 4 年間でした。



音楽教育学科 卒業アルバム



多畑氏のページ

教職課程のサポート

実は…教職に就くことを目指して音楽教育学科に入学したのですが、一年次に教職に必要な一般教養の単位を取り損ねました。それについては不満もあるのですが、それはそれとして、卒業後に必要単位を取得しようと考えていました。卒業後いったん就職をしたのですが

やはり教職を目指して聴講で単位を取得しようとしたところ、その時のシステムではなかなかうまくいわずにいました。

そんな折に、大阪芸大の教職研究室の副手への就職を紹介され、自分自身が教職の免許を持っていないのにと迷いながらも教職研究室で働き始めました。その中で教職関係の雑誌などに目を通す機会も増え、興味をもつようになりました。それが今に至るスタートといえるものです。

その後、神戸女子大学の事務職員として就職し、教務課に配属されてからも教職課程にずっと関わることになり、今やライフワークともいえる仕事になっています。今から思えば、何がきっかけ・転機になるかわからないものです。

その後は、大学の事務部門での立場として、教職課程を実施する組織の運営や役割について多くの講演や研修会の講師を務め、阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会等での執筆も多く行っています。

教職を志す学生にとって最初の窓口でもある大学の事務は大きな役割を果たすものと考えています。

講演・研修会講師等（抜粋）

- 阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会 発表多数
- 全国私立大学教職課程研究連絡協議会
平成 26 年研究大会 シンポジスト
- 大学行政管理学会 講演
「教職課程運営組織の在り方を考える」 令和 3 年
- 大学教務実践研究会（名古屋大学高等教育センター）
講師 令和 3 年～現在に至る
- 愛媛大学教職員能力開発拠点
教職事務担当者講座 講師 令和 6 年

主な執筆等（抜粋）

- 「教職課程の全体像をつかむ！教職課程事務入門 [I]」
同 [II] 同 [III]（ジダイ社）2018～2020 校関係協力者
- 教師教育研究 第28号「神戸女子大学の教職支援センター設置の経緯と現状」
（全国私立大学教職課程研究連絡協議会）2015
- 阪神教協リポート No.41
「再課程認定申請への取り組み」2018
- 「教員を育て磨く専門誌 SYNAPSE Vol.73～」
（ジダイ社）2020～連載中
「教職課程運営改善の視点
—事務職員の立場で、何にどう取り組むか—」

学会及び社会における活動等

日本教師教育学会
大学教務実践研究会 教職課程事務プロジェクト・コアメンバー
名古屋大学高等教育研究センター 教務系 SD 研究会運営アドバイザー

取材・文責 豊田 千晶（企画広報委員）
取 材 芝野 晴夫（校友会事務局長）
写 真 松本 晴名（校友会事務局）

コロナ禍で撮った短編映画が 世界7カ国22映画祭で公式セレクション、 7つの賞を受賞。

■「待っていても映画はできない」とにかく制作をスタート
2022年、コロナ禍でクリエイティブ業界全体が打撃を受ける中…元気を出して前を向こうと、感染予防を徹底しつつ短編映画を制作しました。
タイトルは『今日が世界のすべて』。
映画、演劇、音楽の各分野から有志が集結。
世界的な特殊メイクアップアーティストにもご参加いただき、少人数・低予算・短スケジュールながら密度の高い作品が完成しました。

■会えないもどかしさを埋めるスタッフ&キャストの情熱
オーディションをはじめ本読み、衣装合わせ、ロケハンなどすべてオンライン（Zoom）で強行。
屋外ロケの日が初めて全員リアルに顔合わせした日でもありました。
それでも長くチームを組んでいたようにスッと撮影に入れたのは、会えない間も作品に気持ちを注いでくれていた皆さんのおかげだと思っています。

■欧米の映画祭で好感触
完成後はヨーロッパ映画祭で最優秀短編ドラマ賞、カンヌショートで監督賞ノミネート、ニューヨークシネマトグラフィーアワードで最優秀プロデューサー賞など、22の映画祭でセレクションや受賞を果たしました。
またオンライン上映が主流の中、にいがたインディーズムービーフェスティバルでは念願の映画館上映を果たし嬉しかったです。



<主な受賞>

- ヨーロッパ映画祭(英):最優秀短編ドラマ賞
- DMOフィルムフェスティバル(米):オーディエンスチョイス賞/フェスティバルチョイス賞(W受賞)
- NYシネマトグラフィーアワード(米):最優秀プロデューサー賞
- ゴールデンハーベスト映画祭(日):最優秀SF賞など

<その他>

- カンヌショート(仏):監督賞ノミネート
- LAシネマトグラフィーアワード(米):ファイナリストなど



撮影&プロデューサー
黒瀬 政男
大阪芸術大学/映像学科/1977年卒業

映画、テレビ番組の制作に携わり、1992年よりフリーランスとして活動。
2000年に黒瀬映像演出事務所を立ち上げ、現在に至る。



監督&脚本
大間 栄美
大阪芸術大学/映像学科/1987年卒業

大阪を拠点に映像作品の演出・脚本に携わったのち、上京。
コラム・広告コピー・ディレクションなどジャンルを超えて活動中。
リクルート系広告では、のべ3,000社以上を担当。



『今日が世界のすべて』
(英題: The world is only Today)
上映時間/約16分
スタッフ/監督&脚本:大間栄美 (V83)
撮影&プロデューサー:黒瀬政男 (V3)
録音:神吉良輔
特殊メイク:仲谷進
音楽:天宮遥 他
キャスト/つのめぐみ 山川祐里 木地谷俊行 南朋子
予告編(英語字幕)
<https://www.youtube.com/watch?v=qJrNsglDYQI>



プチギャラリー Wings

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
コミック・アート学科 美術・工芸コース

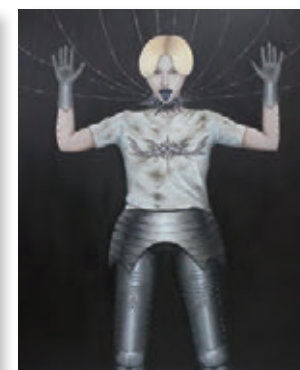
作品サイズの単位は mm



複数
青峰 法華
785×594
シルクスクリーン/ケント紙



Teenage
村松 晃生
1621×1303
油彩/キャンパス



creep
和田 蒼太
1621×1303
油彩/キャンパス



導く者
南 哉斗
260×375
木版画/和紙

共創デザインの可能性

清水 枢行

青空株式会社 代表
大阪芸術大学デザイン学科 教授

「わたしぼくデザイン」の誕生

万博が大阪で開催されることが決まり、People's Living Lab (たくさんの人たちのアイデアを交換し未来を共創していく) というコンセプトが示されました。それ以前からグランフロント大阪のナレッジキャピタルでその開発と実践をしていたこともあり、今度は大阪芸大の学生たちによる共創を2019年から始めることにしました。プロジェクトのベースになるのが、デザイン学科のハイパープロジェクト。1回生から3回生までがコースを横断し、興味のあるプロジェクトに参加する

授業です。そこで、今までは個人で行うクリエイティブから、「わたし」や「ぼく」という複数の人で行う共創のデザインプロジェクトを立ち上げました。初年度は共創の源となる、参加する人たちそれぞれの中に眠る創造力に焦点を当て、体験型デザイン展覧会をあべのハルカスのスカイキャンパスで開催し、企画や制作だけでなく運営も学生が行いながら1,000人を超える来場者が楽しんでくれたことに手応えを感じました。

万博とその先の未来のために始動

コロナ禍が落ち着いた2021年から本格的に「万博とその先の未来のための何かをつくる」というテーマだけを掲げ、ゼロから学生と1年間アイデアワークショップを毎週行いました。これは一人が発案したアイデアを一旦チームメンバーで共有し、それをそれぞれが持ち

帰り、ブラッシュアップしたものを再び持ち寄り、ひとつのアイデアとして磨き上げていきます。なので連想ゲームのように最後はどこに到達するかが分からないのが魅力。このフローを繰り返しながら、最終的に決まったアイデアは誰か一人が考えたものではなく、みんなで生み出したアイデアとなっています。そしてワークショップ続ける中で4つの方向が導き出され、「食をデザインする」というテーマの中で「世界のおにぎり」が生まれました。



「世界のおにぎり」が動き出す

世界のおにぎりは日本の伝統食である白いお米と海苔に、世界中の料理を組み合わせる新しいおにぎりです。これはまさに日本で開催される万博に世界中の人が訪れることと重なり期待が大きく膨らみました。そして如何に社会に実装していくかを模索する2022年がはじまりました。まず世界の国々のリサーチからはじまり、アイデアを出し続けた結果、その数は140種以上になりました。それを元に実際にレシピに仕上げ、試作もはじまりました。やってみて分かったことは、普段のデザインのプロトタイプングに比べ、試作して試食すればすぐにその出来を学生本人が実感できること。修正や改良を素早く行えることで完成度も毎回上がっていきます。そして次のステップとして、おにぎりを製造・販売して



いた大阪のニコニコのりさんに出向き、このプロジェクトのプレゼンやおにぎりの試食をしていただきました。そしてそのアイデア力と完成度にとっても驚かれた様子で、これからプロジェクトと一緒に進めることになり、社会実装に向けての第一歩を踏み出すことができました。

キッチンカーでの販売の1年間

ニコニコのりさんがキッチンカーを所有していたこともあり、1年半の間はさまざまな場所での販売を行いました。前回の万博の開催地でもあるエキスポシティの広場での出店に始まり、咲洲プレ万博、神戸での「キッチンカーコレクション」、なんばの「まちごと万博カーバル」、うめきた広場での「大阪産(もん) マルシェ Road to EXPO 2025」等。現場では学生が実際にキッチンカーの中でおにぎりをつくり、販売し、そしてお客さまに商品やプロジェクトを一生懸命伝え続けました。参加した学生にとっては、自分たちが考えて作り上げてきたものを、見ず知らずのお客さまが買って、うれしそうに食べてくれる姿を見ることは、普段の大学の授業の中では実感できない貴重な経験となってくれています。

遂に万博での販売が決定！

キッチンカーでのさまざまな場所の販売の途中、新聞にこの活動が取り上げられました。それを見た象印マホービンさん

が、万博の大阪外食産業のパビリオンにおにぎり屋の出店を計画しており、そこで象印さんが開発する「日本のおにぎり」と並んで「世界のおにぎり」も販売したいとの連絡があり、万博を目指し共創していくことになりました。また同時に、イギリスやスイス、オランダ等の在外公館にも開発に協力いただきながら、万博の開幕までに24種類のおにぎりの完成に向かって、レシピ開発と試作を続けていきます。まったくのゼロからはじまったこのプロジェクトが実際の万博まで繋がったことは、「想像したことは実現する」ということを身をもって学生に伝えることができたことが一番の喜びです。





清水 証行

「すべてはデザイン」という考え方で横断的にデザインプロジェクトを実践する。
デザイン学科教授 デザインプロデュースコース
大阪芸術大学 短期大学部(浪速短期大学)デザイン美術科卒業
青空株式会社 代表

aozora
QR コード

KITTE 大阪のオープニングを飾るモニュメント

「わたしばくデザイン」のメンバーが中心となり別のプロジェクトも手掛けました。旧大阪中央郵便局の跡地に建設された「JPTタワー大阪」の商業施設「KITTE大阪」です。日本郵政不動産株式会社を始めとした事業者グループから開業の2024年7月のほぼ1年ほど前に依頼があり、従来の一人の有名な作家がつくるものではなく、みんなでつくりあげるモニュメントが実現できないか?という相談からプロジェクトはスタートしました。提示されたのは「つながりのはじまり」というKITTE大阪のコンセプトだけを頼りに、日本の伝統文化の再発見や、誰にとってうれしいものにするべきか?など様々なファクターを丁寧に議論しながら発想を膨らませていきます。そんなアイデアワークショップを繰り返しながら、200以上のアイデアから6つのアイデアに集約させていきました。そしてそれぞれのアイデアはモニュメントのデザインに加えて、地域の人々を巻き込み、親しみを持ってもらうためのワークショップと共に、学生自らがずらりと並ぶ事業者の方々の前でプレゼンテーションを行いました。予想以上に考え方やデザインを評価していただき、最終的に「結び」をコンセプトに、水引をモチーフにデザインされた案が採用されました。その後、一般の方々とも梅結びの小さな水引を作るワークショップにも学生が協力し、7/31のオープニングセレモニーでは、多くのメディア関係者の前でアーティストのアイナ・ジ・エンドさんがつくった最後のひとつの水引を装着することで、遂に「結び」のモニュメントが完成しました。

.....
共創プロジェクトを続けることで思うことは、チームスポーツと同じで、個人の可能性と視野を拡げるためにチームがあり、チームの力を向上させるために個人の探究があるのはクリエイティブの世界も同じだということ。これから共創デザインの可能性を探していきたいと思います。



グランドオープンしたKITTE 大阪の記念モニュメントを学生たちがデザイン



第34回関西学生対校女子駅伝大会 大阪芸術大学女子駅伝部 総合5位で全国大会出場成らず



各地からの秋の便りとともに駅伝の季節がやってきた。昨年のシーズンオフ以来の新生チームの総合力が如何に発揮されるかが見どころ。この大会は神戸しあわせの村の周回コース(1周 3.3Km・6区間 33Km)で去る9月28日(土)に行われた。

昨年の全国大会では関西勢はシード校3校(立命館大・大阪学院大・関西大)の他に9位から17位までに大阪芸大しか入らなかったため、今年の全国大会の関西勢出場校はシード校を除いて1校。この関西大会で何としても総合4位につけなければならない厳しいレースだ。

1区(6.9Km) 小倉侑々(初等芸術教育学科2年) 1区はレースの流れを作る重要区間で今年から6.9Km(昨年まで3.9Km)に伸びた。小倉選手は昨年のこの大会2区(3.3Km)で区間3位。長丁場で前を追うが10位で2区に繋ぐ。(区間24'09" 通過10位)

2区(3.3Km) 菅崎南花(建築学科3年)は昨年の全国大会の雪辱を果たしたいところ。「前半落ち着いて、後半一気に加速」。順位を上げ力強いストライドで周回。(区間10'55" 7位 通過8位)

3区(6.5Km)を担うのは青柳朋花(デザイン学科3年)。名門、市立船橋から活躍してきた実力で快走。目標としていた22'30"を上回る22'26"で、更に順位も上げて襷を4区へ。(区間22'26" 6位 通過5位)

4区(6.5Km)進藤小春(初等芸術教育学科2年)。タスキを受けた時点で先を行く兵庫大との差17"。レース後半に向けていい流れを作りたいところ。エース区間でもあるこの2周を果敢に攻め、目標タイムに近い22'54"と健闘するも兵庫大との差67"。(区間22'54" 4位 通過5位)



1区 小倉 侑々選手



2区 菅崎 南花選手



3区 青柳 朋花選手



4区 進藤 小春選手



5区 宮田 伊織選手



6区 岩本 彩乃選手

第34回関西学生対校女子駅伝競走大会 2024.9.28 神戸しあわせの村周回

区間	選手名	学科	距離	記録	区間順位	通過順位
1区	小倉 侑々	初等芸術教育2	6.9km	24分09秒	10	10
2区	菅崎 南花	建築3	3.3km	10分55秒	7	8
3区	青柳 朋花	デザイン3	6.5km	22分26秒	6	5
4区	進藤 小春	初等芸術教育2	6.5km	22分54秒	4	5
5区	宮田 伊織	キャラクター造形1	3.3km	11分02秒	3	4
6区	岩本 彩乃	初等芸術教育1	6.5km	23分10秒	8	5
total			33.0km	1時間54分36秒	総合5位	

女子駅伝部監督
中瀬 洋一

レース後の中瀬監督のこぼれ

今年はすべてに甘さがあった。夏季合宿も4回に増やして走り込んだが、今日のような結果になって本当に悔しく申し訳ない。これもすべて私の責任。もう一度立て直して期待に応えたい。いつも応援していただいてとても感謝している。

写真提供/大阪芸術大学 写真学科 2年生 川村 幸詩
文責/校友会 常任理事 留目 正丈(建築8期)

作品サイズの単位は mm

工芸学科
金属工芸コース



鸚鵡械
藤岡 温大
H150 × W230 × D110 打ち出し、彫金 / 銅、真鍮



試作零号機
江口 恵太
H600 × W1000 × D400
透かし彫り、彫金 / 真鍮、銅



陰陽の揺らぎ
津田 彩乃
H300 × W450 × D200
鋳造、溶接 / 真鍮、鉄



鍛銅打出花器
津田 彩乃
H180 × W150 × D150
鍛金、打ち出し / 銅、錫



金しいマイマイ
森 瑛
H250 × W1000 × D400
溶接、鍛造 / 鉄

工芸学科
ガラスコース



殖る
薬師寺 千誉
H230 × W600 × D200
キルンワーク / ガラス



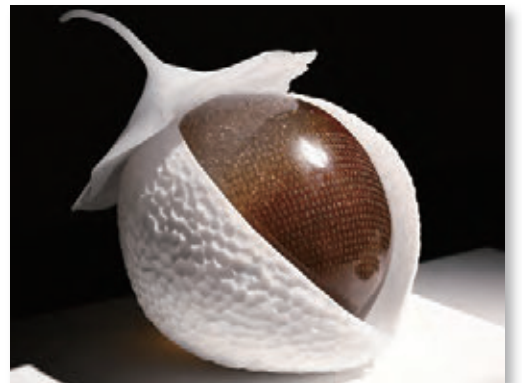
夢寐.
村川 羽奈
H300 × W100 × D300
キルンワーク、着彩 / ガラス、水彩絵具



器の大きさ
宇川 和洋
H300 × W600 × D600
キルンワーク / ガラス



Waterbuck
菊池 初音
H950 × W600 × D500
キルンワーク / ガラス、色土



ピネの公式
小畑 咲音
H450 × W450 × D450
キルンワーク、サンドブラスト / ガラス

工芸学科
陶芸コース



達磨
吉崎 沙来
H470 × W300 × D300
手びねり / 陶土



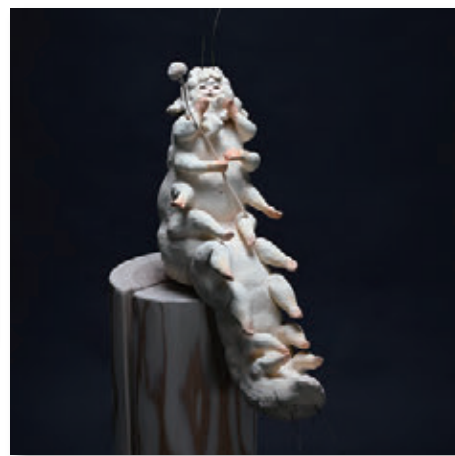
spiral
早川 陽菜
H700 × W600 × D350
手びねり / 陶土



鶏皿
藤井 毅
H855 × W460 × D495
押し型技法 / 磁土

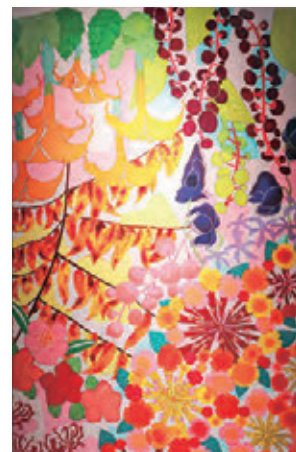


new beginning
増子 僚
H205 × W450 × D445
手びねり / 陶土



Slumber
池田 希歩
H380 × W180 × D350
手びねり / 陶土

工芸学科
テキスタイル・染織
コース



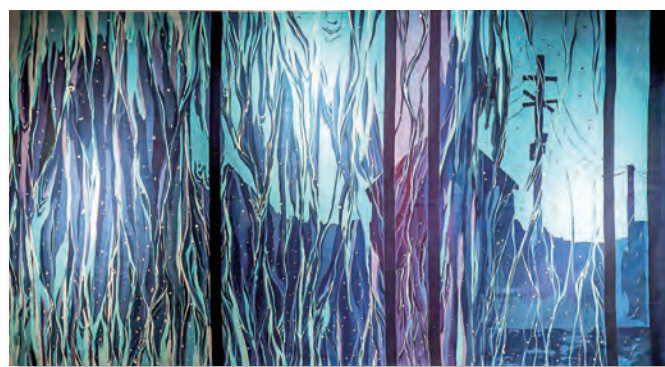
雨に染まる
畑中 音々
H1550 × W3200 × D30
蠟染め / 反応染料、綿布



乱咲
福島 愛未
H1820 × W1160 × D30
捺染 / 反応染料、綿布



探検 春夏秋冬
水味 百桃
H790 × W790 × D30
捺染 / 反応染料、綿布



涼
松田 美月
H1700 × W1700 × D20
平織 / 綿糸



幹
高椋 もえみ
H1750 × W1160 × D20
綴織 / 毛糸、綿糸

◆◆奨学生の声

大阪芸術大学 大阪芸術大学短期大学部 大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

◆大阪芸術大学 Y・R

この度は奨学生に認定していただきありがとうございます。この度は「言葉が人を縛ること」を主軸として、人生をかけて研究したいという思いを抱いています。そのため大学院への進学を希望しており、学費や院試などのために月百時間以上アルバイトをしています。また、授業前後には本や論文を読んだり、学外の学会へ勉強に行ったりしています。しかし、疲労により学びが後回しになってしまっていることもあり、自力で全てを補うことに限界を感じていました。今回奨学生として認めていただけたことで、心と体にゆとりができ、勉学に向かう時間を増やすことができました。自身の研究でたくさんの方の心を癒し、守ることができるように進んでいきます。

◆大阪芸術大学 短期大学部 I・D

幼い頃、テレビ画面の端に小さく映ったテレビカメラマンを見てカッコイイと思ったこと。これが大阪芸術大学短期大学部に入学を志望した一番の理由でした。幼い頃から憧れていたこともあり、本格的な機材を使った実習や現場で必須な知識を座学で分かりやすく教えて頂く日々はかけがえのない毎日です。

しかし、家族が高齢なこともあり学費以外にも生活費を仕送りしてもらうのは心苦しく思っていた時に、校友会の奨学金制度と出会うことが出来ました。

奨学金を頂くだけでなく、奨学生懇談会も開催して頂き、普段の生活では関われない方と出会う努力を共有しあう事も出来ました。校友会の方々には感謝しかありません。ありがとうございました。

◆大阪芸術大学 短期大学部 S・N

この度は塚本学院校友会の皆様から奨学生としての認定、奨学金の交付をしていただき誠にありがとうございます。

私は現在、映像を専攻しており卒業制作や大阪芸術大学への編入学の準備を進めています。二年生になってから夏休みを返上して卒業制作をするほど毎日が忙しく、バイトもしながらの生活は体力的にかなりの負担です。また、今年の一月に父が亡くなってしまい経済的に厳しい状況になりました。受験を控える弟もいるため、奨学生に認定していただいたことで少しでも母の負担を減らすことに繋がれるのはとても嬉しく思います。

奨学生としてさらに学びを深め、スキルアップを目指して邁進してまいります。

◆大阪芸術大学 短期大学部 S・S

奨学金をご支援いただき、心より感謝申し上げます。母と二人で生活している私にとって、今回の奨学金は生活に大きな助けとなり、学業にさらに専念できる貴重な機会をいただいたと感じております。いただいたご厚意を無駄にせず、学問に励み、ここで得た知識や経験を将来の社会貢献に生かしていきたいと思っております。今回の奨学金は私にとって大きな励みとなりました。これからも精一杯努力し、ご期待に応えられる人材になれるよう努めてまいります。改めて温かいご支援に心から感謝申し上げます。

◆大阪芸術大学 短期大学部 T・M

この度は、塚本学院校友会奨学生に認定して頂き心から感謝しております。そして、校友会の皆様とお会いして沢山のアドバイスを頂くことができ、今後の学業への励みにもなりました。私は現在、大阪芸術大学短期大学部の映像コースで卒業制作を制作中です。その為、沢山の時間と労力そして費用がかかっています。良い作品を作りたいという気持ちが強く、自分の時間を削って取り掛かっています。また、私は来年、大阪芸術大学に編入を希望しており、一人暮らしを考えています。その2つの資金として、有効に活用させて頂きたいと思っております。本当にありがとうございます。

◆大阪芸術大学 短期大学部 A・S

この度は塚本学院校友会の奨学生に認定していただき、ありがとうございます。

自分が今まで積み重ねてきた技術や知識、繋いできた縁がやっと実を結んだように感じられ、とても嬉しく報われました。

奨学金をいただき、残りの学生生活思う存分卒業制作に打ち込めると、晴れやかな気持ちでやる気に溢れています。

奨学生の認定書交付式でも人との縁が大切だとお話があり、まさにそう実感しています。

校友会の皆様と面接や交付式でお話させていただいたり、奨学生の皆様と交流し刺激を受け、成長していける出逢いをいただけたと嬉しく思います。

今回いただけたご縁を大切にこれからも多くの人々と交流し、自分の世界を広げて作品づくりに励みたいと思います。

◆大阪芸術大学 短期大学部 Y・K

奨学金をいただいたこと、本当にありがとうございます。

芸術の道を選んだ以上、学費や制作費の問題は常に悩みの種でした。特に材料や道具の購入、制作活動に必要な経費が積み重なり、経済的な制約が創作の自由度を狭めることがしばしばありました。この奨学金を受けることで、そうした負担を大きく軽減し、より自由に自分の作品に向き合うことができるようになりました。改めて、この貴重な機会をいただいたことに深く感謝しています。この恩を忘れず、精一杯創作活動に励み、成長していきたいと思っています。ありがとうございます。

◆大阪美術専門学校 Y・K

塚本学院校友会の奨学生に認定いただきありがとうございます。

入学して色々な制作にチャレンジし、現在は卒業制作に取り組んでおり、私の中で最も大きく見応えのある作品に挑戦しています。

『大きい作品こそ細部までよく見える』事から材料の質の大切さを実感しました。

今回の卒業制作では質の高い透明レジン、そのレジンの耐えられる土台の木板、主体となる大きなフィギュアの出力等、質と大きさを求めるあまりかかる費用も大きく、限りある資金とのギャップに悩んでいたところ認定をいただきました。おかげさまで妥協のない最高の卒業制作に励むことができます。

塚本学院校友会の皆様、ありがとうございます。心から感謝致します。

塚本学院校友会奨学金検討委員会からのお知らせ

学生活動支援制度

塚本学院校友会では、充実した学生生活の創造と社会にとって有用な人材の育成を図ることを目指して、学生個人として修学上有益な自主活動（以下「支援対象活動」という。）に対する支援を行っています。

支援対象活動の例示

公募展への出展、コンテスト、コンクールへの出場
※ 1 支援対象経費
支援対象活動を行うために必要な経費
但し、対象外経費に注意してください。
(詳細はしおりにて)

支援申請の対象者

(以下の要件を満たしている者)

- 1 大阪芸術大学、大阪芸術大学 短期大学部及び大阪美術専門学校の在学学生
- 2 塚本学院校友会の入会手続きを完了していること。(準会員)
- 3 学業を継続する意思と能力がありかつ学業・人物とも優秀であること

支援上限額 10 万円

支援金受給制限 年度内 1 回限り

支援申請用紙について

制度の詳細説明と支援申請書がついた「学生活動支援制度申請のしおり」は、塚本学院校友会ホームページからダウンロードするか、塚本学院校友会事務局にて配布しております。

提出方法

塚本学院校友会事務局へ直接届け出るか、郵送にて提出してください。

締切日

偶数月の末日(末日が休日の場合は翌日)
但し 12 月は第 3 週の金曜日

支援申請窓口・問い合わせ

塚本学院校友会奨学金検討委員会

塚本学院校友会 事務局

〒546-0023 大阪市東住吉区矢田 2-14-19

TEL:06-6607-1988 FAX:06-6607-7485

Email:tgkouyukai-3@giga.ocn.ne.jp

HP:http://koyukai.osaka-geidai.ac.jp



塚本学院校友会奨学金検討委員会では、大阪芸術大学グループ各校の最終学年を対象に、奨学奨助金を希望する学生を募集し、奨助金を給付しております。令和六年度は各校から合わせて10件の申請があり、書類選考・面接審査を経て8名の奨学生が認定されました。ここでは奨学生から寄せられた感想文を紹介いたします。



山本 佳奈

大阪芸術大学／キャラクター造形学科
2019年卒業

略歴

卒業後は、非常勤助手として2年ほど勤務した後、フリーランスとして活動開始。
2021年 四季賞秋 準入選受賞。
2023年 月刊ガンガンJOKER 8月号にて読み切り漫画を掲載。
2024年 月刊ガンガンJOKERにて「絵咲かなで」名義で秋頃より連載開始予定。
是非読んでいただけると嬉しいです。



四季賞2021秋
準入選受賞作品



X (旧 Twitter)
アカウント



MANGA サミット展示用のカラー絵

推薦者／大阪芸術大学 キャラクター造形学科
学科長 里中 満智子

自信は過程から

私は、2年間別の短期大学を卒業した後、大阪芸術大学へ3年生から編入学しました。幼い頃から漫画家になりたいと思っていましたが、一旦保育系の短期大学へ通い、別の分野を学ぶことで、やっぱり漫画家になりたいという思いがより強くなり、編入学いたしました。

実習授業では、自分が描いた漫画を初めて人に読んでもらいました。人生で初めてのあのドキドキと、「面白いね!」と言ってもらえたことは今でも覚えています。担当の先生とは、ストーリーを相談しながら、ネームを見せては直す作業を繰り返し、ブラッシュアップしていました。そして、プライベートで東京に行く機会があったので、その漫画を出版社に持ち込むことにし、早めに予約を抑えていました。持ち込みの日まであと1週間に迫った頃、私はほぼ完成に近い原稿を、大学で失くしてしまいました。大きな校舎の中を何周もして、3時間ぐらい探しましたが、結局見つかりませんでした。途方に暮れていたのですが、「いや、あと1週間ある。」と考え直し、残りの日程で「描いていた漫画の原稿が紛失した」というお話をテーマに、新しく漫画を完成させ、編集部を持ち込みに行きました。もちろん、評価は撃沈。一応賞に提出しましたが、箸にも棒にもかかりませんでした。

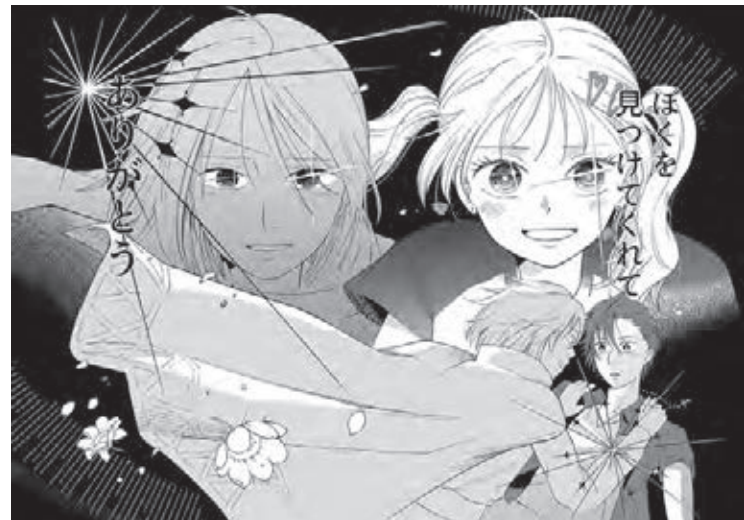
これらを後日、担任の先生に連絡したところ、「締め切りを間に合わせるのは漫画家の基本です。諦めずに完成させたことは素晴らしいです!」と励ましのお言葉をいただき、涙を流したのはいい思い出です。作品を完璧に作り込むことや、納得がいくまで直すことも大事ですが、まず最初は締め切りに間に合わせることが大事なんだと、これらの経験や先生からのお言葉で学びました。「私、あの時諦めなかった。」この自信が、今も原稿を描く力になっています。



月刊ガンガンJOKER 8月号に掲載された際の扉絵。



「ギャルおじ声優!」冒頭シーン



「ギャルおじ声優!」見開きシーン



乾 咲良 (いぬいさくら)

大阪芸術大学／初等芸術教育学科
2023年卒業

略歴

卒業後、大阪芸術大学附属幼稚園で3歳児クラスの担任として毎日奮闘。今年度も引き続き3歳児クラスの担任として勤務。



紙芝居の読み聞かせ

好き! から学んだこと

私は幼い頃から絵を描くことや廃材を使ってものの作りをすることが好きで、将来は芸術に関わる仕事ができたらどれほど幸せだろうと思い大阪芸術大学を訪れました。そんな中で私のこの「好き」という気持ちの始まりを考えた時に、幼い私のそばにはいつも、自由にのびのびと製作活動に取り組める環境があったことを思い出しました。そして今度は私が子どもの好きという気持ちを広げられたらいいと思います、初等芸術教育学科を選びました。大学では教育についてはもちろん、芸術を専門とする教授からデザインや芸術療法を学ぶ機会があり、とても興味深かったです。その中で特に印象に残っているのは美術を専門とする教授の授業です。その授業では、甘い・辛い、嬉しい・悲しいなどの味覚や感情を色に例えて塗ってみようという時間がありました。最後に他の学生と塗った画用紙を見せ合い、意見交換をすると、私が想像しなかった色を塗っている学生



戸外遊び



クレパス遊びや線遊びの原画

が沢山いて驚きました。そして教授が「同じ「甘い」でもみんな様々な色を塗っているでしょう。これからみんなが関わる子どもたちが自分と同じように見えていて、自分と同じ色で描くとは限らないよ。」と教えてくださりました。この授業は今でも忘れられません。このような多様な視点や考えを受け入れ、認めることは本当に必要なことであるし、いつまでも大切にしたいと思っています。それを教授が芸術を通して伝えてくださったように、私も子どもたちに伝えていけたらいいと考えています。また、実習やボランティア活動で実際に会った子どもたちを主役にした絵本を製本し、絵本の歴史と共に学生生活の集大成として卒業論文を発表しました。

現在は幼稚園教諭としてクラスを持ち、製作遊びの題材を考えて原画を描いたり、絵や写真を使って歌唱指導をしたり自分のできることを少しずつ増やしている最中です。そして子どもたちと向き合い、好きなことや夢中になれることを一緒に発見して喜び合えるような関わりができるよう考えながら、日々保育に取り組んでいます。

推薦者／大阪芸術大学 初等芸術教育学科
学科長 車谷 哲明



遠藤 秀一

大阪芸術大学芸術学部建築学科
1989年卒業

NPO法人ツバルオーバービュー
代表理事。ツバル国環境親善大使
(2010年～)。
環境活動家として「ニューズウィーク、
世界が尊敬する100人の日本人」
にも紹介されている。

ツバルから学ぶグランピング的 自給自足生活のすすめ

「インターネットって食べられるのかい？」飛行機のトラブルで2週間もかけてたどり着いた島国ツバル、その首相秘書官からの質問に面食らいつつも、つたない英語であれこれ説明する会議に出席したのは1998年6月のことでした。

ツバル国は気候変動と、それによる海面上昇で近い将来沈んでしまうだろうと危惧されている南太平洋にある島国です。しかし、それは専門家界限だけの話で、1万人の国民の将来を心配する人はごくわずかな時の話です。

大学卒業後就職したゼネコンの設計本部では、大学時代から目指していた「環境に配慮した建築」は受け入れられず、8年後に退社しインターネットに特化したデザイン制作会社を設立した直後のことでした。

ツバル国のトップレベルドメイン「.tv」(日本は.jp)の運営主体を決める入札に参加するために訪れた同国の首都は、手つかずの南の島の楽園というお決まりのフレーズのために存在するような美しい島でした。

講演会では「ツバルを助けてください」という話はしません。ツバルの人々のお金に頼らない暮らしぶりから学んでほしい。それをヒントにして新しい生活を始めて欲しい。という話を続けてきました。この問題はツバルだけではなく、近い将来、私たちにも大きな影響を与えることは明白だったからです。

2010年、東京から鹿児島県の山間部にある曽於市財部町に生活の拠点を移し、体験施設「山のツバル」を開設しました。食とエネルギーを自給自足し、お金への依存を最小限にする暮らしの確立をめざしています。

生活の糧を外部に依存すればするほど、地球資源を無駄に消費し気候変動に加担してしまいます。自給自足はそれを阻止するばかりか、食糧難や自然災害時に身を守ることができる暮らしです。この挑戦に多くの人が参加することは、気候変動を含む昨今の社会問題の解決への近道になると考えたのです。

食料は「自然農(＝耕さない、肥料・農薬を使わない)」で賄っています。トラクターなどの農業機器に頼ることなく、体力と時間をかけることで、ほぼ無料でお米と野菜を育てることができます。また、周囲に豊富にある森林資源を活用する薪ストーブや薪風呂、囲炉裏。竈門なども使用しています。ソーラーパネルのオフグリッドシステムも稼働しています。



築80年ほどの古民家を改修した施設。ゼネコン時代の経験を活かしてのD.I.Yによる改修は日課の1つ。



たまの贅沢の一コマ。憧れの囲炉裏ライフが手軽に楽しめる暮らし。



山のツバルの薪小屋とソーラーパネル、薪を含めて筆者の手製。手前は自然農の畑。

しかし、100%の自給自足は不可能です。デザイン制作会社からの収入で社会保障費や税金を支払い、自給できないものは購入する「半農半X」の暮らしです。それでも、お金に振り回されていた頃と比べると自由な時間が増え、四季折々の自然をたのしみながら、不安の少ないゆとりのある暮らしが実現できています。

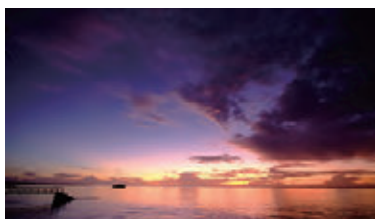
鹿児島での生活を始めて14年が経ちました。この間、気候変動は威力を増すばかりです。猛暑、巨大台風の襲来、経験のない豪雨災害などに直面するにつれ、この暮らしが、気候変動を止めるためではなく、止められない気候変動から身を守る安全保障になっていることを再認識させられます。

昨今の気候はやばすぎる、こう思っている人も多いかと思います。人材を求めている限界集落は幾多もあり、そこには、二束三文の貸家や、無料の耕作放棄地もあります。グランピング的自給自足生活に週末だけでも取り組んでみてはいかがでしょうか？多くの人が挑戦することで、私たちが直面している最大の課題「拝金資本主義からの脱却」も大きく進展すると考えています。

推薦者／企画広報委員会 委員 福留 愛生



ツバル国フナフチ環礁・首都機能がある島の空撮



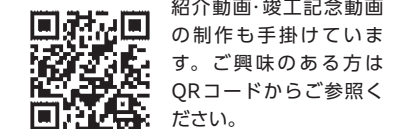
南太平洋特有の美しい夕景。



満潮時に海水が湧き出して洪水となった首都のある村。環礁島はその構造上、地盤沈下することはない。



講演会の講師依頼は随時受け付けています。また、筆者が運営している未分離デザイン研究所では、写真撮影や各種デザイン制作の他に建築学科卒の経験を活かした、建築



紹介動画・竣工記念動画の制作も手掛けています。ご興味のある方はQRコードからご参照ください。



原 俊之 (ハラ トシユキ)

大阪芸術大学 建築学科 (A97)
2001年卒業

株式会社antiqua取締役、株式会社ツリーカフェ代表取締役、WHATAWONオーナーとして、多岐にわたる分野で成功を収めています。2024年にランドオープンした次世代型キャッシュレスモールWHATAWONの革新的な運営を指揮し、幅広い顧客層を獲得。メディア出演歴も豊富で、日本のエンターテインメント業界に新たな風を吹き込むリーダーシップを発揮しています。



施設内 フードホール「グルマンズ」



施設内 物販棟「WBOX」



WHATAWON (ワタワン)
公式サイト



エンターテインメントモール「WHATAWON (ワタワン)」

自分の道を切り開く覚悟

学生時代の振り返り

高校時代、私はアメリカンフットボールに全力を注ぎ、一流大学にスポーツ推薦で入学し、大手企業に就職するという明確な目標を持っていました。しかし、怪我によってその夢は打ち砕かれました。この経験から、私は他人が用意した梯子がいつ外されるか分からないことを痛感し、自分を信じて判断し、自らの力で人生を切り開かなければならないと悟りました。この教訓が、その後の私の人生において大きな影響を与え、どんな状況でも自分の信念を貫く力となりました。

その後、私はアメフトから離れたものの、音楽に情熱を注ぎました。DJとして活動し、HIPHOP、Techno、Goa Tranceといったジャンルを通じて多くの仲間とつながり、イベントを主催して人々を集めるという新しい挑戦を始めました。この学生時代に築いた人脉と経験は、今の私の礎となっています。

現在の挑戦と未来への展望

高校時代に学んだ教訓は、今でも私の人生の軸となっています。平川商事株式会社で13年間の経験を積んだ後、2014年に独立し、現在はantiquaの取締役として事業を展開しています。そして、2022年に日本初の完全キャッシュレスエンターテインメントモール、WHATAWON (ワタワン) プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトには自己資金40億円を投入し、全てをかけました。WHATAWONは単なるショッピングモールではなく、日常を超えた特別な体験を提供する場所です。特に、2024年5月1日のランドオープンは、私にとって一つの大きな節目であり、これまでの努力が形となった瞬間でした。

大阪芸術大学を通じていただいたご縁を大切に、今後はWHATAWONの2号店の展開や、antiquaブランドの海外進出を視野に入れています。学生時代に培った経験と出会いを活かしつつ、自分を信じて進むという信念を胸に、限界を超え、常識に挑戦し続ける覚悟です。そして、今後も大阪芸術大学の卒業生や在学学生と共に、新たな挑戦やクリエイティブなプロジェクトを通じて盛り上げていきたいと考えています。



施設内 ライブ会場「floor disco ball」



施設内 温浴施設「京町湯屋 SOKOTOTO」

推薦者／企画広報委員会 委員 岡田 成生



松下 祥風 Yoshikaze Matsushita

大阪芸術大学 / 美術学科 / 彫刻コース / 総合素材 卒業年度2014年

在学時は特殊メイク研究会を立ち上げハリウッドで特殊メイク、造形を学び卒業後はゲーム会社に就職。キャラクターモデラーとしてゲームタイトルに携わる。ゲーム会社を退職後、フリーの造形作家、キャラクターデザイナーとして活動。様々なキャラクターデザインや原型に携わる。『ツムギバコ』という自身のコンテンツを個人、商業ともに展開しており、現在はクリーク&リバー社と共同でツムギバコゲーム化プロジェクト「IZON.」を自らディレクターとして指揮をとり鋭意開発中。

自分で環境を作り続けていく。

両親が大阪芸術大学出身であったこともあり幼少期の頃から芸大の話は聞いていてなんとなく憧れはあったのですが進学を決め手になったのは特殊メイクアーティストのスクリーミング・マッド・ジョージ氏が教授として在籍していると高校生の時に知った事でした。僕は小学生の頃からスターウォーズやエイリアンなどが大好きな少年でした。そんな自分に特殊メイクアーティストという職業があると当時の担任に教えてもらい、その時借りた録画された番組でマッドマッドジョージ先生の事を知りました。日本人でもハリウッドで仕事ができるんだ！と衝撃を受けたのを今でも覚えています。無事合格してから高校生の時点で何回も大学に遊びに行行って粘土で作品を作りに行ったりマッドジョージ先生の授業を受けに行ったりして大学生生活をとてワクワクしていました笑大芸に入学後は予想以上に楽しい毎日でした。美術学科の先生も気難しのかんと思ったら気さくでやりたいことを応援してくれる方ばかりで一生涯の頃は日本画や版画などやったことも無いことも経験出来てとても楽しかったです。

彫刻コースでの課題もこなしつつある日マッドジョージ先生と帰宅中に特殊メイクがそんなに好きならサークルを立ち上げたらどうだ？という話になりました。サークル立ち上げなど当然経験したこともなく大学側への書類やルール決めなど大変だったのですが同じ学科の友人を3人誘ってなんとか立ち上げることが出来ました。当時はサークルになったといっても部室もらえるのはまだ先で場所もなかったのですが彫刻コースの先生のご厚意で廊下の窪みと外の作業場を貸していただいでそこで活動していました笑 寒い中みんなで震えながら怪獣の着ぐるみの彫刻をしていたのが懐かしいです笑



廊下で制作していたころ

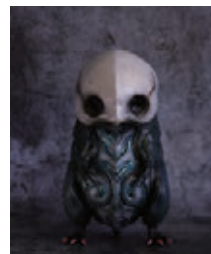
最初は4人で始めた特殊メイク研究会も後輩やいろんな学科の人も入ってきて最終的には20人くらいでプロの方とお仕事するほど成長していき、自分の中でサークル自体が大学生活の中でとても大切なものになっていました。今でもサー

クルの仲間とは仕事を振りあったり関係は続いています。大阪芸大では様々な学科がありそれらの学科と協力して映像や舞台、ショーの特殊メイクや造形をサークルで制作していたので擬似的にチームでやること、言葉の言い方、そして納期と大切な事を沢山学べたと思います。やりたい！と思ったら学科を超えてそれに挑戦出来る環境があるのが大阪芸術大学の良いところだと思いますね。



特殊メイクサークルが増えた集合写真

現在僕はキャラクターデザイナーとして活動しています。ゲームやアニメのキャラクターをデザインをしたり原型したりがメインのお仕事です。それと並行して自分のオリジナルコンテンツとして紡ギ箱というカプセルトイを展開しています。



自主制作 ブトウン



自主制作 虚人

いまはそれを原作としたゲーム開発をゲーム会社とタッグを組んでディレクターにも初挑戦しています。やりたいと思ったことに挑戦するそれを達成するための環境は自分作るという大阪芸術大学で学んだ事を活かして挑戦する事をやめないでいきたいですね。



ゲーム画面

推薦者／企画広報委員会 委員 岡田 成生

飯島一次 (いいじま・かずつぐ)

大阪芸術大学 舞台芸術学科 1978年卒業



略歴

1953年、大阪府生まれ。
1996年、九州さが大衆文学賞佳作入選。
2006年、新風舎出版特別賞受賞。
文庫書下ろしを中心に時代小説を多数執筆。
日本歴史時代作家協会理事。日本映画ペンクラブ幹事。
日本推理作家協会、日本ペンクラブ、日本シャーロック・ホームズ・クラブ各会員。



講演会にて

江戸と映画にあこがれる時代小説家

高校時代から映画ばかり観ていて、受験勉強がおろそかになり、浪人。先行きが見えないときに、大阪芸術大学が舞台芸術学科を新設と知り、演劇も好きだったのですぐに受験し、一期生として合格しました。その時に教授をされていたのが著名な映画スターのフランキー堺先生で、『幕末太陽伝』の大ファンだった私は、好きな映画や演劇の勉強が学業となることに感激しました。



梅田コマ劇場に出演

入学一年目の終わりの春休み、先生が座長として主演された梅田コマ劇場の『雲の上団五郎一座』公演に一月間、舞台芸術学科の学生数名が選ばれ、忠臣蔵のパロディに端役として武士の扮装で出演させていただきました。今思えば、私が江戸を好きになるひとつのきっかけだったのでしょうか。

卒業後は上京。当時は劇作家を志しましたが、なかなかうまくはいかず、雑誌に投稿を始めたのが小説の書き始め。1980年代にいくつか引っ掛かり、初めて書いた時代小説の短編が九州さが大衆文学賞に佳作入選し、その後大きな文学賞の最終予選まで残りましたが、簡単には本が出せず、五十歳を過ぎてようやく作家デビュー。ちょうど各出版社で時代小説の文庫書下ろしが注目された時期で、いくつも注文をいただきました。



著書



新聞連載小説

2015年には日刊ゲンダイに新聞小説を毎日連載し、これも文庫化されています。

執筆の傍ら、江戸講座の講師をしたり、落語家さんと対談したり、映画マニアなので映画館や試写室に通い、2019年からシネコラム「映画に溺れて」を続けております。



転倒事故の新聞記事

2022年に転倒事故で死に直面し、それがきっかけでペンネームを本名から「伊丹完」に改めました。そのいきさつは日刊ゲンダイに掲載されました。伊丹完名義で二見書房から『大江戸秘密指令』シリーズが六巻まで続いており、近々第七巻が出ますので、どうぞよろしく。



10月新刊『盗っ人長屋』



参照 URL
歴史行路 シネコラム「映画に溺れて」
<http://rekishikouro.jp/reading/eiga-ni-oborete/>

推薦者／校友会事務局 松本晴名

美術・特別支援教育・ICT 出会えたすべてに感謝



くぎぬき
釘貫 ひとみ

浪速短期大学デザイン美術科 平成5年3月卒業／大阪芸術大学美術学科 平成21年3月卒業／大阪芸術大学通信教育部科目等履修課程 令和5年9月修了

短大卒業後、教育関連の印刷会社へ入社。DTP、デザイン、イラストを担当。美術教員を目指し13年目に退職。大阪芸術大学に編入学し卒業。採用試験合格後、現在2校目となる、大阪府初の職業学科を設置の高等部単独の支援学校である大阪府立たまがわ高等支援学校に勤務。クラス担任と美術科を担当。2023年学芸員資格取得。
受賞歴：ICT夢コンテスト優良賞(2023)／三田市美術展入選グループ展：『嶋本昭三とゆかいな仲間たち』八尾西武百貨店1F



大阪府立たまがわ高等支援学校



ICT夢コンテスト受賞者一覧
および事例発表

18歳、美術の勉強を楽しむ日々。34歳、会社を辞め教員免許を目指し編入学。50歳には学芸員資格を目指し、働きながら1年で取得と、私には高卒後、3度の学生時代があります。

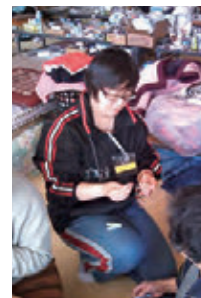


浪短時代 写真の授業で友人に撮影してもらいました

大芸では、美術指導と特別支援教育の両方を志すきっかけとなった、花篤 實 教授とご縁を感じる出会いがありました。教授の講義初日、「私と同じ苗字の人を知っていますか？」と質問され、私だけが、「仕事で知り合いました。」と答えると、実は教授のご子息であったというご縁から、交流させて頂くようになりました。

卒業後は支援学校で、非常勤講師などで勤務しながら、採用試験を受けていました。

2011年3月11日に東日本大震災が発生。私はメンタルケアの資格を持っていることから、4月に仲間と共に、福島県の避難所で、津波被害に遭われた方々にボランティアで心のケアを行う活動をしました。帰阪後、次は美術教員として支援できる事は何かを考え、翌週には同じ避難所へ1人で行き、天然石でプレスレットを作る出張教室を開催しました。「美しい石に触れている一瞬は辛い事を忘れられた」「壊れた家から出ない



ボランティアのようす
2011年4月24日付の北國新聞朝刊にも掲載されました

娘が教室のおかげで家から出られた」と喜んで頂いたことで、「美術で特別支援教育がしたい」との思いを強くし一念発起、不合格続きだった試験の勉強にも一層力が入り、2011年に39歳で念願の合格を果たしました。花篤 實 教授との出会いと出張教室での体験が、今の私の原点です。

ICT夢コンテスト2023



事例発表のようす

デザイン採用



校章
(大阪府立東淀川支援学校)

授業例



色相環を使わない色の学習とポスター作成例



着色イメージをデジタル制作し、実物のだるまに着色

授業は会社員時代のスキルをいかしてデジタルICTを取り入れ、毎年新しい授業を考案しています。昨年初めて色覚の多様性に配慮した色相環を使わない色彩学習の実践を「ICT夢コンテスト2023」に応募したところ、優良賞を頂きました。今年は美術館と生徒をICTで繋ぐ授業を考案し実施しました。

デザイン・イラストの仕事に就き、教員免許と学芸員資格を取得し、私の夢とチャレンジの可能性は大きく広がりました。支えてくださった大阪芸術大学に感謝申し上げます。



花篤 實 教授
【大阪芸術大学教授／大阪教育大学名誉教授】と2017年に撮影

私の合格をお手紙で「快挙!」と喜んで下さいました。お手紙は宝物です!

推薦者／校友会事務局 松本 晴名

書籍・CD・DVD出版

著者・出版物のご案内



BOOK まちかどの記憶とその記録のために
—神戸長田から／へー Vol.3
寄 稿——ソン・ジュンナン
(大阪芸術大学美術学科卒)
出版社——共存の場を考える研究会
※お求めは「共存の場を考える研究会
(kyouzaiken2010@yahoo.co.jp)」まで



BOOK 在日総合誌 抗路 11号
寄 稿——ソン・ジュンナン
(大阪芸術大学美術学科卒)
出版社——抗路舎
定 価——1,500円+税



BOOK 「考える力」が身につく
「育脳」立体ぬりえ
作品考案——千光士義和
(大阪芸術大学映像学科卒)
出 版 社——株式会社PHP研究所
定 価——1,500円+税



BOOK 続 鼻腔ガンになった話
未来への道 (Kindle版)
著 者——やよいかめ
(大阪芸術大学工芸学科卒)
出版社——株式会社KADOKAWA
定 価——1,089円(税込)

書籍・CD・DVD出版

著者・出版物のご案内



BOOK あなたが出逢いたいコーチにきっと出逢える!
コーチ52選名鑑
寄 稿——岩瀬美保
(浪速短期大学デザイン美術学科卒)
出版社——株式会社PHPエディタース・グループ
定 価——1,600円+税



BOOK 句集 桐箱
著 者——柴田多鶴子
(浪速短期大学保育学科卒)
出版社——株式会社KADOKAWA
定 価——2,700円+税

映画『フグとタコと僕らのミライ』
愛知県・日間賀島を舞台にした
少し不思議な青春映画 #フグタコ

2024年11月29日より、名古屋先行公開
2025年1月中旬以降、大阪ほか全国にて
順次ロードショー



【あらすじ】

フグとタコの島・日間賀島に生まれ、旅館の四代目を運命づけられた竹内大洋 (17)。夢も進路希望も特になく、ただ島の暮らしに疑問を持ち始めた高校3年生の春。どこへでも行けそうなドアの夢を頻繁に見るようになる。

ある日、名古屋から来たお客の凜空 (21) と晴香 (21) に島を案内し、夜の砂浜を一緒に過ごすことで、大洋は自分の知らない世界と繋がった気がしてトキめいた。島を飛び出し、夜の名古屋に迷い込む大洋だったが、想像していたキラキラした世界とは程遠く、パプの店長に拾われ、愛すべきダメな常連客たちに触れ、成長していく物語。

【卒業生の映画スタッフ】

監督 石川 幸典 (V97) | 録音 山下 彩 (V99)
撮影 上山 太陽 (V97) | Bカメラ 牧野 裕也 (V06)

卒業してからずっと映像の仕事が続けてきましたが、監督としては初の劇場映画になります。地元・愛知県を舞台に、芸大の仲間たちと一緒に映画をつくれたことにご縁を感じています。「映画を撮ろう」と声をかけたとき、当たり前のように手を差し伸べてくれたのはやはり芸大の仲間たちで、「作品をつくる」感覚を共有できたことにとても感慨深くなりました。今後もコツコツと映画づくりを続けていきたいと思います。

映像制作チーム
「gomaora」(ゴマオラ)

石川 幸典



放送学科 同窓会支部

支部長 松江 仁 (B7・10期)

去る令和6年2月10日、プラザオーサカにて「放送学科設立55周年記念同窓会」を開催致しました。ご来賓として、福永校友会会長や石川前学科長はじめ、放送学科教授の皆様のご臨席を仰ぎ、約100名の同窓生の方々にご出席をいただき盛大に行われました。その席上、同窓会役員の方から「この機会に本同窓会を塚本学院校友会の支部として新たに立ち上げ、校友会のご支援の下に、放送学科との連携を深め、活動してはどうか？」との提案があり、53名の同窓生の皆様のご賛同を得て、この度、支部設立の運びとなりました。設立に向けて何度も協議を重ね、ご尽力いただいた同窓会役員の皆様には大変感謝すると共に、ご支援をいただいた榊原学科長をはじめ、福永会長や芝野事務局長など校友会の皆様には、心から御礼申し上げます。



2024/2 記念同窓会・会長挨拶

今後は同窓会支部として「会員相互の交流と親睦を図り、母校と放送学科の発展への協力、在校生への支援」を目的に、様々な事業活動に取り組んで参ります。当面は年に1度開催する総会に合わせた親睦会を開催する他、



2024/8 支部設立総会



2024/8 支部総会参加メンバー

比較的若い世代の方々のご参加を目的に、ホームページの立ち上げやSNSでの発信などを計画しております。また、在校生との結び付きを作るため、様々な業界でご活躍されている卒業生の方々をご紹介出来るような情報のネットワークづくりにも努力したいと考えております。

＊次年度の支部総会・懇親会(同窓会)は令和7年5月下旬を予定しています。

この僅か数年の間に、放送業界はもとより、メディアをはじめ世界を取り巻く状況は劇的に変化しております。かつて放送学科で学び得たことも、どんどんと進化し塗り替えられております。しかし、世の中がどの様にも変わろうとも私たち同窓生の絆は固く結ばれ、いついつまでも繋がっていると確信しております。そして、その絆を大切に55周年の同窓会の会報誌で披露した「つながる! Bのわ」のキャッチフレーズの様に、これからも益々「Bのわ」が広がることを祈念し、支部設立のご報告とさせていただきます。

つながる Bのわ

会報誌題字(石川豊子・前放送学科長 書)

【支部事務局より】

今後の活動や総会・同窓会などのお知らせは準備が出来次第ホームページやSNSにて発信して参ります。また、住所変更や支部入会、同窓会へのご意見・ご希望はメールや電話にて支部長までご連絡ください。

<お問い合わせ先>

放送学科同窓会支部

支部Mail : houso.douso@osaka-geidai.ac.jp

支部長 松江 仁(B7・10期) / 携帯電話 : 090-3926-1611

写真学科OB会支部活動報告

大阪芸術大学 写真学科OB会 支部長 薩摩 嘉克

○総会の開催と卒業生によるトークイベント

永く続いたコロナ禍もようやく収束し、前回はWEBで開かれていた総会が久しぶりの対面により、2024年2月18日に大阪芸術大学写真学科大スタジオにおいて、2024年写真学科OB会支部総会を開催することができました。ホームページ、DMやSNSで連絡を受けた卒業生ら31名の出席と、140名の委任状により総会は成立いたしました。

総会では、設立から永く会長を務められ人望も厚かった奥見俊晴会長が任期を終えられ、理事会からの推薦があった薩摩嘉克氏が新会長に全会一致で承認されました。その他には、新しい組織の説明、協力金、会計報告などについても話し合わせ、2021年度より写真学科卒業制作において優秀な作品に対して贈られるOB会賞を、石川里衣璃さんの「わたしをいかすものたちへ」に贈られたとの報告もありました。学生時代には写真撮影や講義で使った懐かしい大スタジオでの約1時間にわたる会議は充実した討議がなされ閉会しました。



総会風景

総会後には、卒業生によるトークイベントが開催されました。写真家のP94小森正孝さん、鉄道空撮のP97吉永陽一さん、ギャラリー運営をされているP90篠原俊之さん、P00橋本大和さんら各界で活躍されている方々のレクチャーがあり、数々の素晴らしい作品を拝見でき、興味深いお話も伺うことができました。



トークイベント

○次回開催と公式ホームページについて

2025年写真学科OB会支部総会は、2月16日に大阪芸術大学構内で開催する予定をしております。前回からの



集合写真

懸案事項でもある当会の名称変更に関する討議などや、卒業生によるトークイベントなども検討しておりますので、写真学科OB会ホームページや卒業生同士のSNSなどでご案内をさせていただきます。また、会員数および、総会出席者の増加を考慮しており、会員の皆さまには、より多くの卒業生の方々への周知と参加の呼びかけを是非ともよろしくお願い申し上げます。

理事会では、写真学科OB会公式ホームページの有効な活用方法を模索しております。会員の皆さまが催される展覧会や出版等の案内も掲載、発信する場として、より多くの会員の方々に利用していただけるよう検討しております。

○最後になりましたが

いつも明るく、大きな声で「それや。そこやがな。ほんまにええ写真や」と学生たちを叱咤激励し、写真集「虚実空間・都市」、「空蟬の都市」、「温泉川」など数々の作品を残され、写真作家としてのこだわりを持ち続けた有野永霧写真学科元教授が令和6年5月に永眠されました。有野先生と写真について語り、指導を受けたことは深く心に刻まれています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



有野先生・最後の講義

2025年写真学科OB会支部総会

2025年2月16日(日)午後を予定 / 大阪芸術大学構内
詳細はホームページをご覧ください。



演奏学科管弦打支部

大阪芸術大学卒業生の皆様こんにちは。

徐々に生活を普通に戻すようになり、大学学内外でも演奏会等イベント活動が開催されるようになりました。

大阪芸術大学演奏学科管弦打支部では、定期的に同窓会総会及び同窓生の交流と親睦を兼ねて演奏会（大阪芸術大学卒業生による演奏会大阪芸術大学ヴィルトゥオーゾウインドオーケストラ演奏会）を開催しておりますが、2020年から開催を中止しております。

塚本学院校友会より交付金（塚本学院校友会社会貢献等支援事業）の支援を賜りましたが誠に残念ながら「2年続けて中止」との判断をさせていただきました。

同窓会総会及び演奏会については、「安心して演奏会が開催できる」と判断出来る時まで待ちたいと思います。卒業生の皆様におかれましては、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。演奏会開催の日が早く訪れることを祈り、お互いに笑顔で再会いたしましょう。

大阪芸術大学ウインド・オーケストラ第45回定期演奏会が今年度は秋開催から2月25日（火）開催に変更されました。これまで夏休み明けの開催でしたが、今年度は、一年間の学習成果発表として開催されます。卒業生の皆様も是非授業の成果を聞いて頂ければと思います。

大学では、高校生を対象に関西音楽コンクールを2023年より開催しています。このコンクールは、声楽・ピアノ・弦楽器・管楽器・打楽器と多くのジャンルで応募いただけます。

開催詳細は、(<https://oua.osaka-geidai.ac.jp/kancon>)、昨年度の結果は、(<https://oua.osaka-geidai.ac.jp/kancon/prize.html>) でご覧いただけます。

2025年も開催を予定しています。皆さんの周りにも高校生で演奏活動をされている方がおられましたらご案内ください。

大阪芸術大学主催で、「大阪芸術大学ドリーム・ウインド・オーケストラ」演奏会が開催されました。関西を中心に活躍する楽団や団体の枠を超えて集結した楽団で、今年は5月に公演を開催いたしました。詳細記事をご覧ください。

(https://www.osaka-geidai.ac.jp/topics/concert_dwo_2024)

2025年も開催予定です。



2017年 14回定期演奏会

卒業生が徐々に教員として大学に戻り後進の指導に携わっていただいています。卒業生が母校に戻り指導いただけることは、大変うれしい事です。これからの学生の成長が楽しみです。

これからの大阪芸術大学演奏会予定をお知らせいたします。

- ウインド・オーケストラ第45回定期演奏会
2025年2月25日（火）19：00 開演予定
会場：ザ・シンフォニーホール
- ピアノ・声楽・管弦打コース卒業演奏会
2025年3月 8日（土）16：00 開演予定
会場：住友生命いづみホール
- ポピュラー音楽コース卒業演奏会
2025年3月14日（金）18：00 開演予定
会場：大阪なんば hatch
- 第46回オペラ公演「魔笛」
2025年3月30日（日）14：00 開演予定
会場：兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

現役の学生の活躍をご覧ください。

入場券を希望の方はメールでご連絡いただけましたらご招待券を用意させていただきます。

e-mail : y-uemura@osaka-geidai.ac.jp 植村までお願いいたします。

文責 / 植村 悦和



2013年 同窓会総会 10回定期演奏会

保育学科支部活動報告

2024年6月15日（土）第3回 保育学科支部総会及び懇親会（同窓会）を開催しました。当日は卒業生、保育学科の先生方あわせて51名の皆さんが参加して下さり、大いに盛り上がりました。懐かしい友達、懐かしい先生、皆さんそれぞれに学生時代の顔に戻り賑やかな時間でした。

今回は2025年6月に第4回定期総会を開催いたします。残念ながら保育学科は2024年度の入学生をもって募集停止となりました。大阪学舎（矢田）での総会開催もこれが最後になるのではないかと思います。懐かしい学び舎を訪ねてみませんか。当日は保育学科の先生方も来てくださいます。ぜひ、皆さまお誘い合わせの上ご参加ください。



次回支部総会・懇親会のご案内

日時：2025年6月14日（土） 午後13：30～16：00
会場：短期大学部大阪学舎（矢田）
会費：支部会費 1,000円 / 懇親会費 1,000円
内容：総会
記念公演
懇親会（ミニコンサート）

- ◆懇親会ではお菓子、飲み物をご用意します。
- ◆学生番号 22NJ、23NJ の皆さんは会費 500円です。
- ◆懇親会のみ参加も可能です。

締切：2025年3月31日（日）
参加ご希望の方は右記からお申込みください。

【お問合せ先】
大阪芸術大学短期大学部 大阪学舎
事務室：楓井（かいで）
yuminnie.mayutan23@gmail.com



★2024年度 記念撮影★



大阪芸術大学体育会アメリカンフットボール部OB会支部

大阪芸術大学体育会アメリカンフットボール部 総監督 岡田 邦彦

1967年創部の我がバイパースの復活を信じて

この一年間 OB 会支部としての取り組みは何としても現役クラブの復活です。

放送学科の住田先生がアメフト部に大変ご関心をお寄せいただいているという話がある OB から聞き OB 会幹事長の松本君と4月8日に芸大へ出向き住田先生とご面談させていただきました。

現在休部中で現役生がいないので我々 OB が何とか復活の道を探っていくしかありません。といってもあくまでも学校の課外活動でありますので OB が勝手に学内で活動するわけにもいきません。

そんな中、学校関係者の方に参画していただけることは大きな力になります。すぐに何とかできるわけでもありませんが、今後は先生のお力添えをいただきながらあきらめず必ず復活できると信じ活動していきたいと思っております。

一つのアイデアとして次回ロサンジェルスオリンピックで正式種目となるフラッグフットボールを芸大でやることができないうかと考えております。フラッグフットボールはアメリカンフットボールの戦略性をそのままに少人数/小スペースで安全に楽しむことができるように開発されたスポーツです。「タックル」の代わりに、プレーヤーの腰につけた「フラッグ」を取るというスポーツで今や多くの小学校でも取り入れられております。

オリンピックをさかいに今回のパリオリンピックのプレイキンのように多くの人々に興味をもってもらえるのではないのでしょうか。フラッグフットボールは男女混合でも楽しめます。フラッグフットボールがおもしろくなり、もっと本格的にやってみたいという声がでてくればその時点でアメリカンフットボールをスタートするという段階的復活です。どのように部員を募集したり、また活動するとなればコーチを含め誰が運営していくのかなど様々な問題はありますが、とりあえず前に進まないで潰れてしまうだけです。こちらをご覧くださいの皆様の中の良いアイデアがあればぜひご連絡をお願いいたします。

また、機運を高めるために来年に OB 中心のパーティーを考えております。「創部 58 周年復活を夢見て（仮称）」創部 50 周年記念パーティーにはほんとうに多くの OB や関係者の方々にお集まりいただきました。バイパース愛をものすごく感じた瞬間でした。今回またその多くの方々にご参集いただくことでより大きなパワーが生まれ、復活への一歩前進になると思っております。



★校友会支部を立ち上げませんか★

塚本学院校友会支部は、校友会本部との連携をもとに、支部会員相互の親睦と母校の発展に寄与することを目的に活動しています。現在、学科支部が5支部、クラブ支部が3支部、地域支部が3支部、それぞれ活動を展開中です。

会員のみなさんも校友会支部を立ち上げて、互いの親睦を図るとともにネットワークを築き、各種イベント等を企画し、楽しく活動をしませんか。開設前の事前相談等は、お気軽に校友会事務局までお問合せください。

支部運営委員長 奥見 俊晴

校友会事務局 TEL 06-6607-1988 FAX06-6607-7485

芸弓会支部

支部長：岡田 成生

【大阪芸術大学体育会弓道部：初代主将 / 芸弓会（大阪芸術大学体育会弓道部OB会）：会長】

1982年創部。その10年後の1992年に有志メンバーによって弓道部OB会である芸弓会が誕生。会の主目的は、「現役弓道部員とOB＆OGの懇親および弓道部への支援」として発足しました。

それ以降、現役弓道部員とOB＆OGならびにそのご家族、そして時には他大学の弓道部員や弓道に関心のある方々を交えて、総会を伴う交流射会（名称：弓帝戦）を定期的に催してきました。しかし、コロナ禍により開催が休止。その後、コロナ禍もほぼ終息したとはいえ、まだまだ本格的な活動に戻れてないのが現状です。

また、交流射会の開催に至らない問題がまた一つ。それは、部員数の極端な減少です。射会という性質上、的の用意や道場使用に関わる大学との折衝など、どうしても現役部員の力を借りないと開催できない部分が多々あります。部員数の減少というのは、前述の役割を担うための一人当たりの負担が大きくなるのが容易に予想され、芸弓会としてもお願いしにくいというのが実情です。

さて、日本の「武芸十八般」の筆頭武道として挙げられるのが、弓道なのはご存じでしょうか？弓道という日本古来の武道の習得や精神的な修養、無形のものを感じ取る洞察力等々、現代人が弓道を通して学び得ることは多くの分野に及ぶものと考えます。

起業家の方で弓道をやっていた、あるいはアップルの創業者であるスティーブ・ジョブズのように大変興味を持っているといった方が多いのは、ここら辺りが関係しているかもしれません。

OB＆OGのお子様や知り合いの方で大阪芸術大学に入学される方がいらっしゃいましたら、ぜひ弓道部への入部を勧めていただけましたら幸いです。



（以下、Wikipedia より抜粋）

【武芸十八般】

合戦で戦うための技芸を武芸といった。これが基になり、柔術や剣術などが生まれた。

「武芸十八般」とは、もとは江戸時代初期に中国から伝わった言葉（十八般兵器）に由来するが、近世において武門に生きる者が修得すべきとされた18種類の武技の総称であるという。この十八の武技の内容は時代や集団により異なっているが、概ね下記の十八分類にまとめられる。いずれにおいても弓道が筆頭武道である。武士の世界で「弓馬の道（きゅうばのみち）」が武道そのものを表す言葉であるとおろ、「武士の魂」といわれる刀剣以上に、弓と馬は上位にあり武道で重要視されている。

（中略）

一．弓術・半弓術／二．馬術・騎馬術・軍馬術／三．槍術／四．剣術 … （以下、十八まで続く）

コロナ禍を乗り越え、校友会和歌山県支部が発足しました。



塚本学院校友会
和歌山県支部 支部長
久保 哲朗

令和6年6月の本部定例会にて、会員数52名で承認され、いよいよ活動開始の運びとなり、役員が選任されました。支部長に選任された「久保哲朗」ですが、昭和45年、大阪芸術大学グラフィックデザイン卒の現在75歳。私が入学した年で1回生から4回生まで揃った年で、喜志駅からスクールバスで通学したのが楽しく思い出されます。卒業後、広告代理店「大広」にてデザインからイベントまで幅広く仕事をさせて頂き、いい時代を過ごさせて頂きました。

今後の校友会県支部活動は、和歌山県から2,700名強の卒業生が出ておられます。和歌山市から新宮市まで南北に200キロの広範囲の県。個々のネットワークを生かしながら、新会員を募り規模の拡大を図りながら、地域社会により貢献出来る組織づくりに取組みたいと考えています。今後とも皆さんのご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



塚本学院校友会和歌山県支部役員名

支部長	久保 哲朗	S45 年卒	芸大デザイン
副支部長	中村 勝己	S48 年卒	芸大デザイン
副支部長	小林 正勝	S38 年卒	短大デザイン
書記	芝滝 順子	H12 年卒	芸大演奏学科
理事	橋爪 伴之	S57 年卒	芸大演奏学科
理事	東陰地正喜	H12 年卒	美専映像専攻
オブザーバー	武友 朋子	S37 年卒	短大デザイン
オブザーバー	原 久雄	S46 年卒	芸大インテリア
事務局	菊地 稔美	S47 年卒	短大英米文化
相談役	田村 昭彦	S38 年卒	短大デザイン

左から、芝滝、橋爪、小林、久保、中村、菊地、原
(撮影：堀田賢治)



たしま かづまさ
申本町長 田嶋 勝正
芸大 環境デザイン卒

大阪芸術大学の校友会和歌山県支部が、この度発足されましたこと心からお祝いを申し上げます。

早いもので私が大阪芸大を卒業して半世紀近くが経ちました。

入学当初は、大学近くの今はなき「からたち寮」で一年間を過ごしました。良き先輩、良き同期と共に、毎晩、河島英五の「酒と泪と男と女」を歌いながら酒を飲み明かしたことを、ふとした時に思い出します。因みに、当時の先輩や同期生とは今でもお酒を飲む機会があり、懐かしき昭和時代を語り合っています。

時々、テレビ和歌山で「大阪芸大テレビ」を拝見しますが、すっかり様変わりした学生・各施設を見るにつけ、大阪芸術大学がクリエイティブな芸術家を益々生み出していく予感がします。

今、私は申本町長を務めています。町内に完成した射場から、本年12月にロケットが打ち上がる予定です。お時間がありましたら、ぜひ申本町にお越しください。

和歌山県支部への入会・お問合わせ先

入学時に校友会の会費を納めているので、和歌山県支部への入会金・会費等の徴収は有りません。入会ご希望の方は、事務局までメールで、お名前（旧姓）・ご住所・〒・携帯電話・卒業校名・専攻学科・卒業年度と入会希望と送ってください。

和歌山県支部事務局 菊地稔美 / 携帯：090-3493-7039 / Mail：toshimitnc1951@gmail.com

和歌山県支部で活動や活躍されているメンバーの皆さま



演奏学科
橋爪 伴之 教授(S57 年卒)
和歌山県海南市出身



毎年恒例の橋爪門下生合宿は、紀美野町で行われています。響きが自慢、クラシック専用ホールである紀美野町文化センター「みさとホール」に、今年も美しい金管楽器の煌びやかな音色が響き渡りました。

この日は和歌山支部メンバーが集い学生を激励、うれしい第1回の会合となりました。ホール練習を終え、高野山麓の宿「かじか荘」へ。川遊びにバーベキュー、星空観察・・・ここ和歌山では、大自然の中で演奏技術以外にもたくさんのものを得ることができます。



みさとホールでは、2023年2月に大阪芸術大学演奏学科教授陣とウインドオーケストラのコンサートが行われました。満席のお客様をお迎えし大変な盛り上がりを見せ、和歌山の皆さまに大阪芸術大学のパワーをお届けできた素晴らしい1日となりました。

出演：三原剛教授（演奏学科長）、仲道祐子教授、伊勢敏之教授、橋爪伴之教授、大阪芸術大学ウインドオーケストラ、卒業生も参加

大阪芸術大学 名誉教授 持田総章 主幹のグループ Cu¹⁰⁺¹ 展が毎年8月に開催！



銅版画と絵画の作品展を和歌山県民文化会館特設会場にてR6年8月に開催されました。会員18名中、大阪芸大、短大、美専の卒業生が5名含まれています。会期最終日に、神戸から90歳になられた持田先生が来られ、出品39作品を1点ずつ講評されていました。

和歌山には塚本学院白浜研修センターもございます。全国の皆さま、ぜひ魅力満載の和歌山へお出かけください。



こんぴらさん(金刀比羅宮本宮／琴平町)



天空の鳥居(高屋神社／観音寺市)



讃岐うどん(かけうどん／うどん県：香川県)



旧香川県立体育館(設計：丹下健三／高松市)



ギリシャ風車(小豆島オリーブ公園／小豆島町)

香川県支部のご紹介

支部長：岡田 成生
(香川県東かがわ市 在住)



香川県支部は、昨年度の塚本学院校友会の12月定例役員会におきまして正式に認可いただき誕生しました。

正式名称は、『塚本学院校友会香川県支部』といいます。

活動内容は、年に一度の総会をはじめ、不定期ではありますが講師をお呼びしての講演会や勉強会、または見学会や小旅行などの実施を予定しております。

香川県支部では、同窓の皆さんの懇親、交流、情報交換など、懐かしい語らいの場を提供できればと考えております。

もちろん、支部入会に際しての会費や寄付などは不要ですし、会やイベントの参加、不参加は全くの自由です。その都度、会費制でやりますので、支部事務局からのご案内で興味のあるものがございましたら、ご参加くだされば幸いです。

香川県支部の現在の会員は、直接勧誘させていただいた方や、昨年のWINGS同封のチラシを見られた方、さらには既に入会されている方からのご紹介による参加など、70名弱(2024.10.30現在)の登録をいただいております。

香川県にお住いの校友会員は、1300名を超えると聞いています。支部活動の活発化のためにも、さらに多くの会員の方々がご参加くださいますことを願っております。

会の詳しい内容や入会申込みは、QRコードを読み込んでいただくか、ホームページをご確認ください。

香川県支部 入会・お問い合わせについて

HP <https://tgk-kagawa.com>

事務局連絡先：090-2865-4456



日本のウユニ塩湖(父母ヶ浜／三豊市)



偃月橋(栗林公園／高松市)



銭形砂絵(琴弾公園／観音寺市)

塚本学院校友会 大阪支部 活動報告

第7回を迎える「大阪芸術大学OB＆OG会」、「塚本学院校友会 大阪支部」と承認されてから第3回目の総会が令和5年11月18日(土)に開催されました。

この回は何とか開催しようと思っておりましたが、またコロナがまん延して、開催出来なくなるのではと様子を見ているうちに、例年のように9月最後の土曜日には会場を押さえることが出来ず、令和5年11月18日(土)になってしまいましたが、何とか会場を押さえることが出来、開催できました。

例年は、段々と涼しくなっていく季節の中での開催でしたが、この回は とても寒い中での開催となり、また、場所の方も、初めて 雲州堂 / IOR?I さんでの開催となりました。コロナで、会場を見つけることも難しくなり、時期の方も、また ある程度たくさんの方が来易い時期に設定しなければならず 苦勞致しました。



理事 野田 氏 作の案内状

本会は、校友会本部と連携を保ち、支部会員相互の親睦を深め、もって母校に寄与する事を目的としており、今後も学校・学部・年度の枠を飛び越え、色々なところで活躍されている仲間たちと交流し、新しい繋がりを広げて行きたいと思っております。



2次会の様子



岩本 氏 の報告



理事 植村 氏 の報告

塚本学院校友会で、大阪府に在住・在職している会員及び、大阪府以外に在住・在職している会員でも、目的に賛同して頂ける人を支部員としていますので、ぜひ、入会して頂きたいと思っております。今後も、目的達成に向け、SNS等での情報発信、見学会、発表会、後援会等を行っていきたく思っております。

次回の開催は 会場の押えが難しく、未定になっておりますので、決まり次第、SNSのFacebook(Meta)等で、連絡させて頂きます。塚本学院校友会 大阪支部 会員の皆様、また新規会員も募集しておりますので、ふるってご参加下さい。

【お問い合わせ先】

株式会社スタジオ オット 大林 誠

〒530-0047 大阪市北区西天満一丁目1-11 レーベルビル2F

TEL：06-6363-1591

E-mail：otto_say_0510@yahoo.co.jp

Facebook：https://www.facebook.com/groups/ouoa84ct/

役員の選任

支部長 大林 誠(芸大 インテリアデザイン学科)

副支部長 辻 健(芸大 グラフィックデザイン学科)

植井和彦(芸大 インテリアデザイン学科)

理事 下岡 清・吉谷武敏(お二人とも 芸大 インテリアデザイン学科)

金沢かこ・西河英里(お二人とも 芸短 インテリアデザイン学科)

野田峰子・前田千寿(お二人とも 芸大 グラフィックデザイン学科)

植村幸治(芸大 インテリアデザイン学科)

幹事 小栗高志・織田達矢・室谷丞一郎(三人とも 芸大 スペースデザイン学科)



集合写真



2017.10.8Nfc'76～'86OB会

2024年11月9日。昨年に引き続き、阿波座のLIVE HOUSE「BIG JACK」さんのご協力の下、ライブ形式（我らは音楽クラブですから）の同窓会に参加してきました。

I can't put it down!（夢中でやめられないよ!）を合言葉に、当日は忙しい中、延べ40名の有志（'76～'86の10期生）が、関西圏だけでなく東京や岡山など遠方から集まりました。20歳の成人式からうん十年経過して、3回目の成人式を迎えたりして「初老だよ!全員集合」。お互い、歳を重ねて健康が気になる話をしつつも、バンド8組、弾き語り2組の計10組が出演し、それぞれが特長ある演奏を披露してくれました。先輩・後輩の垣根を越えて交流しました。卒業生のほとんどは普段音楽から離れた生活を送っていますが、音楽を通じて瞬時に学生時代を思い出し、学生時代と変わらない空気に戻れました。音楽は一瞬で時空を飛び越えますね。



今はなき、13号館や学園祭でのコンサートなど、かなりの盛り上がりで積もる話は一次会では収まりきれず、二次会にそのまま移行…。それぞれ違った人生を歩みながらも、いつでも戻ることができる居場所として在り続け、継続して繋がりを深めていくことが今後の目標です。今回参加できなかった方も、次回またお会いしましょう。そう、この会がこれからも続きますように…。



Live House BIG JACK（阿波座）
Owner Traci さん（写真右）
住所：〒550-0011
大阪府大阪市西区阿波座1丁目13-11
電話番号：06-6536-1112

編集・文責／企画広報委員 木下淳史 撮影／企画広報委員 菅原浩司



佐藤金之助：いきなりだったので、血圧上がりましたが、ひさびさのロック系楽しいですね。何十年ぶりの皆様と会えるのも嬉しいですね。



Flash cats：懐かしい面々と再会でできて、楽しい時間を過ごせました。こういう機会があることを幸せに感じます。また、次回も楽しみにしています。水本ルミ子。



Tauko Band：メンバーが大阪と東京に分かれていたのでオンラインでの練習しかしてなかったので今日の本番がとても楽しかったです。私は30数年ぶりのバンドで懐かしい曲も歌わせていただいとてもしあわせな時間でした。ありがとうございますボーカル たうこ



puzzle：在学中はあまり交流が無かった面々が、FBで繋がったことで50歳を過ぎてからバンドをやる事になって新たな扉が開きました。今回こんな凄い先輩方の前で演奏させていただけてとても楽しかったです!!ありがとうございました。



三浦真稚（みうらまち）：とてもよい機会になりました。間違えてはしまいましたが、先輩方みなさんと同じステージにとっても光栄です。和歌山でバンド活動しています。お近くにお越しの際は声がけくださいませ。せていただけてとても楽しかったです!!ありがとうございました。



B.U.H.I.200：ありがとうございました。とてもよい機会を与えてくださり感謝します。びーこ。ありがとうございました。楽しかったです。じゅんちゃん。



Soloist



ジャーニーズ：ありがとうございました。楽しい時間でした。また、お世話になります。ようこ。楽しいLiveに呼んでいただき、ありがとうございました。くつわだ。



H.E.G.：今年も、あの頃の懐かしい顔ぶれとご一緒できて、しあわせでございます。できるときに、できることを来年もこんなひとときありますように。。。感謝でございます。濱哲哉。



SCANDAL feat.M：還暦を過ぎた今もこうして集まって音楽を楽しむなんて、学生時代には想像も出来ませんでした。楽しいひとときをありがとう！樹田聡。



メリケンバンド：ありがとうございました！あの頃に戻ったようで、楽しい時間でした。けいと。やはりライブで音を出すのは楽しかったです。しもいだ。

大阪芸術大学 建築学科 A91メンバー同窓会開催決定!!

A91メンバーは2025年、早いもので卒業してから30年。その記念イヤーに、A91メンバーでの同窓会を行います。
みなさん、それぞれの思いでこの年月を過ごされたと思います。
これを機に、懐かしい顔ぶれで集まりましょう!!

大阪芸大 A91 同窓会 実行委員会
代表 島袋佐知子(旧姓：松本)

日時 2025年**11月23日**(日・祝)
15:30~17:30 (受付 15:00~)
会場 大阪市内を予定 (LINEグループにて案内)
会費 **5000円** (予定) 寄付も受け付けています

A91のみなさんへ、ご協力をお願い

1. 広報用の**LINEグループ**にご参加ください!
2. ご存知の**同期の方**を**グループ**にご招待ください!
(または専用アドレスをご案内ください!)

LINEグループ:大阪芸大A91同窓会するぞー!

<https://line.me/ti/g/YA7gPC8qwg>

確認のため、参加後、トーク画面に氏名をご投稿ください。

※LINE からのアクセスが難しい場合
下記アドレスに氏名を明記の上、ご送信ください。
a91oua@gmail.com (大阪芸大A91同窓会)

この同窓会開催をA91全員にお知らせしたいのですが、残念ながら現在、連絡先が把握されておられません。
そこで、ぜひ「LINEグループへの参加」と、「同期メンバーの招待」にご協力ください。
(LINE 不可の方はメールでも受け付けています。
専用メールアドレスのご案内でも構いません)

現時点では参加・不参加は問いませんので、**まずは「お知らせの手段」を確保させてください。**

よろしくお願いします!!

プチギャラリー Wings

大阪芸術大学
芸術学部 美術学科 版画コース

大阪芸術大学

作品サイズの単位は mm



ケネス
井上サムエル
H350×W250
シルクスクリーン/ケント紙ミューレ紙



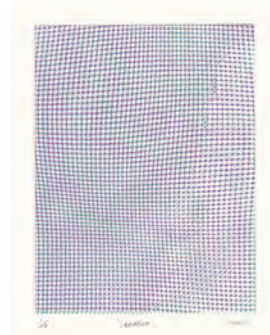
鳥は白い
井上 真輝
H100×W148
シルクスクリーン/ケント紙



お風呂嫌い
宮下 沙菜
H100×W148
シルクスクリーン/ケント紙



着ぐるみの肖像画
古家 春奈
H160×W195
銅版/ハーネミューレ紙



emotion
美好 結葵
H200×W250
シルクスクリーン/ケント紙



はんぱーぐ
伊藤 千織
H380×W280
リトグラフ/いずみ紙



TYPHOON
福神 羽咲
H300×W250
シルクスクリーン/ケント紙



オウムガイ
古川 千夏
H125×W160
シルクスクリーン/ブレダン



鯉のぼり
下野 音羽
H170×W240
木版/いらか



爆
松田 夏輝
H250×W330
木版/いらか



関係性
福本 晃大
H350×W250
木版/いらか



404
藤本 穂緒
H226×W155
シルクスクリーン/ケント紙

人人人
山本 菜月
H900×W600
リトグラフ/シルクスクリーン、ケント紙

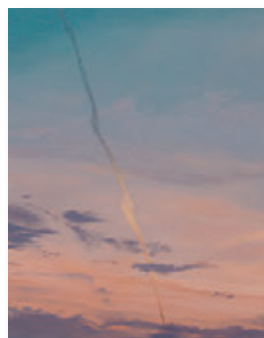
プチギャラリー Wings

大阪芸術大学

作品サイズの単位は mm



庭
辻 篤弥
H410×W320
油彩/キャンパス



「月」
山本 莉緒
600 φ
油彩、アクリル/パネル、綿布

とどけ
末竹葵
H350×W270
油彩/キャンパス



積み石
小早川 友生
H915×W730
油彩/キャンパス



Hill 4 961012 008056
木原 優大
H320×W410
油彩/キャンパス

学校法人塚本学院 大阪芸術大学グループ 創立80周年記念ロゴマークをグループ校の学生から募集し、 コンペティションで最優秀賞が決定しました。



2025年に創立80周年を迎える学校法人塚本学院 大阪芸術大学グループでは、グループ校に在籍する学生を対象に、「80」「成長」「進化」を取り入れた記念ロゴマークを募集しました。総数151件の応募があり、1次審査は大阪芸術大学、短期大学部、大阪美術専門学校の各校で、15点に絞られ、集められた45点で2次審査が行われました。審査員は、学校法人塚本学院 副理事長 塚本英邦先生、学校法人塚本学院 専務理事 亀谷眞一先生、大阪芸術大学デザイン学科 高橋善丸学科長、短期大学部 デザイン美術学科 松井桂三学科長、大阪美術専門学校 三木健校長の5名で行われ、最優秀賞、特別賞、優秀賞が選ばれました。



最優秀賞

大阪美術専門学校
総合デザイン学科
グラフィックデザインコース
西久保 愛実



特別賞

大阪芸術大学 デザイン学科
グラフィックデザインコース
葉山 実紅



特別賞

大阪芸術大学短期大学部
デザイン美術学科
グラフィックデザインコース
井上 桜華

優秀賞

大阪芸術大学 原田 千夏子	短期大学部 上田 美玖 藤井 梨緒	大阪美術専門学校 齊藤 遥
------------------	-------------------------	------------------

9月3日に大阪芸術大学スカイキャンパスで行われた授賞式では、塚本英邦先生により賞状が読み上げられ、受賞者に賞状と目録が手渡されました。授賞式後には懇親会も催され、参加した学生たちは、展示された作品を前に意見を交換し合うなど、交流を深めていました。

最優秀賞 西久保 愛実インタビュー

——最優秀賞を受賞した感想について

最初に先生からお電話をいただいたときは、本当に驚きました。まだ実感が湧かない部分もありますが、素直にとっても嬉しいです。制作の段階では、ぎりぎりまで形や色にこだわり、いくつもパターンを作りながら「本当に完成できるのかな？」と思う瞬間もありました。先生方や友人たちに助けてもらい、ようやく完成させることができました。これまであまり挑戦してこなかった表現方法にも挑戦した結果、このような賞をいただき、評価していただけたことを本当に嬉しく思っています。この経験が無駄にしないように、これからも精進を重ねていこうと思います。

——ロゴマークの制作について

80年続いていることは本当にすごいことで、想像を超える長さだと感じました。これまでの80年の歴史を大切にしつつ、これからさらに発展していけるようなデザインにしたいと思い、その勢いを意識して制作しました。ロゴマークの3つの丸はそれぞれ大阪芸術大学、大阪芸術大学短期大学部、大阪美術専門学校を表現し、これら3つが1つの中心から伸びていくように、平面的ながらも躍動感のあるイメージを意識しました。また、配色についても、学校法人塚本学院 大阪芸術大学グループの4つの幼稚園の機関カラーも取り入れて、全体が調和するよう意識して制作しました。



このロゴマークは、創立80周年の広報物やポスター、広告など、今後様々なシーンで使用される予定です。

特色ある学科と4年制大学卒を視野に学べる大阪芸大短大部！



近年は少子化の影響をますます受け全国的にも地方の大学や女子大学とともに短期大学は逆風の最中、厳しい状況に立たされている中ですが、活発に躍動しています。伊丹学舎のメディア・芸術学科、デザイン美術学科の近況をお伝えします。

メディア・芸術学科メディアコースは、今年度より専攻の一つを「先端メディア専攻」に改称しました。世の中ではSNSなど新しいメディアが浸透して、個人が社会に向けて広く発信できる時代になり、企画から取材力、撮影、編集などの幅広いスキルに「伝える」力を鍛える学びがスタートしました。「バズる」表現を撮影～編集、投稿まで高機能スマホ1台あれば完結できるユニークな授業も組み立てられています。またメディア・芸術学科ではメディアコースの先端メディア、広告、放送、映像の4専攻と舞台芸術（身体表現専攻・舞台制作専攻）や声優コース、ポピュラー音楽コース・ポピュラーダンスコースなどの計5コース9専攻から成り立ち、1つのコース・専攻で専門的に学びながら、学科内の他コースの授業も履修できる利点を活かし、専門的な学びと幅広い知識やスキルを身につけることが可能な全国的にも珍しい特色で取り組んでいます。



メディア・芸術学科 メディアコース「先端メディア専攻」

一方、デザイン美術学科でも、ドローンクリエイターズコースを新設しました。国家資格「2等無人航空機操縦士」取得が可能とし、空撮や写真映像等を組み合わせた新たな表現を追求していきます。またデザイン美術学科では次年度よりグラフィックデザインコースにグラフィックデザイン専攻とデジタルデザイン専攻を設け、イラストレーションコースを独立してスタートします。他にもアニメーション・デジタルクリエイションコースへ改称するなど時代のニーズに合うよう常に改編しています。大きな特徴としてはこちらも1学科に9コース12専攻設けておりコースを決めずに受験できることです。入学後にそれぞれのコースの授業を学んでから自分に合うコースを選択していくことができ全国的にも珍しいカリキュラムで展開しています。



デザイン美術学科 ドローンクリエイターズコース

どちらもさまざまな領域を学ぶことで殻にとらわれない新しい表現で作品を作り出していくところが魅力といえます。また本学では短大卒業後に就職のほか、大阪芸術大学に内部推薦で3年次編入する学生も増えています。卒業してもまだ20歳。あと2年学ぶことで大学卒業資格も得ることが出来るため4年制大学も視野に入れながら、就職か進学を選択出来ます。編入学を利用するとトータル4年間の学費も抑えられるところにもメリットがあります。

プチギャラリー Wings

大阪芸術大学短期大学部
デザイン美術学科 絵画・版画コース

大阪芸術大学短期大学部

作品サイズの単位は mm



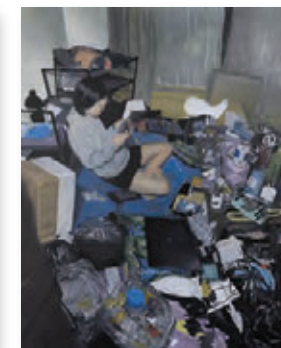
巡る想い
酒井 心美
970×1620
油彩/木製パネル、麻布



森然
尾川 悠宇
1620×2606
油彩/キャンバス



情景
加来 真由香
970×1303
油彩/キャンバス



逃避
北川 梨々香
1620×1300
油彩/キャンバス



群集人猿図
三崎 玲奈
1120×1620
油彩/キャンバス



Loved bird
大島 帆加
544×726
シルクスクリーン/紙



ふてぶて
立川 知沙
305×450
木版/紙



好きな赤
鶴 桃佳
280×210
リトグラフ/紙



night mare
松下 千尋
240×180
エッチング、アクアチント/紙



wrapped
田村 琳空
726×544
シルクスクリーン/紙

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

B棟がアツィ——モノづくりの建物

本校は1981年(昭和56年)設立され、A、B、C棟という3棟の建物から成ります。A棟とC棟は隣接し、阿倍野区にあります。

B棟は近鉄南大阪線の高架下をくぐり抜けて、徒歩5分程度の東住吉区にあります。阿倍野区の道路拡張工事の立ち退きエリアとなり、少し離れた場所に移転した次第です。1987年(昭和62年)設置以降、「工房棟」の愛称で認知されて、今や5階建ての建物のすべてのフロアに名称をつけています。

1Fは陶芸工房と金工工房、2Fはマンガ工房、3Fは版画工房、4Fはフィギュア工房、5Fはアニメ工房です。

JR美章園駅と近鉄河堀口駅から徒歩5分以内で建物にたどりつく、交通の便がよい専門学校と言えます。他の大阪市内にある同じく交通の便が良い専門学校とは、一味違う雰囲気がこのB棟での学びです。個室の空間に先生と少人数の学生がいる匠の世界です。

1Fから見てみましょう。手で土が捏ねられ器や形になっていく。ガスバーナーで金属を溶かす、金槌で金属をたたいて、太陽光に照らされきらきらと輝く表面ができていく。

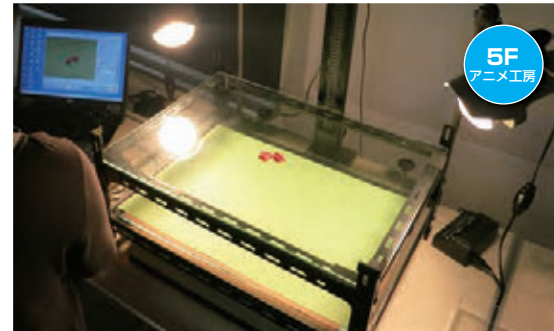
2Fにあがると壁一面の漫画に囲まれたそこは仕事場。原稿用紙にアナログでマンガを描く人。液晶タブレットに向かってデジタルでマンガを描く人。そこにあるのは静寂そのもの。しかし彼らの頭の中では、キャラクターがしゃべり、動き回っている。

3Fはドアを開けるとプリントクリーナーの匂いに包まれる。凹版凸版精緻な作業から生まれる版画。

4Fは棚の上に動物、人形、玩具など楽しいフィギュアが。刃の先を器用に使い、粘土で立体造形していく。その小さな作品にエアブラシで着色していく。ひとつひとつの制作過程が空間を捉える作業です。

エレベーターで最上階の5Fに上がります。窓には黒の天幕が下りています。カメラを高い所に固定して、台の上に粘土の作品を置き、動かして撮影、動かして撮影、動かして撮影。コマ撮りアニメの制作。

「工匠」たちの建物、それがB棟です。ワクワクドキドキを感じながら自分のコンセプトを「見える化」し、そのモノづくりの風景が1枚の絵になる授業です。学生たちには、プロの先生方からしっかりと専門技術を学び、それを修得して、「生」きるを「学」んでほしいと願ってやみません。学生たちにとってB棟で過ごした時間がかけがえのないものになることを願っています。



昨今、「教員不足」が問題になっています。

それは、団塊の世代の定年退職者が多い中、新卒での教員希望者が少なくなっている傾向が理由にあります。

少子化ではありますが、少人数クラスの導入など教育に力を入れている地域も増えてきています。

特に、公立の中学校・小学校は、産休・育休・病欠など先生の代わりに、年度途中からでも、講師を募集しているケースも少なくありません。

大学在学中に、教員免許を取得したが、教員にならなかった方も、これから教員を目指してみてもいいのではないでしょうか？

教員になる方法は次のとおりです。

〈公立の場合〉

1) 教員採用試験を受ける

各自治体の「教員採用試験」のウェブサイトを確認してください。
社会人経験者枠などもありますので、受験資格などを確認してください。

2) 常勤・非常勤講師になる

各自治体の教育委員会に問い合わせてください。
講師の場合、年度途中から採用されるケースもあります。

〈私学の場合〉

私学は、各学校での採用となりますので、学校のウェブサイトを確認してください。
募集時期、内容、選考方法も学校毎に異なります。

※いずれも、採用条件・年齢制限に気を付けて下さい。

大阪芸術大学 就職課

坪田さんにはよくお会いしました。大体がお酒のある席だったと思います。いつが初めてだったか記憶は定かではありませんが、初対面だった時からあの笑顔で話しかけてくれたように覚えています。今となってはそれ以外の情景は思い出すことができません。それから30年、いつも笑顔でお付き合いいただきました。坪田さん、ありがとうございました。

大阪中之島美術館 館長 菅谷 富夫

坪田先生との出会いは1985年。当画廊での個展以外にも海外のアートフェアに幾度もご出品頂き、高い評価を得て参りました。版画はもちろんのこと、先生は油彩での制作を大切に思われていたように感じます。それらのマチエールは時間を重ねるにつれ格調高いものへと育っていくと話しておられたことが印象に残っています。時とともに先生の作品は生き続ける事を信じています。

山本美術 代表 山本 武夫

“坪田先生と私の約束”

私が大阪芸大を卒業して帰国する際に、先生から提案がありました。一年で制作した作品数を毎年競争しよう。私が毎年負けていましたね・・・あの約束は今も有効ですよ。先生の教えを頂けた事をすごく幸運だと思っています。

韓国の弟子 押

韓日現代ART交流会 会長 安 永燦

坪田先生、長い間お世話になりありがとう御座居ました。卒業後生え抜きで研究室に残られ卒業生最初の専任教員、助教授、教授に就任された先駆者で、その後を私も歩かせて頂いた一人です。「ちょっと行く?」と気軽に声かけ頂いて、「おでん屋」「スナック」「BAR」に行き着く頃、気がつけば大先生から学生まで坪田さんを囲んでました「坪田ゼミ」終了。

元大阪芸術大学附属大阪美術専門学校 教授

塚本学院校友会 副会長 松井 公一

坪田先生と初めてお会いしたのは大学一年生の終盤、版画を専攻することについて相談に伺ったときでした。在学中も、卒業後に訪ねた日にも、先生の作業場にはいつも作りかけの作品がありました。今年もようやく涼しくなって、一緒に鍋を囲んだ夜を思い出します。先生、今はどんな作品を作っていらっしゃいますか?

大阪芸術大学 美術学科 版画コース

講師 宮本 承司

もう会えないと思えなくて、またすぐ会える様な気がしてならない。これから先、こんなに長く、親しく付き合ってください人とはもう出会わないだろうと思う。絵のことは話さないけど、毎日版画している後ろ姿を見ていた。こんなにひたむきに制作できるものかなと感心させられていた。そんなことを考えていると、本当にもう会えないのだと思い知らされる。

大阪芸術大学 美術学科 版画コース

教授 安井 寿磨子

中馬泰文・田中孝・出原司の他に、濱田弘明、故中路規夫の各先生方に京都より、大阪芸術大学デザイン学科、美術学科の版画の講師として出講をお願いしてありました。



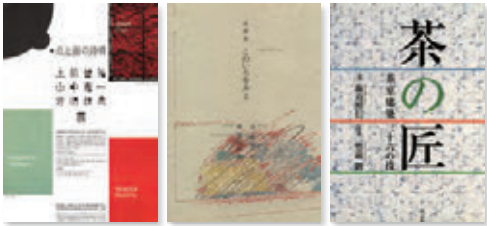
織部ぐい呑み 作陶 2023年



2018年10月 小さなギャラリー庵にて(茨城)



Penetration-119 H38.3 x 51cm silkscreen on paper 2018



①点と面の詩情 上前 智祐 山中 嘉一 坪田 政彦 展 和歌山県立近代美術館 2008年

②詩画集 このいろをみよ 詩 金田 弘 画 坪田 政彦

③茶の匠 文 飯島 照仁 写真 竹前 朗 淡交社 刊 2002年 表紙・大扉 装画 坪田 政彦 描・点・描(部分) 制作=2001年

①②③デザイン・構成 田村 昭彦

訃報 坪田政彦さんを偲ぶ

私の仕事場には 坪田作品が3点在る。坪田さんが、どんな気持ちで描いたのか、どんな苦労があったのかは知らないままである。私は20代の頃、もっとすごい作品でなければいけないという根拠のない焦りを、尊敬する坪田さんにぶちまけていた。そんな私に対して、坪田さんは、静かにうなずきながら、「明日を憂えては いけない。」と論していたのだと思う。

美術家 呉本 俊松

大阪芸大で版画を教えられていた泉茂さんと、京都芸大で版画を教えられていた吉原英雄さんが、瑛九氏をリーダーとするデモクラート美術家協会の同人であり、時代の苦楽を共有されていたという経緯もあって、両校の交流は密なものがありました。そんな流れの中で、坪田さんは、いつも頼りになる優しい兄貴でした。早すぎますよ。

京都市立芸術大学 名誉教授

京都嵯峨美術大学 客員教授 木村 秀樹

LINEを弄っていると彼との交信が残っていた。「はい何かと大丈夫です。肺がんは今のところ大丈夫ですが肝臓が悪いらしくこれからです。仕事はしていますよ。今は陶芸が面白く土曜日から日曜日に行っています。勿論、素人でロクロもキクモミもした事がないですがね。100点近いかなと思ってます」(2022年10月26日の記録)「じゃあ また」と返信出来ずにいる。

美術家 中馬 泰文

大阪芸大で教員を務めていたのは平成6年からの数年間だったが、度々の酒席の後、終電に間に合わず、平野のマンションにお邪魔したことがある。深夜をとうに過ぎた頃、「出原君、芸術の話をしようじゃないか」と言われ、ドンと置かれた酒瓶の前に、教科書に載っていない芸術論が語られたがへべレケだったので、あまり覚えていない。

京都市立芸術大学 名誉教授

京都リトグラフ工房 主宰 出原 司

怒ったところを見たことがない。いつもおおらかで笑顔の人。近道を通ったり、要領良く一足飛びに目的地に行こうとしない。ゆっくり確かめながら一步一步着実に歩く人。休むことなく制作する人。煙草を吸う人。酒を呑み、話を聞くのが好きな人。優しい人。真似のできない大きな先輩でした。

元、大阪芸術大学 美術学科 教授 日下部 一司

「坪田は後向きに進む作家だ」

泉 茂先生がおおよそ30年位前に彼の個展のリーフレットに寄せた一節、今も頭の片隅に残っている。泉先生らしい洒脱な言回しですが、早くから堅実で繊細な作品を常に制作し続けた彼の姿勢の一端を現す名言ではないかと思っている。そんな坪さんが、僕らより先に前向きに進んでしまった。大阪が寂しくなった。

元、倉敷芸術科学大学 教授

版画家 田中 孝

カーテンコール！

浜畑 賢吉 学科長



最後の舞台「氷山ルリの大航海」カーテンコールの浜畑先生

「逝くときはさっと逝くから」と美味そうに酒を呑みながら言うことはあっても、九年前に癌を発症したこと、二年前に再発していたことなど一切伏せていたから、学科で一番お元気なのは学科長だと、みんなして話していた。実際多分酒は一番強かったろう。確かに、蔵書を劇場内に設置した本棚に移動したり、後任を準備したり、皆にいろいろなものを譲ったりしてはいたけれど、それはこうなった今だから思い当たるわけで、飄々と颯爽と、言ったとおりに「さっと」、七月二日、世界という舞台から退場された浜畑賢吉学科長。

最後の舞台は三月八日。台本、演出を担当した高円宮妃殿下原作オペラ「氷山ルリの大航海」、幕開きのナレーションでは、悠久なテーマをみごとに語り、作品も格調高く仕上がった。お連れ合いの上村香子さんによると、二月からは歩くのもままならないほどの痛みだったそうで、舞台を終え、帰宅するなり、気づかれなかったよと嬉しそうにされていたというから、とにかく辛さまは一切みせない、ほんとうの二枚目だった。

その姿をたたえあやかろうと七月二十五日、舞台芸術学科で開催したのが「カーテンコール!浜畑賢吉学科長」。さまざまな学科の先生方が顔をそろえる会場は、学科を越える交流を心掛けた先生にふさわしく、またその人柄を慕う教え子、職員の皆さんも多く集まり、献杯ではなく乾杯は、お気に入りのお酒で、呑み仲間代表!? 工藤理事のご発声、盛大な拍手でコールして、思い出話の花を咲かせた。

劇団四季に入団してまもなく、テレビドラマ『進め!青春』、「男は度胸」に主演、一躍お茶の間の人気者に。その出演料で四季の経営を支え、ミュージカル上演も提言。つまり劇団四季、ミュージカルという現代のブームの端緒を開いたのは、浜畑先生と言っても過言ではない。また紅テントの唐十郎と暗黒舞踏の土方巽の出会いに一役買っていたこともあまり知られていないが、ここでも、日本の演劇界に大きな影響を与えていたのだ。

二〇〇五年学科長に就任。それから十九年、「才能のない若者はいません」と呼びかけるのを常とし、演劇人としての現役も全うし、今生のステージをあとにされた。

「カーテンコール!浜畑賢吉学科長」は、最後のオペラのカーテンコールで、「ありがとう」という姿に、主演;浜畑賢吉(1942 - 2024)とクレジットし、フィナーレとした。

大阪芸術大学舞台芸術学科長 山本健翔

大阪芸術大学建築学科環境デザイン分野と 大学院芸術研究科 環境建築領域での学びから

建築家 故狩野忠正先生の教えと NPO 活動を通じて

かのうただまさ
大阪芸術大学短期大学部 客員教授
(一社)日本庭園文化国際研究会 代表理事
文化遺産信託研究会 理事長
塚本学院校友会 常任理事

福原 成雄

はじめに

本学環境デザイン学科元学科長、教授の故狩野忠正先生は、2001 年から 2011 年までの 10 年間、本学において、建築家という枠にとらわれない「環境建築家」としてご活躍されました。先生は、学生たちに対し、単なる建物の設計にとどまらず、建築が環境や社会に与える影響、そして建築を通して人々がどのように生活し、そしていかに豊かに生きていくかという、より広範な視点からの指導を熱心に行われました。大学内では、学科長として

教育課程の改革に尽力される一方、数々の研究プロジェクトを牽引し、学外においても、地域社会との連携や国際的な交流を積極的に推進されました。特に、阪神・淡路大震災後の復興プロジェクトへの参画は、先生の社会に対する深い関心の表れと言えるでしょう。



出会い

2001 年、環境デザイン学科の 4 代目学科長として着任された狩野先生との出会いは、私にとって忘れられない出来事でした。先生は、ご自身が元竹中工務店の設計部長でありながら、「建築家ではなく環境家」と自称されていた点が印象的でした。この言葉から、先生が単なる建物を設計するだけでなく、建築が環境や社会に与える影響を深く考えていることが伝わってきました。最初のお会いの際、先生は常にスケッチブックを持ち歩いており、そのスケッチブックには、建築に関するアイデアや、学生たちとの議論の記録がびっしりと書き込まれていました。先生の熱心な姿勢と、学生一人ひとりに向けられた温かい視線は、私たちに大きな刺激を与えました。先生の語り口は、優しさの中に厳しさが含まれており、独特の雰囲気を持っていました。学生たちの意見を尊重しながらも、時には厳しく指導することで、私たちを成長へと導いてくださいました。また、先生は、グループワークやプレゼンテーションなど、様々な場面でまとめ役や進行役を自ら務め、学生たちの活動をサポートしてくださいました。



大学院環境・建築 狩野・福原ゼミ室にて (2008 年)

大学での活動

狩野先生は、大学での活動においても、その熱意を遺憾なく発揮されました。2005 年に開催された「アーツアンドエコロジー展 2005」は、先生の代表的な活動の一つと言えるでしょう。この展覧会では、先生はディレクター兼コーディネーターとして、海外作家や本学の多くの教員を巻き込み、芸術と生態学という二つのテーマを融合させた、本学初の作品発表展を企画されました。この展覧会は、単なる作品展示にとどまらず、芸術が環境問題解決の一助となりうることを示す、画期的な試みでした。先生は、この展覧会を通して、学生たちに、建築やデザインが社会に貢献できる可能性を示し、私たちに大きな影響を与えました。

学外での活動

学生や地域住民との交流を深めるため、様々な活動に取り組んでいました。土曜会を主催し、毎回、建築、都市計画、環境など、各分野のスペシャリストを招いて活発な勉強会を開催していました。これらの勉強会は、学生たちの探究心を刺激し、専門知識の習得に大きく貢献しました。大阪芸術大学退官後は、NPO 法人「これからのまち・建築・みどりをつくる会」を設立され、子どもたちから大人までが参加できる親子でお絵かき造形教室を主催されました。この教室では、建築を通して創造性を育み、地域コミュニティの活性化を目指しました。

卒業生の活躍

故狩野先生の教えを受け継ぎ、現在も多くの卒業生が、環境建築の分野で活躍しています。

以下に卒業生の狩野先生との触れ合いと、活躍の内容の一部を紹介します。先生が残された想いは、今もなお、私たちの心に生き続けています。

「根っこから飛べ」

樋口 真規

私は 2009 年から 3 年間、大阪芸術大学大学院芸術研究科の環境建築領域で、建築家の狩野忠正先生のもとで学びました。狩野先生の最後の教え子の一人です。

私が建築学科に所属していた学部生時代、狩野先生は環境デザイン学科の学科長で、遠目から見た先生はいつも笑顔で、穏やかで優しい方という印象でした。しかし、大学院で先生の指導を受け始めると、その厳しさに驚きました。当時の私は、ゼミに行くのが怖くて怖くて、戦場に向かうような気持ちだったことを覚えています。(今だから言えますが、ゼミの日に通学電車から降りられず、終点の河内長野駅まで行ってしまったこともありました…。)

ある時、先生から茶室のスタディモデルを油土で 100 個制作するよう課題が出され、やっとの思いで作ったものを見せると、「君はこれが本当に美しいと思っているのか?」と問われました。その瞬間、自分が手抜きをしていたことに気づき、不甲斐なさや悔しさで大泣きしたことを今でも鮮明に覚えています。

特に印象的だったのは、狩野先生が教えてくださった「対象と真摯に向き合う姿勢」と「スケッチの重要性」でした。たとえば、水をスケッチする課題では、何度描いても受理されず、悩み抜いた末に琵琶湖に飛び込み、頭まで水に浸かりながら描いた泥だらけのスケッチを提出した時、先生が初めて「そうだ」と言い、課題が終わりました。

狩野先生の指導は、まるで禅の修行のようで、言葉ではなく体験を通じて学ぶ「不立文字」を体現していたように思います。実際、先生は禅に深い理解をお持ちで、その要素を芸術教育にも取り入れていたのだと思います。

先生の指導は、技術面のみならず、全身で感じ取ることがデザインひいては芸術の基本だと教えてくれました。先生自身もスケッチブックを常に携え、日常的にスケッチをしていた姿がとても印象に残っています。

先生の言葉で特に印象的だったのが「根っこから飛べ」です。研究を積み重ねると同時に、論理を超えた飛躍が創作には必要だ、という教えでした。

また、狩野先生のゼミは、造園家の福原成雄先生のゼミと共同で行われており、日本庭園や古建築の実測にも参加しました。建築の枠を超えた広い視野を養うよう促されました。

大学院の途中からは、狩野先生が代表を務める「NPO 法人これからのまち・建築・みどりをつくる会」にも関わり、先生が体調を崩されてからは事務局をさせていた

いただきました。NPO では、建築、造園の他にも瓦屋や記者、彫刻家や医者など多彩なメンバーが集い、ジャンルの垣根を超えた交流が行われていました。

NPO では「子ども造形教室」というワークショップも各地で開催しており、私もスタッフとして関わらせていただきました。先生は「子どもは未来だ」とよく言われ、創作することと同じくらい、次世代に伝えることにも情熱を注がれていました。ワークショップでは、子どもたちの自由な発想を引き出し、創作を楽しめる場が作られていました。



子ども造形教室

私の修了制作である丸い茶室 (2011 年) も、この NPO の方々の協力を得て制作しました。特に、素材となる木を大阪から岡山の蒜山まで伐採しに行ったことは忘れられない思い出です。



丸い茶室 (撮影: 康あんな)

先生は、学生たちの制作を支えるために多くの人とのつながりを惜しみなく提供してくださり、そのおかげで私も多くの貴重な出会いに恵まれました。

大阪の十三にあった先生の事務所の玄関には出入りしている学生それぞれに向けて先生が選んだ本が並ぶ本棚がありました。一人で留守番をしている時、その本を

読みながら静かに過ごした時間が懐かしく思い出されます。

東日本大震災の際には、先生と共に NPO の一員として被災地に赴きました。先生は阪神淡路大震災で自分たちが長年作り上げた神戸の街が壊滅した被害を目の当たりにした経験から、居ても立っても居られず行動されたのだと思います。

現在、私は狩野先生から学んだ建築のデザイン手法をベースに、スケッチを積極的に取り入れて、ジャンルを



スケッチ

少し私の作品をご紹介します。

●「繭のアトリエ」(2021年)は、海沿いの廃診療所に紙を使って設置したアトリエとギャラリーの機能を持つインスタレーションです。薄く軽い和紙が風や人の動きに揺れ、外の景色と内部空間を柔らかくつなぎ、訪れた人を優しく包み込みます。2012年に始まった和紙の空間シリーズの4作目です。



繭のアトリエ

●「森のシルエット(音の絵)」(2020年)は、岡山の山でスケッチした風景をモチーフに刺繍したテキスタイルです。冬芽が春を待つ力強さを、立体感のある刺繍とその造形で表現しています。2023年には第2作「full moon rabbit」を発表しました。



森のシルエット(音の絵)

●「BAKE SHOP <Quangle Wangle>」(2020年)は、焼き菓子店のビジュアルデザインです。「動物たちが森の中で大好きなお菓子の花実を見つけて"がぶっ"とかぶりつく瞬間」をキービジュアルとし、各種紙物・店内装飾ドローイング等を展開しています。



BAKESHOP
<Quangle Wangle>

●「フロッタージュ動物園」(2021年)は、街中に潜む形をフロッタージュ技法で浮かび上がらせ、それを動物に見立てた作品です。参加者を募り、街を歩きながら作品を制作するワークショップも開催しています。

横断して創作活動をしています。

また最近では、アートを活用した生活介護事業所「ぬかつくるところ」にも関わっています。ぬかびと(利用者さん)の創作活動や生活を支援しながら、日常の様子をスケッチした「みんなまいにち展」(2024年)も開催しました。



みんなまいにち展フライヤー
(ぬかつくるところ)



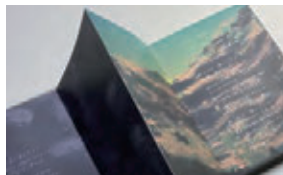
みんなまいにち展(ぬかつくるところ)

●「長島の植物と風景」(2022年～)は、2022年に国立療養所長島愛生園に滞在し制作したスケッチ群です。長島の歴史に触れるきっかけになりました。これからも長い時間を掛けて取り組もうと考えています。



長島の植物と風景(さざなみハウス)

●「音楽グループaogimirusora(あおぎみるそら)」では、アートワークを担当し、音楽とスケッチが影響し合う世界を探っています。2024年には音楽詩画集「鯨波の声」を発表しました。



音楽詩画集「鯨波の声」
(aogimirusora)

狩野先生のもとで学んでから10年以上が経ち、建築から始まった私の活動も少しずつ広がり、表現のかたちは様々に変化してきました。しかし、その根底にあるのは、先生から教わった「根っこから飛べ」という言葉です。その思いを込めて、私の屋号も「ねっこからとべ」と名付けています。

先生から学んだ様々な視点が、人々の心に深く響く作品や場所を生み出すことに繋がると信じています。

金剛バスTシャツ

2023年12月20日で廃止された金剛バス。芸大生は「芸大バス」と呼び長年、親しまれてきました。卒業生の私含め、皆さんもさみしい気持ちになられたのではないのでしょうか？

そんなタイミングで学生時代のサークル(ユースホステルクラブ)の先輩である梅津さんから一通のLINE。「芸大バスの看板でTシャツつくるけど、いる？」

10数年前に映像学科の40周年のイベントで昔の金剛バス看板をプリントしたTシャツを遊び心で1枚だけ作成したものを復活させるとのこと。動機は、重なる災害にみまわれている北陸地方に義援金を寄付できないかと思い立ったこととのこと。LINEに自撮りした御本人の写真を見て、義援金のご意向もさることながらそのデザインのノスタルジックな風合いに「是非！」と賛同しました。



発起人？映像学科卒業 梅津氏

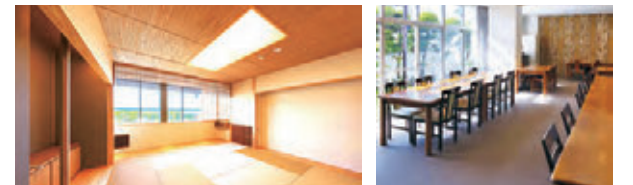


一賛同者？下村

10,964	有馬市ソフトボール協会 理事長 今金 龍	神奈川県横浜市	112,528
10,965	株式会社新橋インダストリーズ義和会	東京都北区	100,000
10,966	北橋	東京都中央区	10,000
10,967	芸大バス修Tシャツの会	東京都荒川区	30,000
10,968	アヒラ池大会	大阪府堺市	100,000
10,969	日本集団精神医学学会 第41回学術大会	東京都新宿区	122,542
10,970	アヒラ池大会	大阪府堺市	3,729

＊今回は親しい仲間に募り30枚を作成。1枚につき製作諸費+1,000円の義援金で合計30,000円を金沢市の災害募金に寄付されたようです。(HPでも掲載されていたようです。)

白浜研修センター 木村夫妻に感謝



学校法人塚本学院白浜研修センターで、19年間学生や卒業生のためにお世話くださった、木村さん夫妻が12月31日をもって、研修センターでの仕事を退かれることになりました。

学生時代、クラブの合宿等で利用された方も多いように思います。1階の食堂の壁に寄せ書きが飾られていました。「その人たちが卒業され結婚され、家族でまた来られるんですよ」と嬉しそうにお話されていました。

また、WINGS44号で研修センターの記事を掲載したところ、反響が大きく多くの卒業生が来てくださり、リピーターも増え大変喜んでおられました。私も、大変お世話になった一人です。宿泊者が私たち家族の場合は、お風呂は男性の浴室を「家族で使っていただいて結構ですから」と言われて家族で入ったのを覚えています。

白浜研修センターは、温泉も木村さんが作られる料理も最高です。妻は料理が美味しいから泊りに行こうとよく言います。最後にもう1回行こうと考えています。

木村さん本当に長い間ありがとうございました。感謝でいっぱいです。

利用者 S.Hより

白浜研修センターは、2025年1月1日以降、
当分の間休業します。

再開は4月以降の予定です。

詳細が決まりましたら各学校のホームページにて案内しますので、しばらくお待ちください。

The information of the Graduation Work Exhibition

2025 卒業制作展のご案内

※掲載写真は過去の卒業制作のものです

大阪芸術大学 卒業制作展

学内展

「令和6年度 大阪芸術大学 卒業制作展」
期間：2025年2月9日(日)～16日(日)
11:00～17:00
会場：大阪芸術大学
※同時に芸術情報センター展示ホールにて
「優秀作品展」を開催



学外展

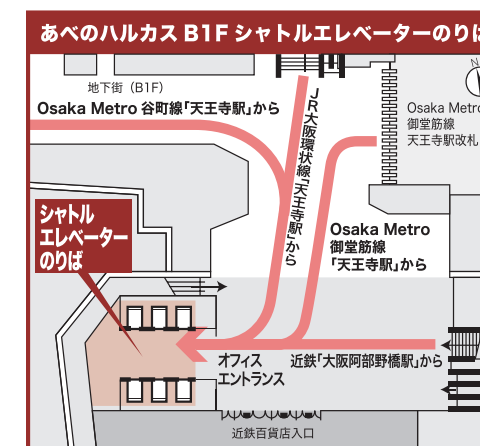
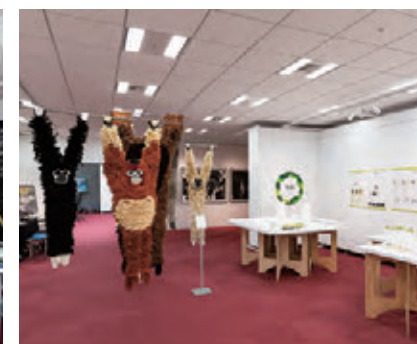
○大学院
「令和6年度 大阪芸術大学大学院 修了制作展」
期間：2025年2月4日(火)～14日(金)
11:00～19:00 (入場は18:30まで)
会場：大阪芸術大学スカイキャンパス
〔休館日 2/10(月)〕

○芸術学部・短期大学部・大阪美術専門学校
「令和6年度 大阪芸術大学グループ
卒業制作選抜展」
期間：2025年2月21日(金)～3月2日(日)
11:00～19:00 (入場は18:30まで)
会場：大阪芸術大学スカイキャンパス
〔休館日 2/25(火)〕

※詳細については、大阪芸大ウェブサイトをご確認ください。

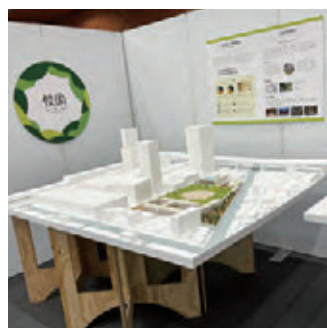
■大阪芸術大学スカイキャンパス

〒545-6090 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス 24F
TEL 06-6654-5557
※あべのハルカスには本学専用駐車場がありません。恐れ入りますが公共交通機関をご利用の上、ご来場ください



あべのハルカス B1F オフィスエントランスよりシャトルエレベーターをご利用ください。(17F オフィスロビーにて、オフィスエレベーター(低層用)に乗り換え)

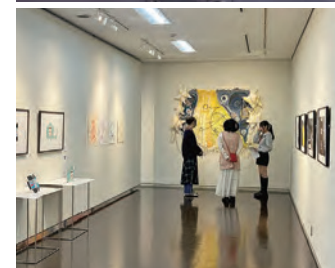
大阪芸術大学 短期大学部 卒業制作



卒業制作展：2025年2月7日(金)～2月11日(火・祝)
デザイン美術学科
メディア・芸術学科 メディアコース
2025年2月9日(日) 宝塚シネ・ピピア
メディア・芸術学科 メディアコース
映像専攻 学外上映

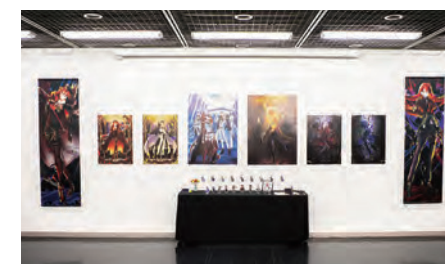
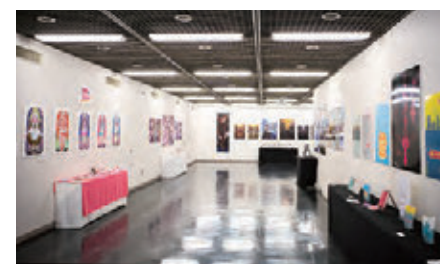
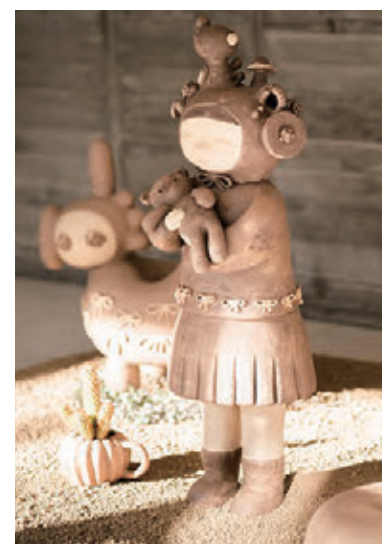
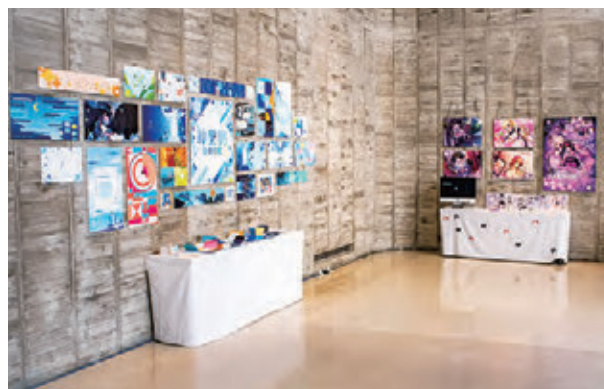
卒業公演：2025年2月27日(木)・28日(金)
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ
2月27日(木) 18時開演(予定)
メディア・芸術学科 舞台芸術コース
2月28日(金) 18時開演(予定)
メディア・芸術学科
声優コース・ポピュラーダンスコース
※現在日程、開演時間を調整中のため変更の可能性あり

卒業コンサート：3月16日(日) 16時開演
ビルボードライブ大阪
メディア・芸術学科 ポピュラー音楽コース



大阪芸術大学附属 大阪美術専門学校 卒業制作展

期間：2025年2月8日(土)～11日(火・祝)
10:00～17:00 (受付16:30まで)
2月8日(土) 10:00 オープニングセレモニー
会場：大阪芸術大学附属 大阪美術専門学校



学びのフィールド

現代芸術の多彩なフィールドを網羅する、
大阪芸大グループの令和7年度の学科編成

大阪芸術大学				
【アートサイエンス学科】 〈研究領域〉 ・アートエンターテインメント ・先端デザイン	【工芸学科】 ・金属工芸コース ・陶芸コース ・ガラス工芸コース ・テキスタイル・染織コース	【映像学科】 〈研究分野〉 ・映画 ・映像 ・シナリオ ・映像学	【放送学科】 ・制作コース ・アナウンス音声表現コース ・先端メディアコミュニケーションコース ・声優コース	【音楽学科】 ・音楽・音響デザインコース ・音楽教育コース
【美術学科】 ・油画コース ・日本画コース ・版画コース ・彫刻コース	【写真学科】 〈研究分野〉 ・ファインアート ・プロフェッショナル ・映像表現	【キャラクター造形学科】 ・漫画コース ・アニメーションコース ・ゲームコース ・フィギュアアーツコース	【芸術計画学科】 〈研究分野〉 ・アートプロデュース ・イベントプロデュース	【演奏学科】 ・ピアノコース ・声楽コース ・管弦打コース ・ポピュラー音楽コース
【デザイン学科】 ・グラフィックデザインコース ・イラストレーションコース ・デジタルメディアコース ・デジタルアーツコース ・プロダクトデザインコース ・空間デザインコース ・デザインプロデュースコース	【建築学科】 〈研究分野〉 ・建築 ・環境デザイン	【文芸学科】 〈研究分野〉 ・創作(小説・詩・脚本) ・ノンフィクション文芸批評 ・出版・編集 ・翻訳・講読	【舞台芸術学科】 ・演技演出コース ・ミュージカルコース ・舞踊コース ・ポピュラーダンスコース ・舞台美術コース ・舞台音響効果コース ・舞台照明コース	【初等芸術教育学科】

大阪芸術大学短期大学部		
【大阪学舎】	【伊丹学舎】	
【保育学科】	【メディア・芸術学科】 ・メディアコース (先端メディア専攻 / 広告専攻 / 放送専攻 / 映像専攻) ・舞台芸術コース (身体表現専攻 / 舞台制作専攻) ・ポピュラー音楽コース ・声優コース ・ポピュラーダンスコース	【デザイン美術学科】 ・グラフィックデザイン・イラストレーションコース ・空間演出デザインコース ・アートサイエンスコース ・ドローンクリエイターズコース ・アニメーション・デジタルデザイン・ゲームコース ・キャラクター・マンガ・フィギュアコース ・絵画・版画コース ・工芸・立体デザインコース

大阪芸術大学附属 大阪美術専門学校			
【総合デザイン学科(3年制)】 ・グラフィックデザインコース ・デジタルデザインコース ・イラストレーションコース		【コミック・アート学科(2年制)】 ・マンガコース ・コミックイラストコース ・アニメコース ・フィギュアコース ・美術・工芸コース (絵画・版画・金工・陶芸)	

各校の詳細はコチラ

大阪芸術大学

大阪芸術大学
短期大学部

大阪芸術大学附属
大阪美術専門学校

WINGS vol.46

執筆等、お世話になった方々

荒川 恵子 飯島 一次 石川 幸典 乾 咲良 植村 悦和 遠藤 秀一 大林 誠 大船 光洋 岡田 清子 岡本 佳世子 奏 手 候	川村 幸詩 川村 良広 喜 愛 来 釘貫 ひとみ 久保 哲朗 黒瀬 政男 今野 志穂 才村 永 坂本 ひとみ 島村 和香子 清水 征行	杉山 道夫 洲崎 英美 田中 朝子 田仲 哲也 多畑 寿城 留目 正丈 豊田 暁 中川 佳宣 中瀬 洋一 中野 木綿子 中村 勝己	中村 寧音 西村 由佳 原 俊之 HARUTO 樋口 真規 平井 直子 深田 章夫 福原 成雄 松江 仁 松下 祥風 三上 晶	mindy nunu 森 隆嘉 山崎 達也 山本 佳奈 山本 健翔 横山 裕子 りんたろうJr. 和田 俊一 若林 いぶき (50音順)〈敬省略〉
--	---	---	---	--

ウイングス編集の行程で大変お世話になりました。

塚本学院校友会 事務局 事務局長／芝野 晴夫さん 職員／柴田 稔子さん 松本 晴名さんに感謝します。

企画広報委員会									
担当副会長	竹内 美子	委 委 委 委 委 委 委 委	員	吉田 昇	委 委 委 委 委 委 委 委	員	高橋 亜希		
委員長	東陰地 正喜		員	植村 幸治		員	豊田 千晶		
副委員長	竹垣 恵子		員	楓井 由美		員	東 真一郎		
副委員長	和田 貢		員	木下 淳史		員	福留 愛生		
委員	岡田 邦彦		員	薩摩 嘉克		員	山口 俊介		
委員	岡田 成生		員	下村 宗生					
委員	田村 昭彦		員	菅原 広司					

WINGS ネットワークシステム スタッフ一覧(118名)

中村 秀輝 武田 明子 糸屋 幸 森澤 麻家 谷本 直也 滝沢 太郎 川野 雅通 江本 祐介 深山 佳嗣 永田 明日香 伊藤 華苗 松岡 智沙 上田 早紀 飯田 有加 山本 花乃子 江連 時弘 水落 誠一 才加志 実 海津 智子 中原 義郎 吉江 秀郎 高尾 行一 太田 実喬 松永 喬	中村 文治 藤森 淳司 出田 吏市 小牧 伸輔 種田 寿雄 金山 豊 渡辺 安德 唐木 孝治 林 武史 平木 円香 河原崎 貴 秦 照文 玉川 由美子 富田 信雄 富田 悦子 袴田 伸二 小川 玲子 鈴木 健司 安永 紀子 飯田 浩人 藤原 靖子 古市 真崇 作野 周史 大平 正道	水野 恵子 酒井 稚恵 宮田 聖子 皆山 武史 水島 直春 金山 直樹 和泉 智香子 十川 賀菜子 吉岡 まなこ 平澤 卓 丸尾 紘美 石川 裕敏 石川 清 下岡 愛子 山中 高志 小栗 丞一郎 室谷 純 万井 一英 河本 学 石井 哲 植村 穂 赤穂 正秀 水落 学	保坂 一穂 南山 直宏 天摩 郁子 那須 啓代 小原 慶浩 酒井 浩司 岡田 英朗 富田 英樹 坪田 昌之 篠田 美代子 宮本 明香 北田 綾花 高田 雄吉 中野 広典 森田 玲子 戸川 由子 伊藤 寛子 武田 祥子 木村 康佑 西岡 純子 松下 智幸 小出 厚子 八木 和昭 吉川 羽由	仲原 圭太 尾崎 実哉 中西 幹夫 渡邊 志津子 片岡 昭夫 金好 利美 土井 範江 三澤 浩二 山根 満広 大野 圭司 大西 洋三 高垣 昭男 室井 貴峰 中村 茂昭 井上 美奈子 田中 芳行 宮地 崇仁 藤原 薫 崎 洋一 広瀬 真理 吉田 孝則 亀井 洋一
--	--	--	---	--

編集後記

今年は職場の異動もあって個人的に何かと忙しく、役立たずの編集長でしたが、多くの方の支えもあって、なんとか年内発行にこぎつけました。本当にありがとうございました。

恒例記事「親子二代」を落とししたり、今年亡くなった詩人・谷川俊太郎さんが作詞された芸大校歌の記事も、せっかく竹垣先生が教えてくださったのに、時間切れで掲載できませんでした。他にも次年度に持ち越しになったネタを抱えながら、今度こそ余裕のある日程で充実した誌面を提供せねばと反省しております。

まずはみなさま、良いお年をお迎えください。

企画広報委員長 東陰地 正喜

塚本学院校友会設立55周年を迎えて

学院の初代理事長でいらっしゃった塚本英世先生が旗を振ってくださり、僅か数名の発起人から校友会がスタートしたとうかがっております。それから55年、今や会員数11万人を越える大きな組織となりました。これまで健全に運営を続け、活動することができたのは、何より校友会を支えてくださった諸先輩のお陰です。あらためて、お礼申し上げます。

一方で、その大元には、来年80周年を迎える塚本学院が良質な教育を地道に提供し続け、グループ各校がそれぞれ発展し、多くの卒業生を送り出してきたからこそ、今の校友会がある、ということは忘れるわけにはまいりません。ですから、校友会はこれまで同様、これからも卒業生の交流の軸としての活動を通じて、母校のますますの発展に寄与したいと考えております。

11月の記念式典では、懐かしい再会や新しい出会いがありました。みなさまの笑顔を見ているだけで幸せな気持ちになりました。

同じ学校で学んだということだけで、時代を越えて繋がれる、不思議な縁が感じられる、というのはきっと自然な感情なのでしょう。

みなさま、どうぞお元気で。また60周年でお会いしましょう。

2024.12 塚本学院校友会



「こめ」 2024 年

27.3×27.3cm パネル、ワトソン紙

油性ボールペン、透明水彩、アクリルガッシュ

久保田 晴名 (MS11038)

2012年度 大阪芸術大学大学院 博士課程(前期) 修了